

# 2024年度 海と日本ニュースプロジェクト 実施報告書

2025年3月31日  
一般財団法人うみらい環境財団

# 1 事業概要

## 1\_(1)事業サマリー

海と日本プロジェクトを情報ソースとした地方テレビ局動画の編集を行い、Web動画記事を制作すると共に報道の視点を併せ持つ独自取材編集部を設置しWeb動画を制作。動画記事を配信し海洋に関する課題及びその解決に向けた取組を広く訴求した。

発信力の強化のために、エリア事務局や一般メディアへの素材提供を意識した取材を実施。計40本を記事化し100万PVを達成した。

また、メディアへの素材提供を通じ「海と日本プロジェクト」の活動を広めるため、映像素材を撮影し動画アーカイブを作成した。

PV数 6,132,058

## 1\_(2)実施主体

一般財団法人うみらい環境財団

## 1\_(3)実施期間

2024年4月～2025年3月

## 2 ニュースサイト運用

## ソーシャル・イノベーション・ニュース <https://social-innovation-news.jp/>



ソーシャル・イノベーション・ニュース | 日本のさまざまな社会課題に取り組む「社会課題解決型ニュースサイト」

海洋危機特集 >

海洋危機特集

### 海洋危機特集

日本は、四方を海に囲まれた国です。私たちの社会や文化は、海に囲まれた環境の中で形づくられてきており、食べ物、名前や地名、祭りなどさまざまなもののが内陸、沿岸問わず海と結びついています。

しかし今、気候変動や自然災害、海洋生物資源の乱獲、生態系のバランス崩壊など、海の危機は私たちの気づかないところで広がっています。海に囲まれた日本に暮らす私たち一人一人が、

ビジネスを  
加速させる一枚  
もう一度見る

三井住友カードをお持ちの個人  
事業主様必見

三井住友カード

カテゴリ

日本のさまざまな社会課題に取り組む「社会課題解決型ニュースサイト」であるソーシャル・イノベーション・ニュースの中に、今年度も海洋危機特集コーナーを設けた。

地方取材や専門性の高いテーマにも対応できるように強化した独自動画取材チームを設置し、日本財団主催の会見や海と日本プロジェクトのイベントの模様をオフィシャルとして速報性を持つ形で伝えたり、視聴者が海を自分ごと化できるように、海に関してのストレートニュースからドキュメンタリーまでを動画記事化することで、海と日本プロジェクトについて包括的に発信する媒体となっている。

## 2\_(2)ニュースサイト記事リスト

6

No.	エリア	カテゴリ	タイトル
1	全国	伝統文化	日本の灯台群を世界遺産に！～「海と灯台プロジェクト2023成果報告会」開催～
2	全国	生態系	目に見えない脅威が迫る！？海洋化学汚染を世界中の有識者が議論～Back to Blueが主導する「有害化学物質による海洋汚染ゼロの実現」～
3	全国	生態系	アマモで醤油づくりが受賞！中高生が海に関わる研究を行う全国大会～マリンチャレンジプログラム2023全国大会～
4	全国	テクノロジー	海×3D！中学生離れたスゴイ研究成果に専門家も脱帽！～「海洋研究3Dスーパーサイエンスプロジェクト」3期生の研究発表会～
5	全国	伝統文化	書籍化に世界的な活動も視野！海ノ民話アニメ～「海ノ民話のまちプロジェクト」によるアニメーション上映会と公開シンポジウム～
6	全国	テクノロジー	運航中CO2排出ゼロ！世界初の船で実証成功～日本財団ゼロエミッション船プロジェクト～
7	全国	海ごみ	瀬戸内海の海洋ごみ問題解決へ延長して取り組み～日本財団と岡山県・広島県・香川県・愛媛県による「瀬戸内オーシャンズX」～
8	全国	テクノロジー	深海魚愛あふれるプレゼントをした小学5年生が大賞！～「深海研究スーパークリエイターズ育成プロジェクト」の研究成果発表会～
9	全国	コスプレ	コスプレイヤーが福岡でごみ拾い～「春の海ごみゼロウィーク2024」の一環として開催された「コスプレde海ごみゼロ大作戦!!」～
10	全国	調査	日本財団と東大が大量に発見！レアメタルを含む海底鉱物資源～「マンガンノジュール（マンガン団塊）」に関する調査結果の発表～
11	全国	安全・そなえ	大の字背浮きにだけ頼ってはいけない！？溺れを体験するVR！新たな“そなえ”を発信した「海のそなえシンポジウム」
12	全国	調査	75%の小学生が「海に行きたい！」と思うも行動とのギャップ判明～日本財団による第4回「海と日本人」に関する意識調査～
13	全国	安全・そなえ	水難事故防止のために溺れを疑似体験できるVRコンテンツ～日本ライフセービング協会と中央大学が開発した新たな「海のそなえ」～
14	全国	海の体験機会づくり	海がない足立区の公立小学校の児童が海体験～公立小学校への海洋学習・体験提供プロジェクト～
15	全国	海の体験機会づくり	テトラポッドをつくる会社で小学生がお仕事体験～「海のお仕事体験プロジェクトこどもわーく」～
16	全国	安全・そなえ	神奈川県鎌倉で世界溺水防止デーに行われた“水辺のそなえ”
17	全国	海の体験機会づくり	【前編】静岡県・清水港のコンテナターミナルで小学生がお仕事体験！～「こどもわーくin清水港2024」～
18	全国	海の体験機会づくり	【後編】静岡県・清水港のコンテナターミナルで小学生がお仕事体験！～静岡市、日本財団、鈴与が海の未来について意見交換～
19	全国	海の体験機会づくり	【前編】学生による海と食の未来を考える期間限定レストラン。オープンまでの3ヵ月～「THE BLUE CAMP」～
20	全国	海の体験機会づくり	【後編】学生による海と食の未来を考える期間限定レストラン。オープンまでの3ヵ月～「THE BLUE CAMP」～

## 2\_(2)ニュースサイト記事リスト

7

No.	エリア	カテゴリ	タイトル
21	広島	テクノロジー	世界初！広島県に水素エンジンの開発研究センターが誕生～日本財団「ゼロエミッション船プロジェクト」が建設した「水素エンジンR & Dセンター」～
22	全国	海ごみ	ポケモンに銀魂のキャラも参戦！お台場でコスプレイヤーがごみ拾い～「秋の海ごみゼロウイーク2024」キックオフイベント～
23	全国	海の体験機会づくり	参加は30カ国以上！「日本財団 スポGOMI ワールドカップ 2025」の開催を発表
24	全国	海の体験機会づくり	サザエさん＆モデルの香音さんが参加した海イベント～イトーヨーカドーで海と日本プロジェクト×サザエさんによる親子向けイベント開催～
25	全国	海ごみ	スーパー・キッズ9人の中で頂点に立ったのは！？～「第4回 海洋インフォグラフィックコンテスト」～
26	全国	海の体験機会づくり	直木賞作家4人も参加！有識者が灯台について語り合イベント～海と灯台プロジェクトの集大成「海と灯台サミット2024」～
27	全国	テクノロジー	国内最大！洋上風力発電の訓練センターが長崎県に誕生～日本財団洋上風力人材育成センター～
28	全国	海ごみ	優勝し東京代表となったのは!? 高校生23チームがごみ拾いでバトル!! ～スポーツGOMI甲子園2024・東京都大会～
29	全国	安全・そなえ	LNG燃料船における安全訓練を第二海堡で実施～東南アジアの船員教育関係者が訓練生～
30	全国	海の体験機会づくり	「海のごちそう？フェスティバル2024」開催！ごちそうの後のハテナの意味は？～藤井サチ、ホフディラン、Caravanなど豪華ゲストも参加した海と人とをつなぐ食イベント～
31	全国	海ごみ	高校生チャンピオン決定！スポーツごみ拾い全国大会～「スポーツGOMI甲子園2024」優勝は埼玉県代表～
32	全国	生態系	パナソニックや環境省も参加！エビデンス・ディスカッション・グルメから海藻の養殖を広めるためのイベント開催～「GOOD SEA DAY：海藻が支えるネイチャーポジティブ」～
33	静岡	生態系	ローカル列車の旅で学ぶ海草・アマモと浜名湖の異変～静岡県の天浜線で行われた「アマモ探検ツアー」～
34	全国	調査	日本初！海の変化に東京大学と全国の若手漁業者が連携して取り組み～「海洋環境変化対応プロジェクト」が本格始動～
35	富山 福井	調査	ドンジャラから宇宙食まで！高校生が挑む海洋資源と地域活性化
36	北海道 岡山 香川	生態系	漁業支援の革新：AI技術、クロダイ活用、ヒトデで地域活性化を目指す挑戦
37	全国	調査	世界初！能登半島地震の前後で起こった海と陸の地形変化を完全可視化～全国で航空測量を行う「海の地図PROJECT」が緊急調査～
39	全国	海の体験機会づくり	高校生がサンゴの猛毒を研究！抗がん剤開発にも意欲！～「マリンチャレンジプログラム」全国大会～
39	全国	調査	「灯台×観光」など全国で進む新たな利活用～「海と灯台プロジェクト2024 成果報告会」レポート～
40	全国	安全・そなえ	石破首相も登壇！日本で初開催の「ワールド・オーシャン・サミット」

No.	1	エリア	全国	カテゴリー	伝統文化
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1694">https://social-innovation-news.jp/?p=1694</a>				



## 日本の灯台群を世界遺産に！～「海と灯台プロジェクト2023成果報告会」開催～

都内で「海と灯台プロジェクト2023 成果報告会」が、2024年2月14日に開催されました。灯台はいま、海の道標としてだけではなく、歴史的・文化的価値に基づく可能性が広がっています。そこで、灯台の存在意義や利活用について考え、さまざまな施策を行っているのが「海と灯台プロジェクト」です。2020年にスタートしたこのプロジェクトは、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として行われています。

この日は、全国11地域で行われた2023年度の調査研究や利活用事業の成果が、各灯台の利活用モデル事業担当者から報告されました。そのひとつが、新潟県の佐渡島にある「沢崎鼻（さわさきはな）灯台」です。この灯台では、地域の魅力と課題解決をテーマにした「ミッション型灯台キャンプ」を実施。この企画は、宿泊インフラを担う灯台でのキャンプと、文化継承の危機である地域資源を掛け合わせたもので、外部から参加者を募り、地域活性化と文化継承につなげていく取り組みです。第1弾として行われたのは「灯台キャンプ×沢崎まつり」。灯台のふもとでキャンプを楽しみつつ、人口減少により存続が危ぶまれる「沢崎まつり」の担い手として祭りを成功に導くことをミッションとしました。その結果は大成功となり、さぞ探究プロジェクトの猪俣明美さんは「ほかの地域の島民も『地域の祭りの中に外部の人が入ってくるのは先進的な取り組みだ』と驚いていたし、注目していた」といった反響を話しました。今後は、この事例を参考に横展開を考えているとのことです。

また、愛知県美浜町にある「野間埼（のまさき）灯台」では、一般公募から選ばれた「現代版 灯台守」の活動を紹介。美浜町に移住した「現代版 灯台守」である仙敷裕也さんと佐々木美佳さんが登壇し、キャンピングカーを活用した「灯台ビズターセンター」の設立のほか、オリジナル商品の開発、3月に実施予定の「"愛知る灯台"あいち美浜ロゲイニング」という美浜町を知ることができるイベントなど、多岐に渡る活動が発表されました。

そして、鳥取県にある「長尾鼻灯台」は、灯台のまち・青谷の生涯学習プログラム「AOYA TODAY」について報告。地元の小中学校・高校と連動して地域学習プログラムを開発するなど、海と灯台の学習を生かした地域活性化を展開しています。

これらのほかにも、「灯台ホテル」の実現に向けての調査研究結果の発表から、「灯台ナイトマーケット」や「灯台ホリデイ」といったイベントなど多種多様な事業が紹介されました。

No.	1	エリア	全国	カテゴリー	伝統文化
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1694">https://social-innovation-news.jp/?p=1694</a>				

灯台の新たな可能性が示された中、海と灯台プロジェクトの今後について日本財団の海野光行常務理事は「日本の灯台群を世界遺産にすること」を目標のひとつにすると発表。その第一歩として学術研究グループ「海と灯台学会」をつくる予定とのことです。海野常務理事は「日本で最初に世界遺産となった法隆寺から（日本の世界遺産の）変遷を見していくと、海の世界遺産がない。だから、ある意味で世界遺産へのチャレンジをする。（事業者の）皆さんには、自由にこれまで通り、これまで以上に発想してもらしながら、事業を各地で展開してもらい、その結果が世界遺産につながればと思う」と話しています。

No.	2	エリア	全国	カテゴリー	生態系
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1697">https://social-innovation-news.jp/?p=1697</a>				



## 目に見えない脅威が迫る！？海洋化学汚染を世界中の有識者が議論～Back to Blueが主導する「有害化学物質による海洋汚染ゼロの実現」～

東京都内で、「有害化学物質による海洋汚染ゼロの実現」をテーマにしたパネルディスカッションが、2024年2月6日に行われました。このディスカッションは、海洋問題に取り組むイギリスのエコノミスト・グループと日本財団による共同イニシアチブ「Back to Blue」が開催。目に見えない化学物質による海洋汚染は、私たち人間の健康や生活に多大な影響を与えると言われています。その原因是、ごみや未処理排水、海水中の化学物質を吸収して長距離を移動することで汚染を悪化させているマイクロプラスチックなどさまざまです。そこで、このイベントでは、海洋化学汚染の有識者が集まり、汚染の現状や問題点などについて意見を交わしました。東京大学未来ビジョン研究センターの高村ゆかり教授は「汚染の影響について知るには、まだデータが足りていない。研究を強化し、科学的知見を集めていくことは難しい挑戦だが、今こそ始めなくてはならない」と提言。また、世界銀行 持続可能性担当 首席エコノミストのリチャード・ダマニア氏は「ひとつの解決策がキャップ・アンド・トレード（排出権取引）。あまり知らないが、発展途上国においては特に有効で、インドではPM2.5の大気汚染の削減問題で目をみはる効果があった」と参考例を示しました。そして、ChemSec（国際化学物質事務局）の副事務局長フリーダ・ヘーク氏は「海はすべてものと繋がっている。ある意味で私たちの巨大なごみ箱のようなもの。すべては海に流れ着くため、私たちはすべてその影響下にある。だから、化学物質をどのように扱って安全性を高めていくかは非常に重要だ」と語りました。こういった海洋科学汚染におけるBack to Blueの今後の活動について、日本財団の海野光行常務理事は「いま私たちがやらなければならないことは、エビデンスとしてしっかり情報を集めること。その上で、何が安全で何が危険なのかを伝えていくベースをつくることが大事。また、今回の議論で得られた結果を世界に発信することで、海洋化学汚染に対するアクションを促すキッカケになれば」と話します。そして、エコノミスト・グループの編集主幹チャールズ・ゴダード氏は「日本財団と共同で、化学物質汚染のグローバルなデータ・ロードマップを作成している。重要なことは、産業界と市民社会を巻き込むことであり、すべてのステークホルダーがこの議論に参加することだ」と述べています。

No.	3	エリア	全国	カテゴリー	生態系
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1701">https://social-innovation-news.jp/?p=1701</a>				



## アマモで醤油づくりが受賞！中高生が海に関する研究を行う全国大会～マリンチャレンジプログラム2023全国大会～

「マリンチャレンジプログラム2023全国大会～海と日本PROJECT～」が、2024年2月18日に東京都内で行われました。このプログラムは、日本財団と株式会社リバネスとJASTO（一般社団法人 日本先端科学技術教育人材研究開発機構）が2017年から毎年実施。海・水環境に関するあらゆる研究をする中高生を応援するもので、研究資金助成や研究アドバイザーによるサポートが行われています。

この日は、地区大会を通過した15チームが、さらなる研究の成果を発表する全国大会です。各チームによる熱意あるプレゼンの結果、4つのチームが表彰されました。そのひとつが、日本財団賞に選ばれた岡山学芸館高等学校の平岩恋季さんです。「私たち岡山学芸館高校医進サイエンスコースは、岡山県備前市日生町の漁師さんと協力してアマモの再生活動を行っています」と活動の紹介をした平岩さんの研究テーマは、全国で再生活動が行われている海草「アマモ」。そのアマモの認知が低いことに課題意識を持ち、大好きな“食”と掛け合わせることで、多くの人に知ってもらおうと考えたそう。そこで、つくり出したのが「アマモ醤油」。小麦の代用としてアマモの種を使い、醤油づくりを行ったのです。代用率100%、50%といった試行錯誤の結果、海草独特の風味がある新しい醤油ができました。「6か月しっかり本醸造で行いました。かなり長い研究になりましたが、今回やっと結果が出たので達成感があります」と平岩さんも満足するものに。そして、プレゼン後の質疑応答では審査員から「全国的に数が減少しているアマモを使用しての食品づくりについて、原料の調達はどうするのか」といった質問がありましたが、平岩さんは「現在、日生でのアマモ再生活動はかなりピークでたくさん生えている状態。また、ある程度は人の手を加えた方が、魚たちの生物多様性が向上したというデータから、日生で増えすぎた分を伐採して使用します」と答え、環境に適切な形で人の手を加えていく“里海”的なイメージで捉えているとのこと。今後については「醤油づくりは継続しつつ、商品化も考えています。また、私は“食”も“海”もすごく好き。だから、その2つを掛け合させて、もっと多くの海草だったり、海のものだったりをおいしく食べようということを目標に研究ていきたいと思っています」と語っています。

No.	3	エリア	全国	カテゴリー	生態系
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1701">https://social-innovation-news.jp/?p=1701</a>				

そして、最優秀賞に選ばれたのは、佼成学園高等学校の藤山慶人さんです。「ザリガニは脱皮や胃石の形成に必要なカルシウムを求めて行動していることが考えられた」と発表した彼の研究は「カルシウムがザリガニに与える影響」について。自身の行った先行研究では、カルシウムを含むエサなどを使ってザリガニの行動変化を分析。全国大会では、仮説の検証を自然界のフィールドまで広げて、ザリガニとカルシウムの関係に迫った実験の成果を発表。「ザリガニと付き合い始めて7年目に突入しました」という藤山さんは、そのザリガニ愛にあふれる研究が評価され、最優秀賞につながりました。今後について藤山さんは「今までの研究は行動学的な面だったので、今後はザリガニの内部だったり、ザリガニの食用化も進められているのでそういう研究もしていきたい」と話していく、まだまだザリガニ研究の熱は冷めないようです。

ほかにも、世界初だというウーパールーパーの脳波測定をした学生やマイクロプラスチックなどが鳴き砂に与える影響を調査した学生など、独自の着眼点を持つ研究成果が発表されました。その出場した学生たちの今後について、審査員のひとりだった日本財団の海野光行常務理事は「彼らの頭の中には、研究テーマを決める時から社会貢献や社会課題の解決がある。その研究が海の課題の解決に直接結びついているので、何も変えずにこのまま研究を続けてもらえばと思う」とエールを送っています。

No.	4	エリア	全国	カテゴリー	テクノロジー
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1709">https://social-innovation-news.jp/?p=1709</a>				



## 海×3D！中学生離れたスゴイ研究成果に専門家も脱帽！～「海洋研究3Dスーパー・サイエンスプロジェクト」3期生の研究発表会～

都内で「海洋研究3Dスーパー・サイエンスプロジェクト」3期生の研究発表会が、2024年3月29日に行われました。このプロジェクトは、海や3Dに興味のある中学生が、最新の3D技術を活用して海にまつわる研究を行うもので、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として行われています。

3年目を迎えたこのプロジェクトは今回、研究生の募集を全国に拡大。この日は、8ヶ月間にわたってさまざまなことを学んできた成果発表の舞台です。愛知県から参加した渡邊翔さんは、深海生物が大好きな中学2年生で、深海に生息し「生きた化石」とも言われる“ミツクリザメ”についてプレゼン。そして、「動かせるという機能を持った標本よりも優れた模型の制作ができたと思います」と発表した可動型の模型、さらに、玉骨標本という2つの3D作品をつくりました。渡邊さんは「ミツクリザメは、サメの中でもアゴの可動範囲が広いといった面白い特徴を持っていて、そこを（可動型で）皆さんに一番伝えたかったんです。玉骨標本は、ミツクリザメの特徴の全てを詰め込んでいます」と説明。担当講師である宮崎大学 農学部 海洋生物環境学科の村瀬敦宣准教授は「ちゃんと可動型と玉骨標本で役割が決まっている。可動型はミツクリザメのアゴがどれぐらい精巧にできているのか、どれぐらい生物学的に面白いのかを伝えるためにモディファイしたもの。玉骨標本は、外形を保った状態で骨の入り方がちゃんと観察できる」と話し、そのコンセプトがしっかりある中学生離れした素晴らしいモノづくりに専門家もビックリしたようです。

また、このプロジェクトのプロデューサーで主任講師の吉本アートファクトリー代表・吉本大輝さんを「大学の卒業論文レベルの発表になっていると感じた」と驚かせたのが、鳥取県の水村阿礼さんです。その研究テーマは「クジラの進化をテーマにした実物を使わない展示方法の模索」で、展示方法まで模索した理由は、国立博物館の展示に衝撃を受けたからだと言います。そこで、鳥取県に住む水村さんは「地方の人がわざわざ東京に来なくても見られる環境をつくりたいと思った」とのこと。そのため発表でも「今回はあえてフルカラープリンターで出力しないで、色についてはデジタルのみの表示としました。なぜなら地方での博物館での利用を考えると、コスト面はなるべく抑える必要があると考えたためです」と説明した3Dモデルから、ARや映像や画像の3Dを裸眼で観られる“裸眼立体視”に至るまで、展示方法のメリット・デメリットも研究しました。

No.	4	エリア	全国	カテゴリー	テクノロジー
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1709">https://social-innovation-news.jp/?p=1709</a>				

将来については「3Dなどの技術をうまく使いこなして、さらに恐竜の研究を発展させられるような古生物学者になりたい」とプロジェクトで学んだことを生かしていくようです。

海と3Dについての学びを後押ししてきた海洋研究3Dスーパー・サイエンスプロジェクトは、今後さらなる進化を目指すそうで、日本財団の海野光行常務理事は「協賛企業から提供してもらったのが、裸眼立体視のシステム。こういったものをもっと活用していくようなプロジェクトにしていければ」と展望を話しています。今後4期生の募集が開始される予定です。

No.	5	エリア	全国	カテゴリー	伝統文化
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1714">https://social-innovation-news.jp/?p=1714</a>				



## 書籍化に世界的な活動も視野！海ノ民話アニメ～「海ノ民話のまちプロジェクト」によるアニメーション上映会と公開シンポジウム～

東京都千代田区にある文藝春秋ホールで「海ノ民話のまちプロジェクト」によるアニメーション上映会とシンポジウムが、2024年3月24日と25日に行われました。海ノ民話のまちプロジェクトは、全国各地の海にまつわる民話をアニメ化し、その民話に込められた「想い」「警鐘」「教訓」を伝えていくもので、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として行われています。24日に行われた上映会では、「日本財団では多くの“海ノ民話”を収録していて、子どもたち、そして、お母さんやお父さんにも観てもらいたいということで活動を続けています」という日本財団・笹川陽平会長からのビデオメッセージの後、2023年度に制作された25本すべてのアニメを上映。また、アニメーション監督である沼田心之介さんと声優の四宮豪さん、富田泰代さん、阿部敦さんとのトークショーに、子どもたちによるアフレコ体験も行われました。参加した子どもたちは「（アフレコを）録ってみて楽しかった」、「怖いシーンもあったけれど、神様のお話とかも知れて楽しかった」と大満足だったようです。

その翌日には、公開シンポジウム「『海ノ民話』から学ぶもの～作家・芸人・学者の視点から～」を開催。小説家の永井紗耶子さん、お笑いコンビ「Aマッソ」の加納さん、日本昔話学会委員の久保華誉さん、日本財団の海野光行常務理事という有識者たちが登壇。永井さんは「語りたくなる言葉や口調の面白さ、言いやすい言葉などは民話に必要だと思う」と作家目線から話し、加納さんは「子ども心に全てのストーリーを理解しているわけではないかもしれないが、核になる部分が最後のオチに来ているのは民話の大きな特徴だと思う」とお笑い芸人の視点から分析するなど、海と民話についてのつながりから『海ノ民話』が持つ価値や可能性などについて話し合いました。また、海野常務理事が「海ノ民話をジャパンアニメという世界に認められるようなカルチャーとして打ち出すやり方があると思う。また、同じような海ノ民話を持つ世界のほかの地域との交流にも使えたら」と語ったように、活用法についても意見交換しました。

No.	5	エリア	全国	カテゴリー	伝統文化
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1714">https://social-innovation-news.jp/?p=1714</a>				

久保さんは「アニメの監督や制作の皆さんと、実際に現地へと足を運ばれてアニメーション化されていると知って、本当に感動した。私たちが行う民俗学は、実感・実証の学問と言われていて、それを皆さんが体現されているのが本当に素晴らしいことだと感じた」と海ノ民話の魅力について語っています。今後の海ノ民話のまちプロジェクトの取り組みについて、海野常務理事は「まずは100篇を制作する。さらに、これから海ノ民話を体系的にまとめる本もつくろうと思っている。そのための調査・研究もしながら（民話を広げていく）戦術をつくっていけたら」と展望を述べています。書籍は「海ノ民話の世界」というタイトルで5~6月頃に文藝春秋から出版の予定。また、海ノ民話のまちプロジェクトがこれまでに制作した67のアニメは、[公式YouTubeチャンネル](#)で観ることができます。

No.	6	エリア	全国	カテゴリー	テクノロジー
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1716">https://social-innovation-news.jp/?p=1716</a>				



## 運航中CO2排出ゼロ！世界初の船で実証成功～日本財団ゼロエミッション船プロジェクト～

福岡県にある北九州国際会議場イベントホールで、「水素燃料電池による洋上風車作業船の運航実証に関する記者発表会」が、2024年4月4日に行われました。これは「日本財団ゼロエミッション船プロジェクト」の一環です。このプロジェクトは、二酸化炭素を排出しないゼロエミッション船を、世界に先駆けて実用化するべく開発を推進。物流の99%を占め、年間排出量が世界全体で7.4億トンにものぼると言われる海運業界の脱炭素化こそ、日本政府が掲げる2050年のカーボンニュートラル実現に必要不可欠な要素です。

そこで、注目されているのが、究極のクリーンエネルギーである「水素」。日本財団ゼロエミッション船プロジェクトは、水素燃料を搭載した船舶を開発していく、そのひとつが水素燃料電池を搭載した「HANARIA（ハナリア）」です。この船は全体統括を務めたMOTENA-Seaを中心に、商船三井テクノトレード、本瓦造船、関門汽船、大陽日酸の5社が参画したコンソーシアムが開発。最大の特徴は、3つのハイブリット電源ユニットです。水素から電気を発生させる燃料電池、リチウムイオンバッテリー、これにバイオディーゼル発電機を組み合わせ、電力を供給する仕組みです。商船三井テクノトレード 水素ビジネスデザイン部の向山敦さんは「仮に水素の供給が途絶えても運航できるように、バイオディーゼルとリチウムイオンを加えて、それぞれで運航できるようなシステムを構築した。この3種の電源を使った洋上風車作業船は世界でも初の船だと思う」と言います。このHANARIAは、ゼロエミッションモードでの運航では温室効果ガスを全く排出しません。さらに「FC（水素燃料電池）とリチウムイオンバッテリーのゼロエミッションモードになった時は、本当に静かに航行できる」と関門汽船の三栗美恵子船長が話すように、環境性能と快適性の両立を実現しています。そして、今回の実証実験では、北九州市の白島（しらしま）沖にある洋上風力発電施設との往復30kmほどをゼロエミッションモードで運航することに成功しました。

記者発表会では、日本財団の海野光行常務理事が「今回のプロジェクトに関しては、トヨタ自動車が水素タンク開発などの先駆的な役割を担い、北九州市からは実証実験の場の提供などさまざまなサポートを受けた」など、プロジェクトの概要を発表したほか、向山さんから「今回の実証実験では、同等仕様のディーゼルエンジンを搭載した船舶と比較して約1700kgのCO2を削減した」といった成果を発表しました。

No.	6	エリア	全国	カテゴリー	テクノロジー
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1716">https://social-innovation-news.jp/?p=1716</a>				

今後HANARIAは洋上風車作業船としてはもちろん、4月10日から観光船としての活用も開始されています。そして、日本財団ゼロエミッション船プロジェクトの今後については、2026年を目安に、水素を燃やして動く「水素専焼エンジン船」の実証実験を他2つのコンソーシアムが行う予定です。海野常務理事は「水素はどんなに燃やしても水しか出ない。全くCO2はないので、これからもコンソーシアムの皆さんと連携を取りながら進めていきたい」と展望を語っています。

No.	7	エリア	全国	カテゴリー	海ごみ
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1721">https://social-innovation-news.jp/?p=1721</a>				



## 瀬戸内海の海洋ごみ問題解決へ延長して取り組み～日本財団と岡山県・広島県・香川県・愛媛県による「瀬戸内オーシャンズX」～

日本財団と瀬戸内4県による包括的海洋ごみ対策プロジェクト「瀬戸内オーシャンズX」が、トップ会合を初めて開催。実施期間を2027年まで延長し、さらに強化して取り組むことを、2024年4月15日に発表しました。

2020年12月に発足した「瀬戸内オーシャンズX」は、日本財団と岡山県、広島県、香川県、愛媛県が共同で推進。「調査研究」、「企業・地域連携」、「啓発・教育・行動」、「政策形成」という4つの柱を軸に、海洋ごみの実態調査やアクセス困難な場所での一斉清掃など多岐に渡る活動を行い、1年間あたりで26トンもの海洋ごみを回収してきました。しかし、海洋ごみを減少へと転じさせるには、さらに毎年60トンの回収が必要と、これまでの活動からわかりました。

そこで、この日、日本財団と4県の知事が会合を実施。当初は2024年度末までだった実施期間を2027年度末までと3年間延長すること、さらに今後の目標として、未回収も含めた86トンの海洋ごみを毎年回収、4県合同での大規模清掃を行うなどの内容に合意し、それが発表されました。日本財団の笹川陽平会長は「日本全国のモデルケースになるどころか世界のモデルになるように、瀬戸内オーシャンズXをしていこう」と意気込みを語りました。また、愛媛県の中村時広知事は「瀬戸内オーシャンズXが4県と共同して延長することになり、本当に嬉しく思う」、岡山県の伊原木隆太知事は「体感的には急速に川ごみ対策や海ごみ対策が進んでいると多くの県民が実感している」、香川県の池田豊人知事は「漂着ごみの状況を継続的に調査しているが、瀬戸内オーシャンズXが始まった2020年から顕著に（海洋ごみが）減ってきている」、広島県の湯崎英彦知事は「瀬戸内オーシャンズX期間延長に伴い、今後は回収・処理に加えて流出防止対策を強力に進めていきたい」など、4県の知事も感想や成果、県内での対策などについて話しました。今後の取り組みについて、日本財団の海野光行常務理事は「（4県合同での大規模清掃といった）フラッグシッププロジェクトのようなものを、来年以降はつくり上げていきたい。それによって一般市民を巻き込んでいく。また、離島など一般市民によるごみ拾いが危険な場所では、“プロボノ（専門職によるボランティア）”の皆さんにも協力してもらう。さらには、人材育成も合わせてやっていくことが鍵になるとを考えている」と、活動をより強化して進めていく考えだと述べています。

No.	8	エリア	全国	カテゴリー	テクノロジー
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1724">https://social-innovation-news.jp/?p=1724</a>				



## 深海魚愛あふれるプレゼントをした小学5年生が大賞！～「深海研究スーパークリエイツ育成プロジェクト」の研究成果発表会～

静岡県にあるCafe&Restaurant Tembooooで、「深海研究スーパークリエイツ育成プロジェクト」の研究成果発表会・プログラム修了式が、2024年1月27日に行われました。このプロジェクトは世界に羽ばたく海洋・深海研究のスペシャリストを輩出することを目的に、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として2022年から開始。今回2年目となる2023年度は、選考された小学生10人が参加し、深海についての学びを深めできました。

この日はその集大成。7ヶ月間で学習してきたことの成果を発表し、6人に賞が贈されました。そのひとりが、さかなクン賞に選ばれた小川陽輝さん（当時小学6年生）です。研究テーマは「アンコウ型水中釣りドローン」で、「まずLEDで魚を集めます。次にシリコン素材の歯で傷つけずに加えます。黒い魚が入っている箇所は深海魚を入れる装置です」とプレゼンしたように、水中ドローンとアンコウの高い狩猟能力を組み合わせた新たなドローンをつくることで、深海魚の研究に役立てたいと言います。審査員のひとりであるさかなクンは「まさにアンコウちゃんの姿・形で水圧にも強く、これは実現可能ではないかと思った」と選考理由を語っています。そして、海と日本プロジェクト賞に選ばれたのは近藤翼さん（当時小学5年生）です。「私はこのプロジェクトで経験したこと、感じたことをもとにひとつの物語をつくりました」とプレゼン冒頭で紹介したように、その研究テーマは「物語で広がる・つながる 海洋ゴミを減らすためにできること」。海洋ごみ問題をテーマに物語をつくり、卒園した幼稚園で発表するなど、さまざまな活動を行いました。その海洋ごみ問題を“伝える力”、自分ごと化してもらう取り組みが受賞につながりました。

そして、深海研究スーパークリエイツ大賞に選ばれたのは、「深海のトッププレデター ヨコヅナイワシの謎にせまる」という研究テーマで発表した渡邊智仁さん（当時小学5年生）です。まだ謎が多いヨコヅナイワシについて渡邊さんは、ほかの深海魚と違う“強靭な尾びれ”に着目。「今回の講座の中で、沼津高専の皆さんのが『駿河湾2000メートル付近は生物密度が高い』と教えてくれました。尾の遊泳力を生かして、表層から深海へと潜っていくというエネルギーを使ってでもエサをとる戦略にしたのかもしれません」と考察するなど、ヨコヅナイワシを深く研究した成果を熱くプレゼンしました。そのヨコヅナイワシ愛が大賞につながったそうです。渡邊さんは「広い生息範囲の中を個々で動いているのかとかを調べたいです」と今後も研究し続けていくと語っています。

No.	8	エリア	全国	カテゴリー	テクノロジー
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1724">https://social-innovation-news.jp/?p=1724</a>				

それぞれの視点から海洋・深海について学び、専門家もうならせる発表をした2期生たちについて、審査員のひとりである日本財団の海野光行常務理事は「すごくレベルが高かった。私が見ると全員が立派な研究者のひとりだと思う。これからも自信を持って、やりたいことにチャレンジしてもらえた」とエールを送っています。

2024年度について、[深海研究スーパークリエイターズ育成プロジェクトin富山湾](#)では5月7日まで、[深海研究スーパークリエイターズ育成プロジェクトin駿河湾](#)は5月31日まで参加者を募集中です。

No.	9	エリア	全国	カテゴリー	コスプレ
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1734">https://social-innovation-news.jp/?p=1734</a>				



## コスプレイヤーが福岡でごみ拾い～「春の海ごみゼロウィーク2024」の一環として開催された「コスプレde海ごみゼロ大作戦!!」～

九州最大の都市・福岡で「コスプレde海ごみゼロ大作戦!!2024春 at福岡」が、2024年6月1日に行われました。このイベントは、環境省と日本財団が2019年から実施している海洋ごみ対策を目的とした全国一斉清掃キャンペーン「海ごみゼロウィーク」の一環として開催。この日は、撮影で使用するロケーションが汚れないように日頃からごみ拾いをしている方も多いコスプレイヤーをはじめ、海上保安官、日本マクドナルドのスタッフ、そして、福岡市の百道浜（ももちはま）で生まれたサザエさんなど、さまざまな人が参加しました。

開会式では、福岡県の中村英一副市長が「この福岡市から海ごみゼロのうねりを日本、そして世界へと届けましょう。今日はよろしくお願ひします」と呼びかけました。そして、「ごみを拾って、海を守るばい！」の掛け声でごみ拾いがスタート。屋台で有名な中洲周辺で、約400人が街のごみを拾い集めました。参加したコスプレイヤーは「たばこの吸い殻が見えないところにあった」と感想。また、「鬼滅の刃」のキャラクターのコスプレで参加したコスプレ環境保全活動チーム「よかeco面隊」の雷さんは「コスプレ姿でごみを拾うと目立つ。それによってごみを拾っている人がいると意識してもらうだけで、ポイ捨てをやめようという気持ちになると思う」とコスプレイヤーがごみ拾いをする意義について語りました。また、「SPY×FAMILY」のキャラクターのコスプレで参加した小学生コスプレイヤーの「よかeco面隊」のまあちゃんは「ごみ拾いをしなくていい世界がゴールだと思います」と話しています。

この日に回収したごみの総量は、90Lのごみ袋19袋分になりました。環境省の国定勇人環境大臣政務官は「（海洋ごみ問題を）解決していくためのアプローチとしては、こういった楽しんでもらえるような活動をしていくと、裾野が広がると思う」と意見を述べました。そして、日本財団の海野光行 常務理事は「海ごみになる前に海のピンチは陸で救う、そんな考えを持ちながらごみ拾いをしていくと、また違う展開も生まれると思った」と語っています。

次回の「コスプレde海ごみゼロ大作戦!!」は、9月20日～29日に設定されている「秋の海ごみゼロウィーク」期間中の9月21日に、関東で行われる予定です。

No.	10	エリア	全国	カテゴリー	調査
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1738">https://social-innovation-news.jp/?p=1738</a>				



## 日本財団と東大が大量に発見！レアメタルを含む海底鉱物資源～「マンガンノジュール（マンガン団塊）」に関する調査結果の発表～

日本財団と東京大学が、南鳥島周辺海域における海底鉱物資源の調査結果を2024年6月21日に発表しました。

日本の最東端・南鳥島周辺の海域には、東京大学による2016年の調査によって、鉄やマンガン、電気自動車やスマートフォンのバッテリーに使われるレアメタルのコバルトなどが含まれる海底鉱物資源「マンガンノジュール」が、広範囲に分布していることがわかっています。そこで今回、47日をかけて詳細な調査を実施。その結果、マンガンノジュールが密集する有望な海域を特定しました。また、日本の排他的経済水域にあたる南鳥島周辺の海底100km四方に、約2.3億トンものマンガンノジュールがあると判明。調査に参加した東京大学大学院工学系研究科の中村謙太郎教授は「（密集域が）とんでもない広さなので、そこを隙間なくマンガンノジュールが埋めているのは、頭ではわかっていたが、実際に見てみるとこんなにあるんだとビックリした」と振り返っています。また、そのマンガンノジュールから取れるコバルトは、国内消費量の75年分に相当すると言います。その量について中村教授は「陸上にある資源と比べてみると、世界第3位の規模ぐらいのコバルトの量が存在している」と説明。

今後は、商業化を目指して、開発に伴う詳細な環境影響評価を実施。そして、早ければ2025年度にも揚鉱実証試験に向けた準備を開始するとのことです。その実証実験では、1日当たり数千トン規模でマンガンノジュールを引き上げる予定だそう。日本財団の笹川陽平会長は、今回の結果について「日本が資源大国になれる可能性がある」と期待を述べています。また、同財団の海野光行常務理事は「どこにどのぐらいの品質のものがあるのかが把握できたということは、企業も入りやすい状況になってくると思うので、この鉱物資源を使った産業の機運づくりにも繋がっていくと思う」と話しています。そして、東京大学大学院工学系研究科 研究科長・工学部長 加藤泰浩教授は「マンガンノジュールの中に入っているコバルトやニッケルは経済安全保障上、極めて重要な資源になる」と語り、中村教授は「資源があるというのはすごく強い。日本もかつてジパング（黄金の国）と言われていて、昭和の時代も国内の銅鉱山で外貨を稼いでいた。再び経済を底支えできるというところで明るい希望になる。将来世代も含めて、すごく良いことだと思う」と日本の未来に明るい兆しがあるかもしれないと展望しています。

No.	11	エリア	全国	カテゴリー	安全・そなえ
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1742">https://social-innovation-news.jp/?p=1742</a>				



## 大の字背浮きにだけ頼ってはいけない！？溺れを体験するVR！新たな“そなえ”を発信した「海のそなえシンポジウム」

都内で「海のそなえシンポジウム～水難事故対策の常識を疑う～」が、2024年6月19日に開催されました。このイベントは、日本財団が企画・統括し、日本ライフセービング協会、日本水難救済会、一般社団法人うみらい環境財団とコンソーシアムを形成して今年度から活動している「海のそなえプロジェクト」が実施しました。このプロジェクトは日本財団「海と日本プロジェクト」の一環です。

「水難事故対策の常識を疑う」をテーマに行われたシンポジウムでは、田村淳さんや藤本美貴さんをはじめ、さまざまな有識者が登壇。まず、田村淳さんと日本財団の常務理事・海野光行さんとディスカッションが行われ、その中で水難事故の現状が紹介されました。厚生労働省の「交通事故の死者数」と「溺死による死者数」のデータによると、1995年から2022年までの約30年で交通事故の死者数は右肩下がりとなっています。しかし、屋外での溺水事故は減っていません。海野さんは「交通事故は事故検証による要因分析などが行われている。その改善が見られる交通事故と比べると、溺水については科学的証拠に基づいた対策が行われていないのではないかと読み取れる」と語りました。また、今回のシンポジウムに向けて行った水難事故に関する調査結果も発表。1万人以上を対象にして実施したアンケートでは、さまざまな気づきがあったそうで、そのひとつが「溺れの経験は12歳以下が多い」ということだと紹介。溺れの経験がある人に時期を聞いてみると、そのほとんどが小学生以下だったそうです。

### 「水難事故はなぜ減らないのか」

誰もが抱くこの疑問に正面から向き合うディスカッションが行われました。救難活動の専門家である日本ライフセービング協会の理事で救助救命本部長の石川仁憲さんは溺れを巡る重要なデータを提示。「今回のアンケート調査で17%が溺れた経験があると回答していたが、その約半数が25m以上泳げる能力を持っていましたと回答している」。つまり、プールで泳ぐ力があっても、海や川などの自然水域では溺れてしまうケースもあるということ。泳げることと溺れないことは違うということです。こうした視点から学校にかける水難教育のアップデートを求める意見も出されました。日本水難救済会の理事長・遠山純司さんは「先生は海のプロではないので、先生自体が（水難事故や対策について）理解していない、情報が入ってこないという状況。

No.	11	エリア	全国	カテゴリー	安全・そなえ
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1742">https://social-innovation-news.jp/?p=1742</a>				

その中でどう教えるかというのは限界があると思う。だから、水難事故を減らすためにひとつの進歩をする必要がある」と話しました。そこで、溺水時の対処法として知られている手足を広げて浮く大の字背浮きだけで救助を待つのも、波や流れのあるところでは現実的な方法とはいえない指摘。イカ泳ぎや立ち泳ぎ、平泳ぎなど、その人が最も得意な泳ぎ方で浮いていればいいと映像も交えながら伝えました。ただ、そもそも溺れた後よりも、「溺れないためのそなえ」の教育が重要だと言います。「（溺れといった）危険な状態に海で陥らないように、どうい“そなえ”をするか。その上で、楽しく海で遊んでもらうというコンセプトで教育内容を組み立てて、それを広く日本全体に広めていく必要があると思う」。

また、中央大学 研究開発機構の機構教授である石川さんは、溺れにまつわるもうひとつの興味深いデータを示しました。過去に溺れた経験のある人の方が、片手を大きく左右に振る「助けてサイン」を知っていたり、ライフジャケットの購入・着用率が高かったりしたそう。つまり、“溺れ”という怖い体験を経て、そなえの意識が高まったとのこと。そこで、日本ライフセービング協会は溺れの疑似体験できるVRコンテンツを開発。これによって、そなえの意識を高めてもらうのが狙いです。今後について伺うと「コンテンツはVRの機械さえあれば見れる。色んな地域で活用して欲しい」と話しています。

シンポジウムでは他にも、ライフジャケットに加えて、さまざまな形態の「フローティングアイテム」も登場。ライフジャケットがスタイリッシュになったような「フロートジャケット」、いざという時に膨らますことができる「プレスレット型膨張式浮力体」といったウェアラブルなものなど、海を楽しみつつ浮力のあるものが紹介されました。株式会社SIGNINGのクリエイティブディレクター・亀山淳史郎さんは「安全であることと楽しかったりとか可愛かったりは分けておく必要がなくて、両方叶えられるものがつくられていくと思うし、そういうものが増えていくといいと思う」と語りました。「海のそなえプロジェクト」の今後について、海野さんは「今回調査をしてみて、ほとんどの方が12歳以下の時に溺れを経験しているという。これから事業を展開していく上においては、この12歳以下というものをターゲットにして進めていければと思っている」と展望を話しています。

No.	12	エリア	全国	カテゴリー	調査
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1746">https://social-innovation-news.jp/?p=1746</a>				



## 75%の小学生が「海に行きたい！」と思うも行動とのギャップ判明～日本財団による第4回「海と日本人」に関する意識調査～

日本財団は、第4回「海と日本人」に関する意識調査の結果発表を2024年7月11日に行いました。この調査は、2017年から2年に1度実施しているもので、日本人が海に対して持っている意識や行動の実態を明らかにすることが目的です。

今回の調査で判明したのが、海離れの深刻化です。1万人を超える男女に調査したところ、海への好感度は2019年から13ポイントも減少。また、「この1年間で1度も海を訪れていない人」も33%から52%へと大幅に増加しています。こうした結果について、日本財団「海と日本プロジェクト」を統括する日本財団の海野光行常務理事は「正直びっくりしたし、このままだと日本はどうなってしまうのだろうという感想を持った」と話しています。ただ、一方で調査結果から希望も見えたと言います。「（調査結果で）救いだったのは、私たちがターゲットとしていた高校生と小学生に希望が見えたこと」。

調査結果の中で高校生に注目してみたところ、「海が好きだ」「海に行きたい」「1日以上海へ行った」の各項目いずれも全体より高く、また、「海洋問題に対する認知」、そして、「海洋問題を意識した行動」も高いことがわかりました。日本財団ではそんな高校生と連携してさまざまなプロジェクトを行っているそうで「海と日本プロジェクトで食に関する事業を行っているが、その中で高校生と一緒に商品開発を行ったり、また、スポーツごみ拾いの高校生版「スポーツGOMI甲子園」という全国大会を行ったり、あとは海洋研究ではマリンチャレンジプログラムを実施している」と海野常務理事は説明。今後も、高校生と一緒に行う事業を増やしていくたいと言います。

さらに、今回 初の試みとなった親子調査によって、小学生の海への関心の高さも判明。75%の小学生が「海に行きたい」と回答し、どの年代よりも高い数値になりました。ただ、一方で「直近で1日以上海に行った」という小学生は60%にとどまり、実際に海へ遊びに行く子どもたちは決して多くはないこともわかりました。これについて海野常務理事は「子どもを海に連れて行くのは主に親だと思うが、それができない現状がこの数字で読み取れると思う」とその背景について見解を述べました。そして、今後の取り組みとして「学校教育の中に海洋をしっかりと入れ込んでいく。そのため、臨海学校の復活というものをもう少し力を入れてやっていくことも必要だと考えている」と話しました。

No.	12	エリア	全国	カテゴリー	調査
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1746">https://social-innovation-news.jp/?p=1746</a>				

海離れの深刻化の一方で、若者の海への関心の高さが浮き上がった今回の調査。2015年から海と日本プロジェクトを見続けてきた海野常務理事は「これまで8年間やってきた成果というものも、ある程度は結果として出たという部分で良い調査だったと思う」と話しています。調査結果の詳細は「[2024年「海と日本人」に関する意識調査結果](#)」をご覧ください。

No.	13	エリア	全国	カテゴリー	安全・そなえ
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1751">https://social-innovation-news.jp/?p=1751</a>				



## 水難事故防止のために溺れを疑似体験できるVRコンテンツ～日本ライフセービング協会と中央大学が開発した新たな「海のそなえ」～

「海のそなえプロジェクト」が2024年の夏から始動。日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として、日本ライフセービング協会、日本水難救済会、うみらい環境財団がコンソーシアムを形成し、海のそなえの新しい常識の浸透を目指にさまざまな活動を展開しています。中でも関心を呼んでいるのが、VRを使った「溺れ体験」のコンテンツです。そこで、ソーシャル・イノベーション・ニュース編集部の津田明日香が、中央大学へと取材に行きました。

迎えてくれたのは、中央大学 研究開発機構の機構教授・石川仁憲（いしかわ としのり）さんです。石川さんは日本ライフセービング協会の理事でもあり、海のそなえプロジェクトにも参加。「溺れを体験できるVRコンテンツ」は、日本ライフセービング協会と中央大学が共同開発したもので、豊富な海の現場経験と最先端の研究が融合して生まれました。まずは、石川さんが一次元動画で「これは今、ビーチを歩いている状況。VRゴーグルを着用していれば、右を見たり左を見たり下を見たりと自由に見ることができます」というようにコンテンツの概要を紹介。水難事故は思いも寄らない場面で遭遇することもあるため、VRでは「堤防を歩きながらよそ見をした瞬間に落水する」という場面を再現したのだそうです。その後、早速VRを体験。堤防の場面で首を振りながら「左右に海が広がっています。船があります」と感想を話していた次の瞬間、落水。いよいよ溺れの体験です。ここで石川さんから「水の中にいる時は無理をしない程度に息を止めてもらって、水から外に顔が出た時には息を吸ってください」と説明がありました。言われた通りに息を止めていると、「怖い、苦しい」といった本当に溺れているかのような感覚となり、ひとたび溺れてしまうと、人は水に対してほとんど無力であることを実感します。そして、最後にもうひとつ仕掛けがありました。浮きあがれずに沈んでいく映像に合わせて、リクライニングシートの背もたれが傾きます。これによって沈んでいく感覚を再現しているのです。

この溺れを疑似体験できるVRコンテンツについて、石川さんは「溺れの経験がある人は、溺れの経験がない人に比べて、日ごろの行動、知識・技能がどう違うのかについて比較しました。その結果、溺れの経験がある人の方が、さまざまな“そなえ”を主体的に行っていました」と開発したキッカケを語っています。

No.	13	エリア	全国	カテゴリー	安全・そなえ
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1751">https://social-innovation-news.jp/?p=1751</a>				

その比較が、「海のそなえプロジェクト」の一環として行った水難事故に関する1万人規模の調査です。調査の結果、溺れた経験のある人の方が、「水面に浮いていられる能力が高い」、「ライフジャケットを購入した経験がある」と回答していく、水辺のそなえを実行していました。石川さんは「安全上の面から溺れの経験を実際に体験するのは難しい。その疑似体験ということで、VRを活用して溺れの体験をしてもらうことがねらいです」とVRの目的について話しています。開発にあたっては、さまざまな試行錯誤があったそうで、携わった中央大学の大学院生・藤田直也さんは「溺れている時には泡が出ます。そこで、管をつないでタイミング良く泡を出すことで、臨場感のある映像を撮影できるようにこだわりました」と振り返っています。このように、溺れを疑似体験できるVRコンテンツは、石川さんや大学院生、元東京消防庁水難救助隊隊長で現在は日本ライフセービング協会の救助救命副本部長の菊地太さん達が、工夫に工夫を重ねて完成させました。今後は、離岸流や風に流されるパターン、さらには、海を楽しめるコンテンツなども海のそなえプロジェクトの活動の中で制作していく予定だそうです。

このVRコンテンツ制作など、さまざまな活動を行っている「海のそなえプロジェクト」では、3カ年計画で「海のそなえ」の新しい常識の浸透を図ることを目標にしています。石川さんは「多くの国民の方に、適切な“知識”をつけてもらい、そして“技能”を身につけてもらい、最後は“行動”を変えていくというこのステップの中で、3年後には確実に日本の水難事故が減っていくようになたいと考えています」と今後の展望を語っています。

No.	14	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1756">https://social-innovation-news.jp/?p=1756</a>				



## 海がない足立区の公立小学校の児童が海体験～公立小学校への海洋学習・体験提供プロジェクト～

「公立小学校への海洋学習・体験提供プロジェクト」による「海体験プログラム」が、2024年7月11日に開催されました。このプロジェクトは、足立区・目黒区・練馬区と連携している取り組みで、学校教育において子ども達にリアルな海洋体験を提供しようというもの。日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として行われています。

この日は、千葉県・南房総の海で実施。足立区立中川小学校の5年生50人以上が参加し、海を安全に楽しむ方法が学べる「海体験プログラム」が行われました。中川小学校の土屋和弘校長は「足立区は海がなく、なかなか海に来る機会がないので、子ども達には海を含めた自然について親しんで欲しいと思い、今回はこの企画に挑戦した」とキッカケについて話しています。プログラムでは、児童たちはライフジャケットやペットボトルなどを使って、「海に浮く」という感覚を養いました。参加した児童は「楽しく安全にできて、身のためになってよかったです」、「色んなもので浮けるんだなと思いました」と楽しく学べたようです。児童たちを指導していた内のひとり「南房総市大房岬自然の家」の神保清司所長は「『怖い』がちょっとだけ『楽しい』になり、(すぐに)『うおー楽しい』と海の中で変わることはわかつっていました。だから、みんなを少し沖まで引いて連れていきました」と、安全に配慮した上で児童たちに海の素晴らしさを知つてもらう工夫をしたとのことです。中には海が初めてだという子もいましたが、「最初はうまくできるか不安だったんですけど、意外と楽しかったです」と良い思い出になった様子。引率した担任の先生は「海を身近に感じてくれたのではないかと思い、すごく嬉しい」と語っています。曇りがちなあいにくの天気でしたが、児童たちは楽しく海体験ができ、さまざまな学びがあったようです。その姿を見守っていたこのプロジェクトを企画・推進している小土井孝文さんは「怖いながらも楽しんだとか、安全に遊ぶためにはこうすればいいんだとかを考えるキッカケが与えられた取り組みになったのではないかと思い、すごく良かったなと思う」と話しています。

No.	15	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1760">https://social-innovation-news.jp/?p=1760</a>				



## テトラポッドをつくる会社で小学生がお仕事体験～「海のお仕事体験プロジェクト こどもわーく」～

茨城県土浦市で「キッズ研究員となって、テトラポッドを研究開発するお仕事を体験しよう！」が、2024年7月20日に行われました。これは、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として、子ども達に海のお仕事を通じて、海を身近に感じてもらい、また、海の問題を自己ごととして考えてもらおうという取り組み「海のお仕事体験プロジェクト こどもわーく」が実施しているイベントのひとつです。

この日は、消波ブロックのひとつであるテトラポッドの商標を持ち、港湾土木事業と地盤改良のスペシャリストである「[株式会社 不動テトラ](#)」で実施。参加した10人の子どもたちは、キッズ研究員となり、海の災害から私達の生活を守る研究者のお仕事を体験しました。まずは、座学。不動テトラ ブロック環境事業本部 営業部の浅田遼太郎さんから「大雨が降ったりすると高波が来てしまう。そういうものを防ぐために波消しブロックを置いて、君たちが住んでいる場所の安全を守っている」と教わるなど、テトラポッドの重要性やつくり方などを学習しました。知識を学んだ後は、ミニチュアのテトラポッドを製作。実際に手を動かすと子ども達の表情も自然と豊かになっていきます。

その後、キッズ研究員たちは、普段は入れない貴重な実験棟を見学。人工的に波を起こす巨大な装置など、テトラポッド研究の現場を間近で体験しました。そして、最後は、テトラポッドの模型を使い、打ち寄せる波を消してみることに挑戦。キッズ研究員たちは、小型水槽の波を消すために試行錯誤しながら、小さなテトラポッドを積んでいきました。参加した子ども達は「積んで隙間を埋めることが難しかったです」、「これからは海に行った時に、テトラポッドがどういう風に置かれているかよく観察してみたいです」と振り返っているように、さまざまな学びを得られたようです。実験棟などで講師を担当した不動テトラ 総合技術研究所 研究開発室長の久保田真一さんは「キラキラした目で真面目に学んでいる姿を見ると、僕らもより頑張りたいなど新たに感じた。（テトラポッドへの）皆さんの認識があれば、我々も新しいものが開発できるので、そうした共感をシェアできればいいなと思う」と語っています。

「[海のお仕事体験プロジェクト こどもわーく](#)」は、このイベントだけではなく、各地で行われています。チェックしてみてはいかがでしょうか。

No.	16	エリア	全国	カテゴリー	安全・そなえ
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1763">https://social-innovation-news.jp/?p=1763</a>				



## 神奈川県鎌倉で世界溺水防止デーに行われた“水辺のそなえ”

神奈川県・鎌倉の由比ガ浜海岸で、体験型イベント「海の護身術」、シンポジウム「世界溺水防止デーに考える神奈川の海の安全」が、2024年7月25日に行われました。この日は、「世界溺水防止デー」。溺水防止への認識を高めるために国際連合で決議・採択された国際デーです。残念ながら日本でも溺水事故の件数は、この30年で減っていません。そこで、日本ライフセービング協会、日本水難救済会、うみらい環境財団がコンソーシアムを形成し、海のそなえの新しい常識の浸透を目標に、さまざまな活動を展開している日本財団 海のそなえプロジェクトでは、全国の水難事故の報道内容を分析し速報する「報道実態調査」を公開するなど、意識を高めてもらう取り組みを行っています。

その世界溺水防止デーに行われた「海の護身術」では、海上保安庁で要職を歴任し、海上保安大学校では水泳教官も務めたという水難訓練の専門家・江口圭三さんが講師となり、子どもたちに「水辺のそなえ」を教えました。そのひとつとして、海に入る前には、ライフジャケットの着方や重要性をしっかりとレクチャー。ちなみに、ライフジャケットが生まれたのは、今からちょうど170年前の1854年。イギリスの沿岸で海難救助活動を行う組織「RNLI（王立救命艇協会）」に赴任していた海軍士官の発案によるものと言われています。当時はコルクを縫い合わせたもので、救命艇を漕ぐ手を自由に動かせることが重要なポイントだったそうです。170年の歴史を持ち、多くの人の命を救ってきたライフジャケットですが、まだ普及は道半ばということで、江口さんが常務理事を務める日本水難救済会では、イカの形をした水に浮くポンチョを考案するなど、溺水事故ゼロへの取り組みを続けています。この日はピンクのイカポンチョで臨んだ江口さんでしたが、海の中のそなえ体験は、波の状態を見て中止の判断を下しました。こうしたことでも重要なそなえだそうで「（波が高いなどの）こういった状態であれば、崩れた波の内側での水浴びで止めておくのが適切な対応だと思う」と理由を語っています。

万全のコンディションの海であれば、水の底を蹴り上げて息継ぎをする“ボビングジャンプ”や顔に波がかかりにくい“イカ泳ぎ”などを教える予定だったとのこと。「色々な浮き方があるので、人それぞれに得意な浮き方をすればいい。自分で得意な浮き方は何なのかを練習して知っておくことが大事」と話しています。そして、今後は子どもたちに教える内容もさらにアップデートしていくそうで「今までの水難事故防止はハプニング後のことを言っていた。でもそれでは遅い。水に入る前の段階で何をそなえるべきかということを追求していきたい」と語っています。

No.	16	エリア	全国	カテゴリー	安全・そなえ
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1763">https://social-innovation-news.jp/?p=1763</a>				

「浮き方だけではなく、事前のそなえも重要」。こういったことを議論するシンポジウム「世界溺水防止デーに考える神奈川の海の安全」も同日、鎌倉で開催されました。神奈川県の黒岩祐治知事は「今日の大きなテーマ『水で溺れる』ことに対して、なんとかしてみんなで救おうという動きが出ている」と話し、また、相模湾沿岸の13市町と海岸を基盤とした友好関係を持つオーストラリア・ゴールドコースト市からやってきた現役ライフガードによる活動紹介など、世界溺水防止デーにふさわしい内容で海のそなえを考えました。

そなえの重要性を社会全体が共有し、一人ひとりの行動で実現していく。そういった溺水事故防止に向けた取り組みが今、さまざまな形で広がっています。

No.	17	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1767">https://social-innovation-news.jp/?p=1767</a>				



## 【前編】静岡県・清水港のコンテナターミナルで小学生がお仕事体験！～「こどもわーくin清水港2024」～

静岡県の清水港で「私たちの生活を支えるコンテナターミナルのお仕事をしよう！」が、2024年8月20日に行われました。このイベントは、子ども達に海の仕事を通じて、海を身近に感じてもらい、また、海の問題を自分ごととして考えてもらおうという「海のお仕事体験プロジェクト「こどもわーく」」のひとつで、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環です。

国際貿易港として活躍する清水港には、世界各地から運ばれたコンテナがびっしり。その港でこの日、子どもたちは物流のプロとして220年以上もの歴史を持つ「鈴与株式会社」の社員となり、港湾の仕事を体験します。まずは座学。ミニチュアの模型を使って、コンテナターミナルの役割について学びました。さらに、普段は立ち入ることができない岸壁へ移動。鈴与株式会社 コンテナターミナル部の次長・海野吉輝さんから「清水港に入るうちで最も大きな船は、小さいサイズのコンテナだと9,000個ぐらい積むことができる」といった大型コンテナ船を目の前にしての解説に、参加した小学生9人は興味津々の様子でした。その後、いよいよ実際の仕事を体験。「ゲートチェック」と呼ばれる点検業務を行います。空のコンテナの中に入り、汚れなどの異変がないかをチェック。並行して上からも点検しました。参加した児童は「コンテナの中に入って暗いところを体験したり、穴が開いていないかを確認するのがとても楽しかったです」、「ここで学んだことを伝えたいと思いました」と振り返っています。児童たちを指導した海野さんは「港の中に入ると、海や物流の現場といった景色が見られるが、それを知らない小学生や中学生はたくさんいる。身の周りのものがこういう物流を中心に動いていると肌で感じてもらうのがイチバンの経験だし、そういう一次体験をしてもらうことが子ども達への望みになる」とお仕事体験の意義を語っています。

子ども達にこうした体験を提供している企業や自治体は、いま海にどんな課題を感じているのでしょうか？この日、清水港の別の会場では、海の未来について熱く語り合う大人たちのイベントも同時に行われていました。

[後編に続く](#)

No.	18	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1769">https://social-innovation-news.jp/?p=1769</a>				



## 【後編】静岡県・清水港のコンテナターミナルで小学生がお仕事体験！～静岡市、日本財団、鈴与が海の未来について意見交換～

静岡県の清水港で、豊かな海を次世代へつなぐための意見交換が、2024年8月20日に行われました。登壇したのは、海に関するさまざまな事業を行っている日本財団の海野光行常務理事、清水港を拠点にしている物流会社・鈴与の高橋明彦取締役副社長、そして、静岡市の難波喬司市長です。

最初にテーマとして取り上げられたのは、同時開催されていた「[私たちの生活を支えるコンテナターミナルのお仕事をしよう！](#)」について。これは、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として行われたもので、海の仕事を通じて、子ども達に豊かな海ごころを育んでもらおうという取り組み「海のお仕事体験プロジェクト こどもわーく」の実施イベントのひとつです。この日は、港湾事業を行う総合物流企業・鈴与の社員となり、コンテナターミナルの現場で実際の点検作業などに挑戦しました。

子ども達の様子を見学していた登壇者3人は、体験の重要性を再認識したようで、日本財団の海野常務理事は、子どもの頃の海体験の重要性を指摘。「海が好きかどうかについて調査したところ、2019年から13%ほど減少している」と日本財団が今年行った「海と日本人」に関する調査結果を発表し、「日本全体で“海離れ”が進み、人と海との距離感が開いていっている」と話しました。さらに、「都道府県別 海の愛着ランキング」で、清水港のある静岡県が全国36位という結果も示しました。これには、難波市長も「衝撃を受けた。本当に危機的な状況だと思っているのでなんとかしないといけない」と危機感を露わにしました。

こうしたさまざまなデータが示される中、海離れの原因や解決策を登壇者がそれぞれの立場から提言。鈴与の高橋副社長は「（かつての）近い海から、海にわざわざ行くというイベントみたいな重いものになっているのが現在ではないか」と原因について推測。難波市長は「自然に海に親しんでもらうということは、なかなかできなくなっている。そういう機会を意識してつくっていかなければならない。子ども達に海のお仕事を体験してもらうようなプロジェクトをどんどんやる（ことがひとつだ）」と解決策を述べました。また、日本財団の海野常務理事は「これだけ海に囲まれている海洋国家・日本なので、レジャーだけではなく、産業・文化・歴史といろいろなものがあるため、子ども達には多面的に海を知って欲しい」と話しています。

No.	18	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1769">https://social-innovation-news.jp/?p=1769</a>				

そうした中で、子ども達に多様な海体験を提供しているのが、「海のお仕事体験プロジェクト こどもわーく」です。これまでに100種類以上の産業と連携し、2,000人以上の親子が参加しているそう。日本財団では、このほかにも世界に誇る海洋・深海のプロフェッショナル人材を輩出しようと行われている「深海研究スーパー・キッズ育成プロジェクト」や「無人運航船」の乗船体験などを実施しているとのこと。また、清水港を拠点としている鈴与も海と接する機会づくりを行っていると言います。「市内の子ども達を湾内クルーズに連れていたり、Jリーグのチーム“清水エスパルス”的選手たちと一緒に海岸の清掃をしたりしてきた」と高橋副社長が紹介。

そして、静岡市でも一大プロジェクトが進行中で、難波市長は「“ブルートランスフォーメーション”と呼んでいるが、この清水港を中心にして駿河湾を生かし、海を活用した社会変革の国際的な拠点を清水につくろうと動いている」と紹介しました。

さまざまな意見が交わされた今回の成果について、海野常務理事は「清水港というこれから外に打って出ようと機運が高まっているところで、こういったプログラムが行えたのは意義深かったと思う。ここでやったことが他の地域でもモデルとしてつながっていくことを期待している」と話しています。

No.	19	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1776">https://social-innovation-news.jp/?p=1776</a>				



## 【前編】学生による海と食の未来を考える期間限定レストラン。オープンまでの3ヶ月～「THE BLUE CAMP」～

学生が企画・調理・運営の全てを行った期間限定のポップアップレストランが、2024年8月初旬にオープンしました。このレストランは、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として行われたプログラム「THE BLUE CAMP」の集大成です。

このプログラムは、東京と京都の2か所で開催。選抜された15人の学生が、料理界で活躍するトップシェフたちのもとで海と食の未来について学び、考え、実践します。2年目となる今年のテーマは「和食」。Chefs for the Blueの代表理事で、このプログラムのキャンプ長を務める佐々木ひろこさんは「海の恵みは和食と切り離せない。学生たちにとってもイメージしやすい分野だと思う」と和食にした理由を語っています。

この日は、3ヶ月の学びを伝える場としてオープンするレストランの初日。コンセプトから料理の内容まで、全て学生たち自身でつくり上げてきました。そのうちのひとりで今回ホールを担当したのが、野口絵子さんです。野口さんは慶應義塾大学の2年生で、お父さんは有名な登山家。幼い頃から海よりも山に親しんできました。「海は泳ぐの苦手なんです。山が好きな分、海が怖くなっています。でも、もっと環境・地球全体を見てみたいと思ったので、今回は全く未知の世界の海のプロジェクトに参加しました」と、THE BLUE CAMPに参加したキッカケを話しています。そんな野口さんが3ヶ月を通して最も印象に残っていることは「合宿の時に、もう昆布が取れない、昆布がなくなったら和食がなくなるという話が一番印象的でした」。そう話したのは、6月初旬に行われたキックオフ合宿。東京と京都の学生たちは静岡県伊東市に集まり、この地に伝わる伝統漁法の定置網漁を間近で体験しました。城ヶ崎海岸富戸定置網の代表取締役・日吉直人さんは「私の網は150年の歴史がある。時代が証明した持続可能な漁業。歴史ほど証明できるものはない。ちなみに、もっと古いのが、日本海の大謀網（だいぼうあみ）という定置網で獲った塩ぶり。豊臣秀吉の時代に聚楽第に塩ぶりを送ったというのが一番古い文献に出てくる。約400年ちょっと。そのくらい歴史があるということ」と紹介。そして、漁師として日々、海の魚と向き合う日吉さんは、学生たちに「魚が（今もたくさん）いれば恐らく言わなかっただと思う。僕も獲りたいから。けれども、（このままでは）僕の時代はいいが、君たちの時代やもっと先の時代には本当に魚が食べられなくなる」と資源管理の重要性を熱く語りました。

No.	19	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1776">https://social-innovation-news.jp/?p=1776</a>				

そして、キッチンを担当した内のひとりが、野澤悟志さん。大学では政治経済を学びながら個人で料理の勉強もしているのだそう。シェフになることを夢に抱き、このプログラムの門を叩きました。そんな彼がこの3ヵ月で印象的だったことは「レストラン研修が自分料理人を目指す身としては印象に残っていて、どの料理もテーマが練られている。背景がすごい考えられている料理でした」と語っています。THE BLUE CAMPでは、当代一流のシェフたちが学生に寄り添い、共に3ヵ月を過ごします。日本料理「てのしま」の店主・林亮平さんはミシュランの星付き料理人で、学生たちにとっても雲の上の存在です。そして、もうひとりは、サステナブルな食材を全国から集め、和食のこころを追求し続ける「御料理ほりうち」の堀内さやかさん。このトップシェフ2人のお店で、レストラン研修が行われました。「日本料理でいう旬のハモ。実は問題があって、7月頃からハモはお腹に卵を持ち始める。あえてサステナブルでもなんでもないが、これから日本料理で旬と言われるハモを用意した」と、堀内さんは和食の要である“旬”について、あえて葛藤を促すような料理を提供し、彼らの舌とこころに刺激を与えました。野澤さんはこうしたレストラン研修で「ひとつの料理にいろんな思いを考えて、それを料理で表現する方法などに強く感動しました」と振り返っています。

フロアを担当したひとりは、高校生の伊藤紗織さんです。彼女は、学校では生徒会に参加するなど、積極的に周囲を引っ張るタイプのことですが、東京チームでは最年少。なぜTHE BLUE CAMPに参加したのか、その理由について伊藤さんは「自分より年齢が上であるとか、知識が豊富な人たちに囲まれた環境で自分が動いてみたいと思い、THE BLUE CAMPに参加しました」と語っています。物怖じしない性格はここでも健在なようで、企画会議などでは積極的に意見を出しました。「全員で集まって冊子や設えを詰めていった期間が自分の中ですごく心に残っていて。海について愛や知識が深まったと同時に自分自身について考える時間も多かったです」と振り返っています。

学生たちが全力で取り組んだ海の“いま”的3ヵ月。学び、語り合うほどに彼らの心の中には何か訛然としない“もやもや”が広がっていました。そこで、「魚食文化である和食を未来につなげていくことは、資源を管理し魚を守る必要があります。けれども、一般の生活者にできることは限られているのでは」という“もやもや”を彼らはあえて心に残したままレストランオープンの日を迎えることになりました。

[後編に続く](#)

No.	20	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1778">https://social-innovation-news.jp/?p=1778</a>				



## 【後編】学生による海と食の未来を考える期間限定レストラン。オープンまでの3ヶ月～「THE BLUE CAMP」～

都内に、「THE BLUE CAMP」の学生たちが出店した期間限定のレストランが、2024年8月6日から8月11日までオープンしました。THE BLUE CAMPは、海に深い関心を持つ学生たちが料理界で活躍するトップシェフたちと共に、海が抱える問題とその先の未来を考え、実践していくプログラムで、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として行われています。2年目となる今年も東京と京都の2か所で同時開催されました。

東京チームのコンセプトは、店名にもしている「あおのいま」。海や漁業、流通などの“いま”を表現したのだそう。開店と同時に接客に出たのは、チーム最年少の高校生・伊藤沙織さんです。「国産のタコの漁獲量は激減してしまっていて、現在は輸入タコが半分を占めています。魚を普段から食べても知ることのない事実があります」と紹介するなど、魚が減ってしまっているという現実をリアルに感じてもらうため、ウェイティングルームを「売る魚がない魚屋」という形にして伝えました。

そして、料理は、前菜、揚物、お膳、デザートという4品のコースです。前菜には資源量の変動が激しいイワシを使用。養殖用の餌などに使われたり、食用以外での利用が多かったりするイワシを和食として食べ続けることの重要性を伝えています。続いて2品目は、キッチン担当の野澤悟志さんがこだわった「黒鯛の米粉揚げ 夏野菜あん」。近年、食害をもたらす魚として問題視されているクロダイを食材に選びました。「クロダイのところは本当に試行錯誤して、添える夏野菜の素揚げも、どれが最もクロダイを引き立てつつ、夏の感じを出せるかにこだわりました」と野澤さんは語っています。そして、ホール担当の野口さんと安永さんは、料理の背景となっている海の“いま”を会話の中で伝えていきます。クロダイでは「クロダイは食害をもたらすと言われていて、海苔を食べてしまう魚。なので、漁師さんたちからすると嫌われ者」と3ヶ月で学んだことを説明していました。そして、コースのメインは「マグロづくし御膳」。マグロは国際的な資源管理が効果を上げ、数が順調に戻ってきている魚です。とはいっても、資源管理は国単位のルールの中で行われるなど、ある意味で大きな世界の話です。では、いち消費者としてどんな行動が求められるのか、それについて安永さんは「意識を持った行動をして欲しいというのがありますが、具体的にどういう行動がいいのかわからないとずっと考えていて、なかなかこの3ヶ月では答えが見つからず」と、その“もやもや”を率直に語りました。

No.	20	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1778">https://social-innovation-news.jp/?p=1778</a>				

最後はデザート。「ミリン」という赤い海藻を乗せた水ようかんです。かつてはよく食べられたというミリンも、藻場の減少とともに、今はほとんど忘れられた食材になっているそうです。

持続可能な海と食を表現したコース料理を提供した東京チーム。これだけで終わりではなく、おしゃいに小さなサプライズも用意していました。食事を終えたゲストが、ウェイティングルームの“魚屋”を通ると、そこには活きの良い魚たちが戻っていたのです。フロアを担当した田中大輔さんは「資源管理を伝えることはすごく無責任な気もしました。結局は行政マターなのではないかとか。自分たちでどんどん疑問や葛藤が生まれてきて。その思考のプロセスを“葛藤”というダンボールに書きました」などとプレゼン。そのプレゼン内容について野口さんは「答えがひとつ出てきても『それはやはり違うんじゃないかな』となってしまう。でもその“もやもや”的葛藤に、別にひとつの解を出さなくともいいのかなと思って、お客様も一緒に悩みましょうというテンションでいこうと考え、最終的に“葛藤”というボードになりました」と話しています。ひとりの客として店を訪れた日本財団の海野光行常務理事は「まず料理がすごくおいしかった。最後のプレゼンテーションもすごく心に刺さるものがあり、彼らが言っている“もやもや”というひとつのキーワードについて、自分自身に対しても、もやもやして欲しいし、他の人たちのもやもやも解決できる、もしくはもっと“上のレベルのもやもや”を考え続けられるようにしてもらいたい」と語っています。

そして、濃密な3ヶ月をともに過ごしてきたのが、伴走してきた和食料理人の林さんと堀内さんです。ふたりにはさまざま思いがあったようです。林さんは「（彼らはすでに）同志ですよ。今までの既存の料理業界の上下関係ではない新しいカタチが間違いなくあって、新しい感性とかエネルギーを毎日感じている」と言います。堀内さんは「彼らに最後は人に伝えたい経験として心に残って欲しいと思って伴走してきた。何年かしたらそれぞれの分野でバラバラになるだろうけど、このチームで学んだことを各分野へ持っていって、伝えていくって欲しいと思う」と学生たちにエールを送っています。さらに、キャンプ長の佐々木ひろこさんは「（彼らには）いろんな葛藤があると思う。それをこのプログラムを卒業した後に、自分たちの道の中で見つけていくらえれば、このプログラムの意味があるのかなと思う」と、THE BLUE CAMPを通じての思いを話しています。

海と食の未来を見つめ、考え続けた3ヶ月。彼らの心の“もやもや”がいつか晴れる日は来るのでしょうか。

No.	21	エリア	広島	カテゴリー	テクノロジー
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1790">https://social-innovation-news.jp/?p=1790</a>				



## 世界初！広島県に水素エンジンの開発研究センターが誕生～日本財団「ゼロエミッション船プロジェクト」が建設した「水素エンジンR&Dセンター」～

広島県福山市にある常石造船の敷地内に、ジャパンハイドロ株式会社が運営する「水素エンジンR&D（研究開発）センター」が誕生し、その内覧会と開所式が2024年9月4日に行われました。このセンターでは、水素エンジンの開発から水素の貯蔵、船舶への水素の充填までを一括して行うことが可能で、このような研究開発センターを造船所内に整備したのは、世界初のことです。

水素社会の実現を見据えたこの最先端の開発拠点は、日本財団「ゼロエミッション船プロジェクト」の一環として建設。このプロジェクトでは、究極のクリーンエネルギー「水素」に注目し、二酸化炭素を排出しないゼロエミッション船を世界に先駆けて実用化するべく、関連技術の開発と実証実験を行っています。2024年4月には、水素燃料電池を搭載した船で、二酸化炭素を排出せずに運航する実証実験に成功しました。

今回建設された「水素エンジンR&Dセンター」は、水素エンジン単体の性能試験を行う設備のほか、排気ガスに含まれるCO2などの濃度を計測・分析できる「制御分析室」も設置。

ジャパンハイドロ株式会社の原田智明技術部長は「水素混焼運転を行うことで、二酸化炭素の排出量は3分の1まで減る（ことを計測できる）」と、実例を示しながら計測・分析について説明しました。さらに 2025年1月には「水素ステーション」も完成予定。このステーションから船へと水素を直接供給できるようになります。この世界でも類を見ないセンターの今後の活用について、日本財団の海野光行常務理事は「私たちは2050年に向け、内航船の二酸化炭素の排出をゼロにするという目標を掲げているので、まずはそこにしっかりと貢献する。また、ここで生まれる技術というのは、恐らくこれから日本と世界をリードするようなものになっていくので、次世代の子どもたちへ、（水素技術の）具体的なもののを見せる場として活用していくことも期待している」と語っています。

No.	22	エリア	全国	カテゴリー	海ごみ
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1794">https://social-innovation-news.jp/?p=1794</a>				



## ポケモンに銀魂のキャラも参戦！お台場でコスプレイヤーがごみ拾い～「秋の海ごみゼロウィーク2024」キックオフイベント～

東京・お台場で「コスプレde海ごみゼロ大作戦!!」が、「秋の海ごみゼロウィーク」のキックオフイベントとして2024年9月21日に行われました。海ごみゼロウィークは、日本財団と環境省が、2019年から実施している海洋ごみ対策を目的とした全国一斉清掃キャンペーンです。この日に行われた「コスプレde海ごみゼロ大作戦!!」は、今回で8回目。ウィークを盛り上げる恒例のイベントで、コスプレイヤーなど約350人が参加しました。開会式では、登壇した環境省の国定勇人環境大臣政務官が「発生源の約8割を占めている陸からのプラスチックの流出を止めていかなくてはいけない」と語りました。

そして、開会式での「海ごみゼロ！」の掛け声の後、清掃活動がスタート。参加者は分別用のごみ袋とトングを持ち、海がすぐそばのお台場でごみを拾い集めました。参加したコスプレイヤーは「（ごみが）散らばっているので普段から分別などを徹底したいと思った」、「結構大きいごみがあったので拾えてよかった」、「イベント参加は3回目。やる場所によって拾うごみの数とか種類とかも変わる」と話しています。また、世界コスプレサミット2024で総合優勝を果たした“みおまよ”的ふたりも、このイベントのアンバサダーとして、人気作品「銀魂」に登場するキャラクターのコスプレで参加。まめまよさんは「ここ（お台場）ならではだと思ったのが、劇場や映画館のチケットが落ちていたこと」と拾ったごみについて説明。相方のみおしさんは「（コスプレイヤーが）いろんなところで写真を撮る時に、ごみは目立つので、コスプレイヤーも意識して常日頃から気をつけていきたい」と話しています。さらに、今回は海外出身のコスプレイヤーもアンバサダーとして参加。スペイン出身で「呪術廻戦」のキャラクターに扮したクロウさんは「コスプレイヤーとして、趣味をやりながら皆さんに（ごみ問題について）興味を持ってもらえるのはいいと思う」と語っています。オーストラリア出身で、「ポケモン」に登場するキャラクターのコスプレで参加したKさんは「4年間ぐらい日本に住んでいるが、ペットボトルリサイクルというシステムは素敵だと思う。オーストラリアのキレイな海と日本のキレイな海の両方を守りたい」と意気込んでいます。そして、日本財団の海野光行常務理事は「（ごみ拾いは）ひとりだとやりにくいところもあるので、みんなで一緒にごみ拾いをすることによって、ハードルを少し低くしてもらえた」と語っています。

秋の海ごみゼロウィークは9月29日まで。全国各地でごみ拾いが行われる予定です。

No.	23	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1798">https://social-innovation-news.jp/?p=1798</a>				



## 参加は30カ国以上！「日本財団 スポGOMI ワールドカップ 2025」の開催を発表

「日本財団 スポGOMI ワールドカップ 2025」の開催が決まり、2024年10月1日に発表されました。

「ス poGOMI」とは、ごみ拾いを競技化した日本発祥のスポーツ。2008年に誕生して以来、拡大を続け、2023年には海洋ごみ対策を行う日本財団「海と日本プロジェクト・CHANGE FOR THE BLUE」の一環として初のワールドカップを開催。各国の代表21チームが、東京でごみ拾いバトルを繰り広げました。

この日、発表されたのが、そのワールドカップの第2回大会の開催についてです。主催である日本財団の笹川陽平会長が「日本発のス poGOMIで世界の環境問題の最も基本的なところを解決しようと」と語ったように、今大会も世界各国で予選大会を実施。前回を上回る30カ国以上の参加が決まっています。そして、2025年10月に、その代表チームが東京に集い、決勝大会が行われる予定のことです。また、大会のアンバサダーには、当日登壇し、「ス poGOMIワールドカップは、エントリーする勇気さえあれば、誰でもその国の代表になれる可能性がある」と語ったJOCアスリート委員長・ス poGOMIアンバサダー・オリリンピアン（競泳）の松田丈志さんのほか、オリリンピアン（クライミング）の野中生萌さん、タレント（元AKB・SKE）の山内鈴蘭さんが、前回に引き続き就任。さらに、今回から新たに2人のアスリートが加わりました。そのひとりでオリリンピアン（陸上100mハードル）の寺田明日香さんは「私自身も（大会に）参加させてもらう予定なので楽しみだし、たくさんの方々と交流しながら、楽しんでス poGOMIワールドカップを広げていきたい」と意気込んでいます。また、パリ2024パラリンピック競技大会で日本代表選手団団長も務めたパラリンピアン（射撃）の田口亜希さんは「私は客船“飛鳥”的乗組員をしていたので、海に対しての思いはすごく強い。だからこそ、アンバサダーとして、ごみを捨てない、ごみがあれば拾うことを皆さんに伝えていきたい」と語っています。そして、日本財団の海野光行常務理事は「海洋ごみと言っても、8割ほどは陸から川を流れていくということで、ごみ拾いという活動が最後の砦になる。このワールドカップは、（ごみ拾いの重要性を伝える）良いコンテンツだと思うので全世界に発信をしていきたいと思う」と話しています。

No.	24	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1802">https://social-innovation-news.jp/?p=1802</a>				



## サザエさん＆モデルの香音さんが「参加した海イベント～イトヨーカドーで海と日本プロジェクト×サザエさんによる親子向けイベント開催～」

イトヨーカドー アリオ北砂店で、サザエさんと日本財団「海と日本プロジェクト」がコラボしたイベントが、2024年10月5、6日に開催されました。これは豊かな海を次世代に引き継ぐために、アクションの輪を広げていくことを目的としています。

2日間に渡って行われたイベントには、2022年から海と日本プロジェクトとタッグを組むサザエさんがファミリーで参加し、会場を盛り上げていました。また、射的やブックカバーをつくれるワークショップなど、さまざまなプログラムを実施。その中のひとつが、アップサイクルプロダクトの展示販売会です。これは海洋ごみ対策のために発足した複数企業をまたぐプラットフォーム「ALLIANCE FOR THE BLUE（アライアンス・フォー・ザ・ブルー）」による取り組み。展示されている全ての商品は、海洋プラスチックごみの約3割を占めると言われる使用済みの漁網を資源として開発・製造され、海洋ごみを付加価値の付いた商品に変える「アップサイクル」という試みで、「FUMIKODA」や「Aww」といった人気ブランドと協働したバックなど、さまざまにラインナップしていました。また、売り上げの一部を藻場再生プロジェクトへ寄付する取り組みも始めたそうで、ALLIANCE FOR THE BLUEの野村浩一代表理事は「豊かな海を将来世代に引き継ぐことをミッションとして活動している。その上で、海ごみを無くすこともひとつの課題。また、魚にとっての住処であり、卵を産む場所もある藻場が減ってきてる現状があるので、豊かな海を残すために藻場の再生にも注力していくと考えている」と話しています。そういったプログラムが行われる中、最終日にはトークショーも実施。魚の生態などをおもしろく紹介するテレビ番組でMCを務めるモデルでタレントの香音さんと、日本財団の海野光行常務理事が登壇。香音さんは魚を抱きかかえた写真について「番組で釣った“キツネエフキ”という名前のお魚。だいぶ大きいお魚を釣り上げたということで、海に飛び込んでしゃいそうなぐらい引きが強くて、釣り上げた時は本当に楽しかったです」と海についてのエピソードを語りました。また、海野常務理事は不思議な見た目の魚の写真について「アニメのキャラクターみたいな感じですが、“プロブフィッシュ”という名前で、別名『世界で一番醜い魚』と深海生物を紹介。そのほかにも、ビーチの砂にプラスチックごみがどれぐらい混じっているかの実験、サザエさんファミリーも交えての子どもたちとのじゃんけん大会などを実施。

No.	24	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1802">https://social-innovation-news.jp/?p=1802</a>				

また、この日は、全国のイトーヨーカドー店舗で集まった海と日本プロジェクトへの寄付金贈呈式も執り行われました。さまざまなプログラムが実施され、大きな賑わいを見せたイベントについて、海野常務理事は「サザエさんは、国民の97%が知っているという数字も出ているので、これまで海とは関わりのなかった方々も、サザエさんを通して海に入ってくると考えられます。ですので、今後もサザエさんファミリーとコラボレーションした事業を増やしていくべきだと思っています」と語っています。

No.	25	エリア	全国	カテゴリー	海ごみ
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1806">https://social-innovation-news.jp/?p=1806</a>				



## スーパー・キッズ9人の中で頂点に立ったのは！？～「第4回 海洋インフォグラフィックコンテスト」～

都内で「第4回 海洋インフォグラフィックコンテスト」が、2024年9月21日に行われました。このコンテストは全国の小学生から「海の研究レポート」を募集。厳選された9人が、プロのデザイナーとタッグを組み、レポートをわかりやすく視覚化したインフォグラフィックポスターを制作。その内容をプレゼンする大会で、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として行われています。

この日、ステージに立った小学生たちは生き物、グルメ、海洋ごみ問題などさまざまな切り口から研究してきたテーマを熱くプレゼン。例えば、「危険なプラスチックごみ ゴーストギア」というテーマで発表した神奈川県の小学6年生・藤井景心さんは、「最近、僕は廃漁網をアップサイクルしてアート作品をつくりっています。これが刺し網漁の廃漁網でつくったアカクラゲです」と作品も披露。また、埼玉県の小学5年生・波多江美月さんは冒頭で「北海道では今まで獲れなかったブリがここ10年で6倍獲れるようになりました。逆に今まで獲っていたサンマが1/5に減っています」と紹介したように、「レッツポジティブ！魚種交代」というテーマを研究し発表しました。その9人の中から最優秀賞に輝いたのが、「未利用なんて言葉はいらない！“悪者”をヒーローにするのはばくちだ！」というテーマで発表した今西奏大さんです。小学4年生の今西さんが研究したのは、地元・鹿児島県のウニについて。「阿久根の海は、以前は藻場が広がるウニや魚たちの天国でした。それが急激に増えたウニが藻を食べつくす磯焼けによって、ゴソゴソした岩場ばかりになってしまったのです」と紹介したように、温暖化などによって阿久根地域に増えたウニをテーマに、磯焼けやウニの身が痩せている問題と地域の取り組みについて研究しました。そんな今西さんが注目したのが地元の水産加工会社「尾塚水産」です。尾塚水産はウニ食品の加工製造のほか、ウニ殻を使ったアート作品や染物などもつくっています。その中でも、ウニの殻を高温で焼き、粉末にした「ウニ殻カルシウム」に感動した今西さんは「僕も阿久根の海のために何か行動を起こしたい！と思いました。そして、阿久根の特産品である華アジを、ウニ殻カルシウムを使ってフライにした『阿久根イイネ！のお宝フライ』を提案したのです」と発表したように、問題や取り組みを紹介するだけではなく、ローカルフードの開発という解決策もプレゼンしたのです。そんな今西さんが、今回の研究とインフォグラフィックで伝えたかったことを聞いてみると、「人間が利用する方法を考えつかないだけで、どんなものでも使い方は見つかる。

No.	25	エリア	全国	カテゴリー	海ごみ
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1806">https://social-innovation-news.jp/?p=1806</a>				

だから、未利用などと決めつけずに、一生懸命考えていくことが大切だということです」と語っています。

今西さん以外にも、プレゼンを行った全員が各賞に輝くなど、どの作品にも高い評価が与えられた今年で4回目となる海洋インフォグラフィックコンテスト。今大会と今後について、審査員を務めた日本財団の海野常務理事は「研究の中身がすごく進化していた。それはどういう部分かというと“現場感”。現場に行って調べて、さらに現場で体験したことを研究の中に活かしている。そのあたりはすごく特徴的で印象に残った。（だから次回は）多少レベルを上げる、もしくは宿題を出しても、対応して伸びていくのではという感じがした」と語っています。

今後、制作された全てのポスターは各所で展示される予定です。設置場所は「[海洋インフォグラフィックコンテスト](#)」のHPなどでチェックしてみてください。

No.	26	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1812">https://social-innovation-news.jp/?p=1812</a>				



## 直木賞作家4人も参加！有識者が灯台について語り合うイベント～海と灯台プロジェクトの集大成「海と灯台サミット2024」～

都内で「海と灯台サミット2024」が11月3日に行われました。（主催：一般社団法人 海洋文化創造フォーラム 共催：日本財団 海上保安庁）

近代日本の幕開けとともに誕生した灯台は、海上交通の安全を守る道標としての伝統的役割を超え、現代では多様な可能性を秘めた存在として注目を集めています。そこで、このサミットは、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として、灯台の新たな利活用方法や海洋体験を創造している「海と灯台プロジェクト」が、今年度の活動の集大成として実施。異分野・異業種の視点も交えながら、灯台での取り組みや未来について語り合いました。

第1部のシンポジウムは、日本財団の笹川陽平会長と海上保安庁の第一管区海上保安本部・函館海上保安部・菅原大交通課長によるビデオメッセージからスタート。笹川会長はアイスランドのガールスカギ灯台から「灯台をどのように保存し利活用していくかが重要。皆さんの活発な意見交換を期待しています」とメッセージを送り、菅原交通課長は北海道の恵山岬灯台での取り組みや活動を紹介しつつ、「本日の海と灯台サミットを通じ、『守灯精神』の輪がさらに広がることを祈念しています」と期待を寄せました。

シンポジウムはその後、「灯台で地域活性化」「灯台で○○やってみた」「海と灯台学」という3つのテーマをもとにトークセッション。まず、「灯台で地域活性化」では、日本各地の利活用事例を紹介。積丹町地域活性化協議会（北海道）の小山彩由里さんは「幻想的な空間を、参加者だけの貸し切りで楽しむことのできるロマンチックかつ大人の冒険心をくすぐるようなツアーを企画し実施しました」と、普段は立ち入ることのできない夜の神威岬灯台を訪れたツアーを報告。そのほかにも、愛媛県の佐田岬灯台で地元の高校生とコラボした企画など、さまざまな取り組みが紹介されました。

続いて、「灯台で○○やってみた」というテーマでは、現代版灯台守や灯台でキャンプを行ったバイきんぐ・西村瑞樹さんといった有識者たちがクロストーク。愛媛県の釣島灯台でリリー・フランキーさんとともに「灯台ラジオ」をやってみた杉作J太郎さんは「（生放送の当日が悪天候で）外もすごい雨と風なんですよ。その状態でも夜になつたら灯台の灯りが点いた。『あつ光が点いた』と思って一瞬うれしい。雨の日も風の日も灯台はこうやって頑張っているんだと感じた」と生放送の舞台裏を披露。

No.	26	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1812">https://social-innovation-news.jp/?p=1812</a>				

そして、会場でひと際注目を集めていたのが、石狩灯台の妖精こと“石狩灯台お兄さん”。「赤白つけようぜ！」という決め台詞を、登壇者たちと一緒に披露するなど会場を盛り上げていました。

「海と灯台学」というテーマでは、灯台をめぐる専門領域の有識者らが登壇。それぞれの研究について詳しく語りました。

さらに、第2部では、今年10月に出版された紀行集「灯台を読む」に参加した直木賞作家4人が登壇。「灯台を題材に物語を書くとしたら？」というテーマでは、門井慶喜さんが「海と灯台プロジェクトと逆に、海から灯台を照らすような感じで書いたらイケるんじゃないかな」、澤田瞳子さんが「長崎県の五島列島の福江島の灯台を書きたい。戦争に出ていく人たちにとっては、最後に見た日本の姿がこの灯台だったのだろう」と考えてきた切り口を紹介するなど、作家ならではの視点から灯台を語りました。

さまざまな事例とともに、活発な意見が交わされたこの日のサミット。海と灯台プロジェクトの今後について、日本財団の海野光行常務理事は「点であるものを線として結びつける意味合いもあるが、“灯台”と“旅”を掛け合わせるような事業展開、提案・企画などをこれから実証していきたい」と展望を述べています。

No.	27	エリア	全国	カテゴリー	テクノロジー
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1815">https://social-innovation-news.jp/?p=1815</a>				



## 国内最大！洋上風力発電の訓練センターが長崎県に誕生～日本財団洋上風力人材育成センター～

長崎県の伊王島に国内最大となる洋上風力人材育成センターが誕生し、その開所式が2024年11月7日に行われました。

脱炭素社会への実現に向けて、切り札とされているのが洋上風力発電。全国各地で建設が進む中、人材の育成が急務となっています。現在、この分野の人材は5,000人ほどですが、2030年には1万6,000人が必要となり、今世紀半ばにはその数が5万人に達すると見込まれています。そこで、日本財団は海洋開発分野の人材育成を推進する「オーシャンイノベーションプロジェクト」の一環として、企画や設計などを行う「技術者」を育成できる「長崎海洋開発人材育成・フィールドセンター（愛称：長崎海洋アカデミー）」を2020年に設立。そして、今回は建設やメンテナンスなどを担当する「技能者」を育成する「日本財団洋上風力人材育成センター」を開所しました。

開所式を迎えたこの日、さまざまな関係者が列席。長崎県の馬場裕子副知事は「海洋産業人材の育成施設がここ長崎に誕生するということは、新たな基幹産業として海洋エネルギー産業の拠点形成を目指す本県にとっても非常に大きな意味を持つ」とセンターの意義について話しました。そして、開所式後には、完成した「安全訓練棟」を公開し、訓練のデモンストレーションを実施。プールを使い、万が一海へ入水することになった場合の対応や救命いかだに乗り込む方法などを実演。また、高所からの救助訓練の様子もメディアに公開されました。ここでの訓練は、日英両言語に対応し、風力発電に関する国際非営利組織である「GWO（国際風力機関）」の認証も取得していて、年間1,000人ほどの育成が可能になるそう。さらに、2026年3月には「技能訓練棟」が建設され、2027年3月には洋上訓練が可能となる施設も完成予定です。日本財団洋上風力人材育成センター・松尾博志施設長は「地域社会にとっては雇用が生まれるということが非常に大事。洋上風車は長崎に現場があるじゃないかと、そこで自分の能力とか知識を活かしたいというUターンの若い方たちが増えるひとつの受け皿になると思う」と語っています。また、日本財団の海野光行常務理事は「洋上風力発電は裾野の広い産業だと思っている。海以外の異分野の人たちが参入できる分野だと思うので、造船とか海事関係、船舶関係以外の技術を持った人々がどんどん参入しやすくなると思うので、その辺は期待をしたい」と今後の展望について述べました。

No.	28	エリア	全国	カテゴリー	海ごみ
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1819">https://social-innovation-news.jp/?p=1819</a>				



## 優勝し東京代表となったのは!? 高校生23チームがごみ拾いでバトル!! ~スポGOMI甲子園2024・東京都大会~

「スポGOMI甲子園2024・東京都大会」が、お台場周辺で11月2日に開催されました。このイベントは、高校生ごみ拾い日本一を決める全国大会の予選のひとつで、日本財団「海と日本プロジェクト・CHANGE FOR THE BLUE」の一環として行われました。この東京都大会には全23チームがエントリーし、優勝すると全国大会に出場することができます。

参加者全員での「CHANGE FOR THE BLUE！」というスポGOMIではお馴染みの掛け声とともに、競技がスタート。スポーツとごみ拾いを掛け合わせたこのスポGOMIは、制限時間内に拾ったごみの量と質をポイントで競い合います。そのため、チームワークや効率的にごみを拾うための戦略次第で誰でも勝てる可能性があるのです。この日は、あいにくの雨模様でしたが、各チームは全国大会出場を目指し、精一杯ごみを回収しました。

そして、東京都大会を制したのは、サッカー部に所属している3人で結成した「狛江高校大久保」チーム。2位に192ポイントもの差をつけた1389.5ポイントで優勝しました。勝因について「（サッカーの試合では）周りを見ながらいつもプレーしているので、そこが活きたんじゃないかなと思います」と振り返り、「全国でも優勝します！」と意気込んでいました。

40都道府県の代表チームが集まる「スポGOMI甲子園2024全国大会」は、12月1日に開催予定です。

No.	29	エリア	全国	カテゴリー	安全・そなえ
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1822">https://social-innovation-news.jp/?p=1822</a>				



## LNG燃料船における安全訓練を第二海堡で実施～東南アジアの船員教育関係者が訓練生～

LNG燃料船における消防訓練が、第二海堡にある防災訓練所で2024年11月5日に行われました。

LNGとは天然ガスを超低温に冷却し液化したもので、従来の化石燃料と比べると環境負荷が低く、船舶用の代替燃料として活用が進められています。そのLNG燃料船の普及に合わせて世界各国で急務となっているのが、安全な運航を担う船員の育成です。そこで、IMO（国際海事機関）、日本財団、一般社団法人 日本船舶技術研究協会が協働して実施したのが、東南アジアの船員教育機関に所属する教官向けの消防訓練です。場所は、東京湾の真ん中に浮かぶ人工島「第二海堡（だいにかいほう）」。ここにある「防災訓練所」には、船上の火災をリアルに再現し、実際の火を使って消防訓練を行うことができる国内最大級の専用施設があります。そんな防災訓練所で、インドネシア、フィリピン、ベトナムの船員教育関係者が受講しました。

防火服に身を包み、最初に行われたのが、「ガス測定器の取り扱い方法」と「配管から漏れたLNGへの応急措置」です。LNGはマイナス162℃という超低温のため、漏れた場所に濡れたタオルを巻き付けて凍らせしまうのが有効だと学びました。また、漏えいしたLNGがどれだけ危険なのかも目の当たりに。鉄やゴム製品でもLNGにしばらく触れていると、もろくなり壊れやすくなってしまうのです。そして、最後に行われたのが「消火訓練」。LNGによる火災が起きた場合、水や泡での消火は火が大きくなるといった危険性があるそう。そこで、粉末消火器を使用。1人ずつ消火活動を行い、その有効性について身を持って体験しました。フィリピンから参加し、普段はトレーニングセンターで教官を務めているMinoli Marzan（ミノリ・マルザン）さんは「LNGの実際の取り扱いを目にしたのは、今回が初めてでとても興味深かったです。

（今後は）フィリピンで教えている内容に、ここで学んだことを組み合わせていくことで、さらに改善ていきたいと思います」と感想を話しています。また、IMO事務局 海上安全部 海事訓練人的因子担当課長のBingbing Song（ビンビン・ソン）さんは「新しい技術や代替燃料には、様々なリスクがあります。これらの燃料は適切に扱われる必要があり、適切なトレーニングが必要です。ですから、ここでの経験については大変よい機会に恵まれたと言えます。今後も、日本財団や日本の各機関と協力してLNG以外の燃料でも同様の活動を続けていきたいです」と語っています。

No.	30	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1825">https://social-innovation-news.jp/?p=1825</a>				



## 「海のごちそう？フェスティバル2024」開催！ ごちそうの後のハテナの意味は？～藤井サチ、 ホフディラン、Caravanなど豪華ゲストも参加 した海と人とをつなぐ食イベント～

「海のごちそう？フェスティバル2024」が、六本木にある東京ミッドタウンで11月9日と10日の2日間に渡って行われました。このイベントは、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として、「食」を取り組みを行っている「海のごちそうプロジェクト」が、1年間の集大成として2021年から毎年実施しています。

ただ今年は今までと違った目線で展開したそうで、主催者である一般社団法人 海と食文化フォーラムの富田大智さんは「（イベントのタイトルの）ごちそうの後に”？”がついています。あらためて海のごちそうとは何だろう？どういうことなんだろう？ということを、いろんな角度から考え直してみようということでハテナを付けました」と話しています。近年、海水温の上昇や魚種の変化、海藻が少くなり元に戻らなくなる磯焼けなど、海の環境にさまざまな変化が起こっています。そこで、今回のイベントでは、その変化に適応する知恵として日本の海の食文化を多角的に見つめ直したう。

そのために色々なプログラムを展開していく、そのひとつが「企画展示」です。日本の海の食文化について、歴史や旬、技法などの切り口で体系化。また、その展示と連動したステージイベントも実施。interfmとコラボしたラジオの公開収録では、「締める」「干す」「漬ける」「燻す」といった調理の技法を紹介。番組「OCEAN BLINDNESS～私たちは海を知らない？～」にゲスト出演した元サンフランシスコ日本国領事館公邸料理人の近藤一樹さんは4つの技法について「僕らが言るのは『塩で締めて酢で殺す』。しめサバのようなもの。そうして塩を緩和して食べている。だから自然と培ってきた調理法」などと紹介。この番組のパーソナリティをつとめる藤井サチさんは「『漬ける』は日持ちするために昔の人が考え抜いた知恵からだったと思うといろいろ納得できる。料理が楽しくなる」と感想を話していました。さらに、ステージでは、4つの技法を1つずつ深掘りするプログラムも行われました。日本財団の海野光行常務理事は「食材と調理方法のかけあわせによって、どんな形の料理が今の私達のライフスタイルに合うのかといったことを少し突き詰めていこうと思った」とその意図について説明しています。

No.	30	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1825">https://social-innovation-news.jp/?p=1825</a>				

そのほかにも、海洋問題を題材にした「海の落語」、ホフディラン・小宮山雄飛さん、Caravanさん、ソルトコーディネーターの青山志穂さんという豪華ゲストと海にまつわるトークを行ったラジオ番組「Lazy Sunday」の公開生放送、子どもたちを集めたクイズ大会などが行われ、フェスティバルを盛り上げました。

また、ステージ会場脇の屋外スペースでは、マルシェやキッチンカーも展開。マルシェでは、地域が抱える海洋環境の変化に適応し開発されたさまざまな海のグルメを販売。キッチンカーでは、食を通して海の課題を多くの人に考えてもらうため、各地域の課題にちなんだメニューを提供。“アイゴの漬け丼”を販売する「海のごちそう地域モデルinみえ熊野」の売り場では、訪れた客に地元・三重県の高校生たちが「アイゴは他の動物・魚たちの棲み処になっている藻場を食べてしまう魚なんです」といったように海の課題を熱心に説明していました。大盛況で終わった「海のごちそう？フェスティバル2024」。主催した海のごちそうプロジェクトは、さまざまなキャンペーンを行っている「[海のごちそうウィーク2024](#)」も11月30日まで展開中です。この機会に海の食文化を学び、海をもっと味わってみてはいかがでしょう。

No.	31	エリア	全国	カテゴリー	海ごみ
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1830">https://social-innovation-news.jp/?p=1830</a>				



## 高校生チャンピオン決定！スポーツごみ拾い全国大会～「スポGOMI甲子園2024」優勝は埼玉県代表～

### ●日本一の高校生ごみ拾いチームが決定！『日本財団「海と日本プロジェクト』スポGOMI甲子園2024・全国大会』開催！

『日本財団「海と日本プロジェクト』スポGOMI甲子園2024・全国大会』が、東京スカイツリー周辺で12月1日に開催されました。スポGOMIとは、ごみ拾いにルールを加えてスポーツ化した日本発祥の競技で、環境意識を高めながら競技の楽しさも追求した活動です。この日に行われたのは、地方予選を勝ち抜いた40都道府県のチームが東京に集結し、高校生ごみ拾いチャンピオンを決める大会。この活動は、日本財団が推進する海洋ごみ対策プロジェクト「海と日本プロジェクト・CHANGE FOR THE BLUE」の一環として行われています。

### ●全国から41チームが集結！ごみの総量は423.49kg！

今回の大会には、過去最多となる41チームが出場。競技は、「CHANGE FOR THE BLUE！」の掛け声でスタートしました。そのルールは3人1組のチームが、「走らない」「ごみを分別する」といった21の注意点を守りながら、制限時間60分間でごみ拾いを行うというもの。得点は、拾ったごみの量と種類で決まり、例えは「燃えるごみ100gで10ポイント」「たばこの吸殻100gで50ポイント」というようにポイントが設定されています。このため、体力だけでなく、効率的なごみ拾いの作戦やチームワークが重要です。参加した高校生たちは、事前に練った作戦を活かしながら、全力で競技に挑みました。その結果、全チームで拾ったごみの総量は、なんと423.49kgにもなりました。これはひとりが出すごみの量に換算すると約15カ月分に相当します。

### ●優勝は埼玉県代表「クリーンLV2」！収集ごみ26.89kg、4542ポイントで圧勝！

栄えあるごみ拾い日本一に輝いたのは、埼玉県代表の県立川口工業高等学校「クリーンLV2」。収集ごみ重量は26.89kg、4542ポイント獲得と、2位に約900ポイントもの大差をつけての優勝となりました。チームのメンバーは「去年も自分は出場したのですが、3位という悔しい結果に終わったので、リベンジができるとても嬉しいです」と喜びを爆発させていました。

No.	31	エリア	全国	カテゴリー	海ごみ
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1830">https://social-innovation-news.jp/?p=1830</a>				

### ●全国各地で計831チームが参加！常連チームも多数！

6回目の開催となったスポGOMI甲子園は、831チームが参加。常連チームも多くなるなど、年を追うごとに広がりを見せています。スポGOMIを考案した日本スポGOMI連盟の代表・馬見塚健一さんはその広がりについて「実は今日、神奈川県の中学生2名が視察に来ていました。高校生になった時にスポGOMI甲子園に出たくて見学に来たと。そういうのを聞くと6年経って少しづつ広がってきたと感じる」と実感している様子でした。

### ●世界へ広がるスポGOMI！2025年にはワールドカップも開催！

年々拡大を続けるスポGOMIは国内だけに留まりません。来年には「日本財団スポGOMIワールドカップ2025」の開催が予定されていて、現在、日本各地、そして世界各国で予選が行われています。日本財団 海洋事業部 海洋環境チーム チームリーダーの廣瀬正典さんは「（スポGOMIに） 参加した後は、ごみを見る目が変わったという声もよく聞く。スポGOMIワールドカップには、同じ価値観を持って世界の海洋ごみ問題に取り組める可能性を感じている。その一方で（スポGOMIは） スポーツでもあるので、ぜひ楽しんで参加してもらい、優勝を目指して頑張って欲しい」と期待を述べています。

### ●スポGOMIが生む未来への希望

今回のスポGOMI甲子園2024は、高校生たちの熱い戦いと環境への取り組みが融合したイベントとして大成功を収めました。「ごみ拾い」という身近な行動をスポーツ化したことで、楽しみながら地球環境に貢献できるスポGOMI。このムーブメントは、国内外でさらなる広がりを見せることでしょう。

No.	32	エリア	全国	カテゴリー	生態系
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1834">https://social-innovation-news.jp/?p=1834</a>				



## パナソニックや環境省も参加！エビデンス・ディスカッション・グルメから海藻の養殖を広めるためのイベント開催～「GOOD SEA DAY：海藻が支えるネイチャーポジティブ」～

都内で「GOOD SEA DAY：海藻が支えるネイチャーポジティブ」が、2024年12月19日に行われました。このイベントは、「海藻を通じて海の生態系を豊かに育むこと」を目的とし、海洋生態系などを調査研究する一般社団法人グッドシーが開催しました。

まずは、日本財団の支援を受けて実施した養殖藻場での調査結果が発表されました。海藻などが形成する「藻場」は、海の生き物たちの産卵場所や棲み処となる重要な場所です。しかし、地球温暖化や海藻を食べる生き物の食害などによって、天然の藻場は大幅に減少。環境省の調査によると、1年間で約6,000ha、東京ドーム1200個分に相当する面積が減っているとのことです。そこで、グッドシーは海藻の養殖に注目。人工的につくった藻場が、海の生態系にどんな影響を与えるかについてのデータがほぼなかったため、定量調査を実施。北海道函館市でのマコブ、愛媛県今治市でのヒジキ、熊本県天草市でのトサカノリの3か所で、何もしない藻場外のエリアと比較する調査を1年かけて行いました。その結果、トサカノリの養殖エリアでは36倍の魚の量を観測するなど、全ての調査地点で生き物が増加しました。海藻を育てたことで植物プランクトンや小さな葉上動物が多数出現。それらが魚たちのエサとなり、個体数が増えていくといった生態系の好循環を生み出していたのです。グッドシーでは養殖藻場の産業化を目指していますが、課題も認識しているとグッドシーの蜂谷潤理事は言います。「海に海藻がある状況をつくろうという場合、漁師さんだけが取り組めばできるわけではありません。もっと技術的なところを解決していく、販売の過程で（海藻に）付加価値化していくことが必要となっています」

そこで、今回のイベントでは、具体的なアクションを考えるため、有識者を交えてのパネルディスカッションも実施。パナソニックホールディングス株式会社の執行役員でグループCTOの小川立夫さんは、合同会社シーベジタブルと共に、ロボット技術・IoT技術を活用するといった海藻養殖のDXを検討中と話しました。また、環境省が所管する関連の取り組みなども紹介されました。

No.	32	エリア	全国	カテゴリー	生態系
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1834">https://social-innovation-news.jp/?p=1834</a>				

さらに、海藻料理を普及させるための試食会も実施。ミシュランガイドで三ツ星を獲得している和食料亭「菊乃井」が手掛けた「潮の香にゅうめん（三種の海藻入り）」のほか、すし作家・海藻料理研究家の岡田大介さんがつくった「若ひじきのサラダ」や「すじ青のりタルタル」など、海藻の可能性を広げる新たな料理の数々が提供されました。「菊乃井」の三代目主人・村田吉弘さんは「菊乃井でにゅうめんは何種類も販売しているが、海藻入りのにゅうめんは一番人気。ベースは磯の香りがするが、それぞれの味わいが違う」と紹介。また、岡田さんは若ひじきのサラダについて「やわらかいのにちゃんと歯ごたえがある」と解説しています。グッドシーは、2025年1月22日に「GOOD SEA DAY 海のネイチャーポジティブを実現する共創のあり方」を開催予定。古代より日本の伝統食として日々の暮らしとともにあった「海藻」。その海藻を海の未来へとつないでいくグッドシーの新たな取り組みに期待が高まります。

No.	33	エリア	静岡	カテゴリー	生態系
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1840">https://social-innovation-news.jp/?p=1840</a>				



## ローカル列車の旅で学ぶ海草・アマモと浜名湖の異変～静岡県の天浜線で行われた「アマモ探検ツアー」～

「天浜線アマモ探検ツアー」が、天竜浜名湖鉄道の期間限定列車を活用して2024年12月15日に行われました。

天浜線の愛称で親しまれている「天竜浜名湖鉄道」は、その名の通り、浜名湖のそばも通る静岡県のローカル鉄道。実はその浜名湖でアマモの減少が起きています。このイベントを主催した「浜名湖ワンダーレイク・プロジェクト」は、そのアマモの再生活動などを行っている団体で、地元の漁師や研修者らによって運営されています。浜名湖ワンダーレイク・プロジェクト 有識者委員会 委員長で漁師の徳増隆二さんは「アマモは漁業のためにも、（特産品の）ウナギやアサリなどにとって非常に大切なものです。アマモがなくなってアサリもなくなりました」と話しています。

アマモは海草の一種で、密集する「アマモ場」は生き物たちの住処や産卵場所となるため「海のゆりかご」と呼ばれています。海水と淡水が混じり合う汽水湖の「浜名湖」では2015年頃から急速に減少し、生態系に大きな影響を与えています。そこで、アマモと浜名湖について関心を持ってもらおうと、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として行われたのが、天竜浜名湖鉄道との協力です。知波田駅の副駅名を期間限定で「アマモ駅」にし、また、公募で選ばれたヘッドマークを装着した特別仕様の「アマモ列車」を運行。そして、その列車を貸し切りにして開催したのが、「天浜線アマモ探検ツアー」です。

ツアーは、天竜二俣駅からアマモ駅までを往復する半日のコース。浜名湖ワンダーレイク・プロジェクト 有識者委員会 委員で漁師の山田祐己さんが「根っこが甘いため『アマモ』という名前がつきました」、「別名は『リュウグウノオトヒメノモトユイノキリハズシ』と言い、日本で一番長い名前の植物です」と説明するなど、専門家による解説や列車内に貼られているクイズからアマモと浜名湖について知ってもらいました。その一方で、学びだけではなく、この路線の冬の風物詩である「ゆりかもめが飛来する駅」といった列車旅も楽しんでもらいました。そして、列車がアマモ駅に到着すると、参加者は一旦下車して浜名湖へ移動。アマモがかつて生い茂っていた場所やアマモ場の復活プロジェクトが行われている海を見学。浜名湖ワンダーレイク・プロジェクトでは、地域の子どもたちを集めて繁殖力の高い種をつくる水槽実験や育てた苗を浜名湖に植え付ける活動なども続けています

No.	33	エリア	静岡	カテゴリー	生態系
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1840">https://social-innovation-news.jp/?p=1840</a>				

。今回のツアーでは、浜名湖でのアマモ育成手段のひとつである船上からの種まきを参加者に行ってもらいました。参加者は「楽しかったです」、「（まいた種が）大きく育ったら嬉しい」と話しています。山田さんは今後の活動について「この活動が皆さんに認知されて、これからもっとたくさんの人で考えていけたら、本当に浜名湖が変わっていくと思います。環境問題のモデルになるような場所になってくれたら」と展望を述べています。

今後、天浜線アマモ探検ツアーは、2025年 1月26日、2月8日、2月22日に開催予定。また、アマモ駅とアマモ列車の特別仕様は3月までの期間限定とのことです。列車旅を楽しみながら環境問題についても考えてみてはいかがでしょう。

No.	34	エリア	全国	カテゴリー	調査
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1845">https://social-innovation-news.jp/?p=1845</a>				



## 日本初！海の変化に東京大学と全国の若手漁業者が連携して取り組み～「海洋環境変化対応プロジェクト」が本格始動～

日本財団、全漁連（全国漁業協同組合連合会）、東京大学大気海洋研究所による「海洋環境変化対応プロジェクト」が本格的にスタートすると、2025年1月20日に発表されました。

いま日本近海では、海水温の上昇や魚の生息域が移動するといった海洋環境の劇的な変化が起こっています。その変化に現場の漁業者も危機感を抱いていて、全漁連の三浦秀樹常務理事は「漁獲量も大幅に減少している。例えば、サケの漁獲がものすごい勢いで減っていて、スルメイカは12分の1ぐらいに減っている」と言います。また、鹿児島県で定置網漁を行う漁師で全国漁青連の顧問も務める川畠友和さんは「鹿児島県では、アジが激減している。一方で、今年だけマサバの漁獲がすごく多い。薩摩半島の南の方はほとんどサバだけで、値段も安いし労力もかかっているという問題に直面している」と嘆いています。こうした中、海の変化の実態を把握し、広く社会にその現状を伝え、有効な対応策を見出すことを目的に、日本財団、全漁連、東京大学大気海洋研究所が「海洋環境変化対応プロジェクト」を設立しました。

この日は、プロジェクトの本格始動とその内容を発表。日本財団の笹川陽平会長が「しっかりとモニタリングすることによって、日本の水産物の管理をやってもらう」と説明したように、日本全国の若手漁業者が最新の機器を使って海水温などのデータを継続して収集、そのデータを研究者が分析し、対応策などを検討していくもので、日本財団によると、漁業者と研究者が協力して海洋環境の変化に取り組むのは全国でも初めてとのことです。すでに12道府県13の地点でデータ収集が進められていて、この記者発表会では、沖縄県で起こっているサンゴの白化現象や瀬戸内海で足のないタコの報告が相次いでいることなどが紹介されました。東京大学大気海洋研究所の兵藤晋所長は「まずは一番基本的な水温から。そこに加えて塩分濃度のデータをとっていく。水温と塩分は生き物にとって必要不可欠なものなのでそのデータをとることが大事。また、漁業者の皆さんにお願いするため、長期的に労力をかけずにできることを考えると、その2つから始めたい」と話しています。

今後は収集する地点や調査項目を増やしていく予定で、日本財団の海野光行常務理事は「まず何が起こっているかをモニタリングでしっかりと把握をする。その上で何が必要かというとフィードバック。例えば、カキがそれなくなるとなった場合に、養殖の仕方をどう変えるか。これの提示まで踏み込んでやっていきたい」と展望を語っています。

No.	35	エリア	富山 福井	カテゴリー	調査
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1848">https://social-innovation-news.jp/?p=1848</a>				



## ドンジャラから宇宙食まで！高校生が挑む海洋資源と地域活性化

日本は海に囲まれている国ですが、海離れが深刻化しています。その解決の鍵となるのが、次世代を担う「高校生」です。日本財団が2024年に行った第4回「海と日本人」に関する意識調査によると、高校生は全世代の中で海に最も関心があるという結果に。そこで今回は、海にまつわる取り組みをしている高校生を取り上げます。

一般社団法人とやまミライラボと株式会社バンダイがコラボレーションして開発したのが、「富山湾おさかなドンジャラ」。これは、子ども達に富山湾の環境や魚について遊びながら学んでもらう教材として販売しているもので、この取り組みは日本財団「海と日本プロジェクト」の一環です。おもちゃメーカーであるバンダイは、これまで数々のドンジャラシリーズを販売してきましたが、教材としてつくるのは今回が初めてのこと。そのパイに描かれているのは、富山湾に住むさかな達。そのデザインを手がけたのは、富山北部高校情報デザイン科の生徒たちです。この日は、およそ3ヶ月かけて制作してきたパイとの対面。富山湾を代表するブリやホタルイカなど15種類のさかな達を描きました。そのデザインには、さかなの生態や旬の時期を見て学べるように工夫がこらされています。例えば、産卵期に姿が変わるサクラマスは、その生態に合わせて2パターンの絵柄を用意。生徒は図鑑で調べたり、水族館で実物を観察したりして、力を入れて制作しました。情報デザイン科の小川桜夜さんは「さかなの特徴にもこだわって制作しました。そこに気づいてもらいながら楽しく学んでもらいたいです」と話しています。このドンジャラは県内の全小学校や学童施設などに配布され、遊んで学ぶ海洋教育の教材として使われています。

お隣の福井県には、海洋を軸にした専門教育を行う高校があります。それが小浜市にある若狭高校です。この学校には普通科のほかに「海洋科学科」があり、生徒たちは海の環境や地域の資源などをテーマにした「探究学習」に取り組んでいます。2年生探究担当の中村恵美莉先生は「海洋科学科の特色である海を『好き×海』という形で活かそうと、好きなことと海をつなげて地域の課題に取り組んでいる」と説明。実際に成果も出正在して、2018年には生徒たちが開発したサバの缶詰が、宇宙で食べる「宇宙日本食」としてJAXA（宇宙航空研究開発機構）の認証を受け、話題となりました。そんな海洋科学科の生徒たちは今、どんなことに取り組んでいるのでしょうか。

No.	35	エリア	富山 福井	カテゴリー	調査
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1848">https://social-innovation-news.jp/?p=1848</a>				

男子生徒5人のグループが取り組んでいるのが、日本とフィリピンの海洋ごみの比較。フィリピンの提携校と協力し、国際的な視点から海洋ごみ問題を探究。生徒たちは小浜湾の海水を採取し、どんな海洋ごみが含まれているか調査したりフィリピンの高校と取り組みのアイデアを出し合ったりしています。盛下陽向さんは「海ごみは世界共通の問題なので、フィリピンや台湾などの海外の人と連携して海ごみ問題を解決していくと思っています」と意気込んでいます。

女子生徒3人のグループが取り組んでいるのが、福井県の郷土料理「へしこ」づくりです。井上陽菜さんは「（地元の）三方五湖で鯉がとれていますが、その鯉が大きすぎて消費に困っていると漁師さんにお聞きし、その鯉を使って三方の特産品を増やそうと取り組んでいます」と活動内容を話しているように、リアス式海岸にある三方五湖の鯉を使い、「へしこ」をつくろうと試行錯誤中です。一般的な糠（ぬか）だけではなく、うなぎの骨を粉にして混ぜた糠に漬け込んだり、福井県立大学海洋生物資源学部と連携して研究したりしています。同大学の細井公富准教授は「高校生が水産物に興味を持ってもらって、高校の段階から色んな研究をしてもらうのは、我々にとって非常にありがたい。一緒に取り組むのは有意義なことだと思う」と海に取り組む仲間が増えることを大歓迎しています。

地域の特性や海の課題と結びついた高校生たちの主体的な取り組みが、周囲の人たちを巻き込みながら、社会にとって有益な何かを着実に生み出しています。

No.	36	エリア	北海道 岡山 香川	カテゴリー	生態系
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1854">https://social-innovation-news.jp/?p=1854</a>				



## 漁業支援の革新：AI技術、クロダイ活用、ヒトデで地域活性化を目指す挑戦

カキの生産量で全国3位の岡山県。中でも瀬戸内市邑久町は県内有数の産地です。しかし、近年、増加したクロダイによって養殖のカキが食べられる「食害」が多発しています。邑久町漁協の松本正樹組合長は「年間で言うと、邑久町漁協だけでも1億円ぐらいのカキ養殖の食害が起こっている。生産者も色々な工夫をしているが、やはり増えたクロダイには勝てない」と嘆いています。漁業者にとってはたいそう困った魚・クロダイなのですが、実は食べてみると、とてもおいしいのだそう。そこで、このクロダイを使ったご当地弁当の開発が進められることに。生産者と消費者が共に喜ぶ、そんな一石二鳥の仕組みとなることが期待されています。料理研究家の喜多マリコさんがつくった試作品を食べてみた松本組合長は「おいしい」と絶賛。また、岡山県漁連の上柏恒一第二業務部長は「このお弁当をおいしく食べてもらって、どんどん生態系も普通に戻していくって、消費者の認知も上げていきたい」と展望を語っています。

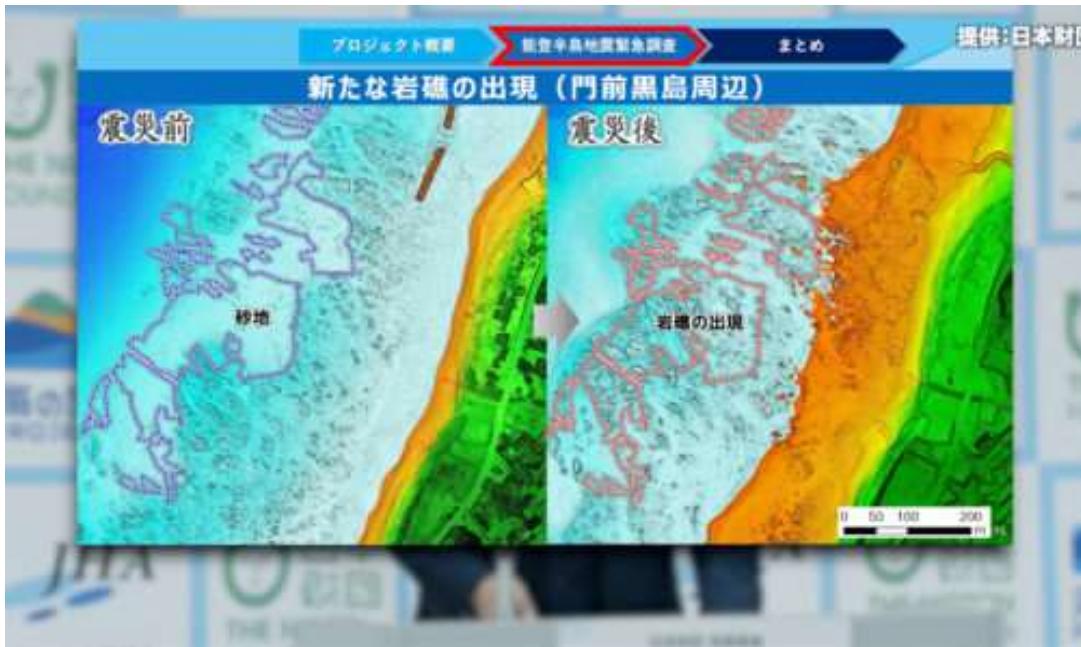
一方、北海道の根室では、ヒトデを使った驚きの取り組みが。ヒトデはホタテを食べてしまふため、地元の漁師たちにとっては頭の痛い存在です。そこで、根室の水産加工会社「吉田水産」がつくったのが、ヒトデを使った害獣忌避剤「強臭力（きょうしゅうりき）」です。漁業関係者から譲り受けたヒトデを、独自の方法で加工し、溶液に漬け込んで発酵させます。すると、強烈なにおいを放つ液体に。吉田水産 バイオ事業部の辻宰課長によると「検査機関にお願いして（においの）数値を測ってもらったが、においが強すぎて数値計測不可能となった」と話すほど。また、鹿を育てる牧場で実験も実施。白いエサ箱にだけ「強臭力」を入れると、近づいてきた鹿が飛びあがって逃げるほどの効力でした。道内のエゾシカによる交通事故は、2023年だけで5000件以上も発生。そこで、現在は大手電機メーカーと協力して、動物が来たらセンサーで反応して噴射する「自動噴霧装置」も開発中です。進化を続けるヒトデの利活用に今後も注目です。

そして、進化を続けている技術といえば「AI」。香川県の香川高等専門学校 宇宙開発研究部では、そんなAIを使って、漁業を支援しようと取り組んでいます。本科4年の齊藤壮志さんは「直島に行った際に、漁師さんから人材不足で困っている、魚が赤潮で死んでしまうと聞きました。そこで、僕たちにできることは何なのかと考えてこのシステムを開発しました」と話すものが「Seaサポ」です。これはAIを活用して赤潮の発生や移動の予測を行い、養殖の生産者などに通知する漁業支援アプリ。これまで手動のセンサーで測っていたものを自動化し、過去のデータをAIにディープラーニングさせることで、ほぼ100%に近い精度で予測できるようになったそうです。

No.	36	エリア	北海道 岡山 香川	カテゴリー	生態系
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1854">https://social-innovation-news.jp/?p=1854</a>				

このシステムは、事業アイデアとビジネスプランを競う全国大会で、4億円もの企業評価額を得て、全国2位に輝きました。齊藤さんは「僕たちはこのプロジェクトを通して、もっと日本や世界で魚が食べられるようになって欲しいという思いがあり、もっと漁業が盛り上がり上がればと思っています」と語っています。

No.	37	エリア	全国	カテゴリー	調査
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1858">https://social-innovation-news.jp/?p=1858</a>				



## 世界初！能登半島地震の前後で起こった海と陸の地形変化を完全可視化～全国で航空測量を行う「海の地図PROJECT」が緊急調査～

### ●能登半島地震の影響を可視化！最新の海底地形データを発表

「海の地図PROJECT」が、能登半島地震と豪雨災害の前後での海底地形データの変化について、2025年1月31日に発表しました。日本財団と日本水路協会が推進する「[海の地図PROJECT](#)」は、航空機からレーザーを発射して測量する最新技術を使い、海岸線の浅い海域（水深0～20m）を地図化しています。日本水路協会の加藤幸弘常務理事は「航空機を使うことで船舶に比べて90倍のスピードでの測量ができ、非常に効率的で高品質なデータが得られる」と説明しました。

### ●最大5.2mの地盤変動！震災後の能登半島の地形変化とは？

この日、海の地図PROJECTが発表したことのひとつが、能登半島地震による地形の変化です。震災前に測量を終えていた地点で、2024年4、5月に同じ調査を行ったところ、垂直方向に最大5.2mの隆起が発生、水平方向にも最大で4.3mもの移動が観測されました。それらの地形の変化によって、輪島市の門前黒島地区の沿岸では、幅200m前後の陸地が出現。さらに、海底の堆積物が移動したことで、これまで砂地だったところに新たな岩礁もできていました。大きな地殻変動を伴う地震の前後で、こうした海岸線付近の詳細な地形データを取得できたのは、世界でも初めてのケースだと言います。日本財団の海野光行常務理事は「能登半島の復興に欠かせない基礎データとしての活用に大きな期待ができる」と述べています。

No.	37	エリア	全国	カテゴリー	調査
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1858">https://social-innovation-news.jp/?p=1858</a>				

### ●専門家が解説！能登半島の海底変化が防災・生態系・漁業に与える影響

記者会見では こうしたデータの活用法について、各分野の専門家らがディスカッションを行いました。登壇した神戸大学 海洋底探査センターの巽好幸客員教授は「地震が起こる前後での地殻変動を海と陸とでシームレスに取れた世界初のデータだと思うので、これが取得できたのが素晴らしい。こういったデータは津波のシミュレーションを行うのに非常に重要で、積み重ねていくことで精度があがり、防災・減災につながると考えている」、東京大学 大気海洋研究所の木村伸吾教授は「沿岸の地形がきちんとわかることで、沿岸生態系の理解が格段に進む」、わじま海藻ラボの石川竜子代表は「（堆積物の移動で）つぶれてしまう漁場もあるが、新しくできた岩礁などに新たな藻場ができるのであれば、それは希望が持てる話だと思う」と話すなど、詳細な海の地図が完成すれば、さまざまな分野で海の課題解決が進むという期待の声があがっていました。

2022年にスタートした海の地図PROJECTは、現時点で日本の総海岸線の25%まで地図化が進んでいるそうで、2032年までには90%にまで伸ばしていく目標を掲げています。

No.	38	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1862">https://social-innovation-news.jp/?p=1862</a>				



## 高校生がサンゴの猛毒を研究！抗がん剤開発にも意欲！～「マリンチャレンジプログラム」全国大会～

### ●全国の中高生が挑戦する海洋研究プロジェクト

都内で「マリンチャレンジプログラム2024 全国大会～海と日本PROJECT～」が、2025年2月15日に開催されました。[マリンチャレンジプログラム](#)は、海・水環境に関する科学的な研究に挑戦する中高生を応援するもので、日本財団と株式会社リバネスと一般社団法人 日本先端科学技術教育人材研究開発機構（JASTO）が2017年から毎年実施。研究資金の助成や研究アドバイザーによるサポートが行われ、これまで1300人以上の次世代研究者が参加。専門家も驚く探究心でハイレベルな研究活動をしています。

### ●画期的なアイデアが続々！海洋問題へのアプローチと成果の発表

この日は、全国5ブロックで開催された地区大会を通過した15人が、研究の成果を発表する全国大会です。8回目の開催となる今年度も「世界的な和食ブームによって需要が高まっているタコの陸上養殖」、「熊本県産アサリの食害」、「カニからつくる生物分解できる漁網」など、海の課題を捉えたさまざまな研究が発表されました。「イカの甲には“キチン”という物質が含まれていて、キチンは医薬品や化粧品、プラスチックの原料にも使用されています。そこで、飲食店やスーパーで廃棄されるイカの甲からプラスチックをつくれないかと考えました」と発表した山口県立徳山高校の松永七海さんは、「イカから出る廃棄物の再利用法～イカでイカを釣る～」というテーマで研究。廃棄されるイカを10kgも集め、キチンから環境負荷の少ないプラスチックを開発。そこから疑似餌を作成し、テーマ通りイカ釣りにも成功しました。その結果、日本財団賞を受賞した松永さんは、今後について「海の研究の特に地球温暖化やマイクロプラスチックといった環境問題で、地元・山口県の海を世界に発信していく、大好きな山口の海をつないでいきたい」と語っています。

No.	38	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1862">https://social-innovation-news.jp/?p=1862</a>				

### ●最優秀賞はサンゴ大好きな高校生！

そして、未来の海洋学者たちの中から今年度の最優秀賞に選ばれたのは、早稲田大学高等学院の鈴木雅人さんです。「個人の趣味で研究に打ち込んでいて、サンゴに青春を懸けているような人生を送っています」と話す鈴木さんは、自宅と学校で飼育しているほど大のサンゴ好き。「今回、私が明らかにしたいと思ったことは、“マメスナギンチャク”が持つ毒についてです。“パリトキシン”、あるいはそれに匹敵するような何か強い毒があるのではと仮説を立てました」と発表したように、「沖縄産サンゴにおける刺胞毒の調査とパリトキシンの謎」というテーマに挑みました。マメスナギンチャクは、フグ毒などの約60倍という生物界でもトップクラスの毒であるパリトキシンを持つと言われている危険なサンゴで、実際にはどんな毒を持っているのか解明しようと研究を行いました。受賞後、「自分が大好きなサンゴについての魅力や価値を発信できたのがすごく嬉しかったです」と話す鈴木さんは今後について、「仮にサンゴの毒の成分が、僕が思っているタンパク毒であった場合、抗がん剤開発につながるような研究を進めていきたい」と、さらなる挑戦に意欲を見せました。

### ●海の未来を担う若き研究者たちの挑戦は続く

また、今大会では、共同研究プロジェクトのポスター発表も初めて行われました。このプロジェクトは、科学研究の初心者向けに企画されたもので、採択された10チームが「日本の海洋プランクトンマップを作ろう！」をコンセプトに進めてきた調査・研究の成果について発表しました。

審査員を務めた日本財団 海洋事業部 海洋環境チームの矢ヶ崎一浩さんは「皆さんから本当に海が好きというメッセージが伝わってきたので、このマリンチャレンジプログラムを始まりのキッカケとして、今後もどんどん興味のある分野を究めていって進んでもらいたい」とエールを送っています。未知なる海に挑戦する10代の研究者たちは、海よりも深い探究心で将来にわたって研究を続けていくことでしょう。

No.	39	エリア	全国	カテゴリー	調査
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1865">https://social-innovation-news.jp/?p=1865</a>				



## 「灯台×観光」など全国で進む新たな利活用 ～「海と灯台プロジェクト2024 成果報告会」 レポート～

都内で「海と灯台プロジェクト2024 成果報告会」が、2025年2月20日に開催されました。海の道標である灯台は、日本全国に約3000基ありますが、近年は廃止などの理由から減少傾向です。一方で、その多くが現役を終えた今も、文化・観光といった新たな価値とともに光を灯し続けています。日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として行われている「[海と灯台プロジェクト](#)」では、そういった灯台の利活用を後押しするとともに、2022年から「新たな灯台利活用モデル事業」を展開し、支援を行っています。2024年度は全国15地域で調査検証や利活用したイベント・地域活性化事業が行われました。

この日はその成果の発表会です。本州最北端の青森県・弁天島にある大間崎灯台では、島ごと観光に活用するプランを実施。大間崎灯台利活用コンソーシアムの島康子さんは「一番成果が上がった、これはやれるぜと手応えがあったのが、灯台ウォッチングクルーズの事業」と発表。野島崎灯台利活用プロジェクト委員会の新木義人さんは「私たちの取り組みは『灯台と星はともに航海時の道標』という点をストーリー立てて行いました」と話し、実施した灯台夜間特別開放ツアーの様子や、広報施策の一環として制作した星空タイムラプスムービーを紹介しました。高知県にある室戸岬灯台では、当時の灯台守が暮らした石造りの官舎を活用して宿泊事業化を進めています。室戸岬灯台・旧官舎及び周辺敷地利活用共同体の薬袋大知さんは「1日1組限定の“灯台ホテル”を富裕層やインバウンド向け施設に生まれ変わらせたい」と展望を述べています。そのほかにも、静岡県にある門脇崎灯台では最新技術「ミックスドリアリティ（MR）」を使った体験の提供、秋田県にある入道崎灯台では、灯台が立つ岩盤の石を活用したグルメフェスティバルの開催など、バラエティに富んだ施策の数々が発表されました。また、こうした取り組みに対して有識者らの意見も交わされました。灯台利活用の今後について、日本財団の常務理事・海野光行さんは「旅と灯台に何を掛けるかがこれからキーワードになってくる。このあたりをしっかりと進めていくために、どういった形で旅と灯台が結びつくのかという意識調査などを中心にした大規模な調査を行い、皆さんにフィードバックしていきたい」と語っています。

灯台を地域の誇りと考える多くの人の手によって、灯台の光は消えることなく続いている。

No.	40	エリア	全国	カテゴリー	安全・そなえ
URL	<a href="https://social-innovation-news.jp/?p=1869">https://social-innovation-news.jp/?p=1869</a>				



## 石破首相も登壇！日本で初開催の「ワールド・オーシャン・サミット」

都内で「ワールド・オーシャン・サミット2025」が、3月12日に開幕しました。このイベントは、海洋の持続可能な活用と保全をテーマにした国際会議で、イギリスのエコノミスト・インパクトと日本財団が共催。12回目となる今回は日本で初めて開催されました。

初日となるこの日、内閣総理大臣で総合海洋政策本部長も兼ねる石破茂首相も登壇し、「国民が海と親しむ機会がものすごく減っている。今は『海で泳いだことがない』という子どもたちが非常に多い。そして、泳げない先生もたくさんいる。そうして海に親しむ機会が減っていることは、非常に憂慮すべきことだと思っている。これから先わが国は“島国”から“海洋大国”を目指していきたい。そして、海の安全・平和・資源の利用に向けてもっと責任を果たしていきたい」など、内外の海洋問題に対して見解を述べました。

「ワールド・オーシャン・サミット2025」は3月13日に閉幕します。

### 3 ヤフー記事掲載

No.	エリア	カテゴリ	タイトル
1	全国	ライフ	日本の灯台郡を世界遺産に！～「海と日本プロジェクト2023成果報告会」開催～
2	全国	ライフ	目に見えない脅威が迫る！？海洋化学汚染を世界中の有職者が議論～Back to Blueが主導する「有害化学物質による海洋汚染ゼロの実現」～
3	全国	ライフ	アマモで醤油づくりが受賞！中高生が海に関わる研究を行う全国大会～マリンチャレンジプログラム2023全国大会～
4	全国	ライフ	海×3D！中学生離れしたスゴイ研究成果に専門家も脱帽！～「海洋研究3Dスーパーイエンスプロジェクト」3期生の研究発表会～
5	全国	ライフ	書籍化に世界的な活動も視野！海ノ民話アニメ～「海ノ民話のまちプロジェクト」によるアニメーション上映会と公開シンポジウム～
6	全国	ライフ	運航中CO2排出ゼロ！世界初の船で実証成功～日本財団ゼロエミッション船プロジェクト～
7	全国	ライフ	瀬戸内海の海洋ごみ問題解決へ延長して取り組み～日本財団と岡山県・広島県・香川県・愛媛県による「瀬戸内オーシャンズX」～
8	全国	ライフ	深海魚愛あふれるプレゼントをした小学5年生が大賞！～「深海研究スーパークリッズ育成プロジェクト」の研究成果発表会～
9	全国	ライフ	コスプレイヤーが福岡でごみ拾い～「春の海ごみゼロウィーク2024」の一環として開催された「コスプレde海ごみゼロ大作戦!!」～
10	全国	ライフ	日本財団と東大が大量に発見！レアメタルを含む海底鉱物資源～「マンガンノジュール（マンガン団塊）」に関する調査結果の発表～
11	全国	ライフ	大の字背浮きにだけ頼ってはいけない！？溺れを体験するVR！新たに“そなえ”を発信した「海のそなえシンポジウム」
12	全国	ライフ	75%の小学生が「海に行きたい！」と思うも行動とのギャップ判明～日本財団による第4回「海と日本人」に関する意識調査～
13	全国	ライフ	水難事故防止のために溺れを疑似体験できるVRコンテンツ～日本ライフセービング協会と中央大学が開発した新たに「海のそなえ」～
14	全国	ライフ	海がない足立区の公立小学校の児童が海体験～公立小学校への海洋学習・体験提供プロジェクト～
15	全国	ライフ	テトラポッドをつくる会社で小学生がお仕事体験～「海のお仕事体験プロジェクト こどもわーく」～
16	全国	ライフ	神奈川県鎌倉で世界溺水防止デーに行われた“水辺のそなえ”
17	全国	ライフ	【前編】静岡県・清水港のコンテナターミナルで小学生がお仕事体験！～「こどもわーくin清水港2024」～
18	全国	ライフ	【後編】静岡県・清水港のコンテナターミナルで小学生がお仕事体験！～静岡市、日本財団、鈴与が海の未来について意見交換～
19	全国	ライフ	【前編】学生による海と食の未来を考える期間限定レストラン。オープンまでの3ヵ月～「THE BLUE CAMP」～
20	全国	ライフ	【後編】学生による海と食の未来を考える期間限定レストラン。オープンまでの3ヵ月～「THE BLUE CAMP」～

## 3\_(2)ヤフー掲載記事リスト

74

No.	エリア	カテゴリ	タイトル
21	全国	ライフ	世界初！広島県に水素エンジンの開発研究センターが誕生～日本財団「ゼロエミッション船プロジェクト」が建設した「水素エンジンR&Dセンター」～
22	全国	ライフ	ポケモンに銀魂のキャラも参戦！お台場でコスプレイヤーがごみ拾い～「秋の海ごみゼロウィーク2024」キックオフイベント～
23	全国	ライフ	参加は30カ国以上！「日本財団 スポGOMI ワールドカップ 2025」の開催を発表
24	全国	ライフ	サザエさん＆モデルの香音さんが参加した海イベント～イトーヨーカドーで海と日本プロジェクト×サザエさんによる親子向けイベント開催～
25	全国	ライフ	スーパークリア9人の中で頂点に立ったのは！？～「第4回 海洋インフォグラフィックコンテスト」～
26	全国	ライフ	直木賞作家4人も参加！有識者が灯台について語り合うイベント～海と灯台プロジェクトの集大成「海と灯台サミット2024」～
27	全国	ライフ	国内最大！洋上風力発電の訓練センターが長崎県に誕生～日本財団洋上風力人材育成センター～
28	全国	ライフ	優勝し東京代表となったのは!? 高校生23チームがごみ拾いでバトル!!～「スモGOMI甲子園2024・東京都大会」～
29	全国	ライフ	LNG燃料船における安全訓練を第二海堡で実施～東南アジアの船員教育関係者が訓練生～
30	全国	ライフ	「海のごちそう？フェスティバル2024」開催！ごちそうの後のハテナの意味は？～藤井サチ、ホフディラン、Caravanなど豪華ゲストも参加した海と人とつなぐ食イベント～
31	全国	ライフ	高校生チャンピオン決定！スポーツごみ拾い全国大会～「スモGOMI甲子園2024」優勝は埼玉県代表～
32	全国	ライフ	パナソニックや環境省も参加！エビデンス・ディスカッション・グルメから海藻の養殖を広めるためのイベント開催～「GOOD SEA DAY：海藻が支えるネイチャーポジティブ」～
33	全国	ライフ	ローカル列車の旅で学ぶ海草・アマモと浜名湖の異変～静岡県の天浜線で行われた「アマモ探検ツアー」～
34	全国	ライフ	日本初！海の変化に東京大学と全国の若手漁業者が連携して取り組み～「海洋環境変化対応プロジェクト」が本格始動～
35	富山 福井	ライフ	ドンジャラから宇宙食まで！高校生が挑む海洋資源と地域活性化
36	北海道 岡山 香川	ライフ	漁業支援の革新：AI技術、クロダイ活用、ヒトデで地域活性化を目指す挑戦
37	全国	ライフ	世界初！能登半島地震の前後で起こった海と陸の地形変化を完全可視化～全国で航空測量を行う「海の地図PROJECT」が緊急調査～
38	全国	ライフ	高校生がサンゴの猛毒を研究！抗がん剤開発にも意欲！～「マリンチャレンジプログラム」全国大会～
39	全国	ライフ	「灯台×観光」など全国で進む新たな利活用～「海と灯台プロジェクト2024 成果報告会」レポート～
40	全国	ライフ	石破首相も登壇！日本で初開催の「ワールド・オーシャン・サミット」

No.	1	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	<a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/b20de9751adaf78e5cc77974202eba222141860">https://news.yahoo.co.jp/articles/b20de9751adaf78e5cc77974202eba222141860</a>				

**YAHOO! ニュース** IDでもっと便利に新規取得  
ログイン 誰でもZOZOTOWNが+10%お得に

キーワードを入力



トップ 速報 ライブ エキスパート オリジナル みんなの意見 ランキング 有料

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

## 日本の灯台群を世界遺産に！～「海と灯台プロジェクト2023成果報告会」開催～

2/20(火) 9:35 配信 口2 🎉 X f



日本財団「海と日本プロジェクト」

都内で「海と灯台プロジェクト2023 成果報告会」が、2024年2月14日に開催されました。

灯台はいま、海の道標としてだけではなく、歴史的・文化的価値に基づく可能性が広がっています。そこで、灯台の存在意義や利活用について考え、さまざまな施策を行っているのが「海と灯台プロジェクト」です。2020年にスタートしたこのプロジェクトは、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として行われています。

No.	2	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	<a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/4746fb42db34281ec49c37489e68e62e1fcb5735">https://news.yahoo.co.jp/articles/4746fb42db34281ec49c37489e68e62e1fcb5735</a>				

# YAHOO! ニュース

IDでもっと便利に新規取得  
ログイン お買い物がお得になるクーポンがたくさん

キーワードを入力


[トップ](#) [速報](#) [ライブ](#) [エキスパート](#) [オリジナル](#) [みんなの意見](#) [ランキング](#) [有料](#)
[主要](#) | [国内](#) | [国際](#) | [経済](#) | [エンタメ](#) | [スポーツ](#) | [IT](#) | [科学](#) | [ライフ](#) | [地域](#)

## 目に見えない脅威が迫る！？海洋化学汚染を世界中の有識者が議論～Back to Blueが主導する「有害化学物質による海洋汚染ゼロの実現」～

2/23(金) 6:30 配信 1



Eliminating marine chemical pollution:  
a roadmap for Japan and beyond

有害化学物質による海洋汚染ゼロの実現・  
日本のロードマップと方策

都内で「有害化学物質による海洋汚染ゼロの実現」  
をテーマにパネルディスカッションが行われました

日本財団「海と日本プロジェクト」

東京都内で、「有害化学物質による海洋汚染ゼロの実現」をテーマにしたパネルディスカッションが、2024年2月6日に行われました。このディスカッションは、海洋問題に取り組むイギリスのエコノミスト・グループと日本財団による共同イニシアチブ「Back to Blue」が開催。

No.	3	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	<a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/a0b9a75e33771d2987d021074352a41ba68d3ab5">https://news.yahoo.co.jp/articles/a0b9a75e33771d2987d021074352a41ba68d3ab5</a>				

**YAHOO! ニュース** IDでもっと便利に新規取得  
ログイン LINEとつないで毎日5% ※上限あり

キーワードを入力 |

トップ 速報 ライブ エキスパート オリジナル みんなの意見 ランキング 有料

主要 国内 國際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

## アマモで醤油づくりが受賞！中高生が海に関わる研究を行う全国大会～マリンチャレンジプログラム2023全国大会～

2/24(土) 5:00 配信 X f

 SOCIAL INNOVATION NEWS



### 都内でマリンチャレンジプログラム2023 全国大会が行われました

日本財団「海と日本プロジェクト」

「マリンチャレンジプログラム2023全国大会～海と日本PROJECT～」が、2024年2月18日に東京都内で行われました。このプログラムは、日本財団と株式会社リバネスとJASTO（一般社団法人 日本先端科学技術教育人材研究開発機構）が2017年から毎年実施。海・水環境に関するあらゆる研究をする中高生を応援するもので、研究資金助成や研究

No.	4	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	<a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/40a903fc842ba3769beaf6d23b8550bedff0ae8a">https://news.yahoo.co.jp/articles/40a903fc842ba3769beaf6d23b8550bedff0ae8a</a>				

# YAHOO! ニュース

IDでもっと便利に新規取得  
ログイン 誰でもZOZOTOWNが+10%お得に


[トップ](#) [速報](#) [ライブ](#) [エキスパート](#) [オリジナル](#) [みんなの意見](#) [ランキング](#) [有料](#)
[主要](#) | [国内](#) | [国際](#) | [経済](#) | [エンタメ](#) | [スポーツ](#) | [IT](#) | [科学](#) | [ライフ](#) | [地域](#)

## 海×3D！中学生離れしたスゴイ研究成果に専門家も脱帽！～「海洋研究3Dスーパーサイエンスプロジェクト」3期生の研究発表会～

4/18(木) 13:00 配信




日本財団「海と日本プロジェクト」

都内で「海洋研究3Dスーパーサイエンスプロジェクト」3期生の研究発表会が、2024年3月29日に行われました。このプロジェクトは、海や3Dに興味のある中学生が、最新の3D技術を活用して海にまつわる研究を行うもので、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として行われています。

No.	5	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	<a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/09e071dca8d427d770b64206c788c7c841cb031d">https://news.yahoo.co.jp/articles/09e071dca8d427d770b64206c788c7c841cb031d</a>				

**YAHOO! ニュース** IDでもっと便利に新規取得  
ログイン 購る ふるさと納税でPayPayポイントもらえる

キーワードを入力 |

トップ 速報 ライブ エキスパート オリジナル みんなの意見 ランキング 有料

主要 国内 國際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

書籍化に世界的な活動も視野！海ノ民話アニメ～「海ノ民話のまちプロジェクト」によるアニメーション上映会と公開シンポジウム～

4/18(木) 13:00 配信

都内で「海ノ民話のまちプロジェクト」によるアニメーション上映会とシンポジウムが行われました

日本財団「海と日本プロジェクト」

東京都千代田区にある文藝春秋ホールで「海ノ民話のまちプロジェクト」によるアニメーション上映会とシンポジウムが、2024年3月24日と25日に行われました。海ノ民話のまちプロジェクトは、全国各地の海にまつわる民話をアニメ化し、その民話に込められた「想い」「警鐘」「教訓」を伝えていくもので、日本財団「海と日本プロジェクト」の一

No.	6	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	<a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/7229457ff432178fd7ca380da94af9d651ab5106">https://news.yahoo.co.jp/articles/7229457ff432178fd7ca380da94af9d651ab5106</a>				

# YAHOO! ニュース

IDでもっと便利に新規取得  
ログイン 購る ふるさと納税でPayPayポイントもらえる


[トップ](#) [速報](#) [ライブ](#) [エキスパート](#) [オリジナル](#) [みんなの意見](#) [ランキング](#) [有料](#)
[主要](#) | [国内](#) | [国際](#) | [経済](#) | [エンタメ](#) | [スポーツ](#) | [IT](#) | [科学](#) | [ライフ](#) | [地域](#)

## 運航中CO2排出ゼロ！世界初の船で実証成功～日本財団ゼロエミッション船プロジェクト～

4/20(土) 6:15 配信 □ 11



### これは 日本財団ゼロエミッション船プロジェクトの一環です

日本財団「海と日本プロジェクト」

福岡県にある北九州国際会議場イベントホールで、「水素燃料電池による洋上風車作業船の運航実証に関する記者発表会」が、2024年4月4日に行われました。これは「日本財団ゼロエミッション船プロジェクト」の一環です。このプロジェクトは、二酸化炭素を排出しないゼロエミッション船を、世界に先駆けて実用化するべく開発を推進。物流の99%

No.	7	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	<a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/675cf8a3df681663d020920ac4498d928898913c">https://news.yahoo.co.jp/articles/675cf8a3df681663d020920ac4498d928898913c</a>				

**YAHOO! JAPAN ニュース** IDでもっと便利に新規取得  
ログイン LINEとつないで毎日5% ※上限あり

キーワードを入力

トップ 速報 ライフ エキスパート オリジナル みんなの意見 ランキング 有料

主要 国内 國際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

## 瀬戸内海の海洋ごみ問題解決へ延長して取り組み～日本財団と岡山県・広島県・香川県・愛媛県による「瀬戸内オーシャンズX」～

4/22(月) 11:45 配信 X f

SOCIAL INNOVATION NEWS

### 包括的海洋ごみ対策「瀬戸内オーシャンズX」が活動期間の延長と対策の強化について合意

日本財団と瀬戸内4県による包括的海洋ごみ対策プロジェクト「瀬戸内オーシャンズX」が、トップ会合を初めて開催。実施期間を2027年まで延長し、さらに強化して取り組むことを、2024年4月15日に発表しました。

2020年12月に発足した「瀬戸内オーシャンズX」は、日本財団と岡山県、広島県、香川県、愛媛県が共同で推進。

No.	8	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	<a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/6f49926544c12c620d25a05b666140e6fed06148">https://news.yahoo.co.jp/articles/6f49926544c12c620d25a05b666140e6fe d06148</a>				

**YAHOO! JAPAN ニュース** IDでもっと便利に新規取得  
ログイン LINEとつないで毎日5% ※上限あり

キーワードを入力 |

トップ 速報 ライブ エキスパート オリジナル みんなの意見 ランキング 有料

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

## 深海魚愛あふれるプレゼントをした小学5年生が大賞！～「深海研究スーパークリッズ育成プロジェクト」の研究成果発表会～

4/24(水) 15:30 配信 X F

SOCIAL INNOVATION NEWS

日本財団「海と日本プロジェクト」

静岡県にあるCafe&Restaurant Tembooooで、「深海研究スーパークリッズ育成プロジェクト」の研究成果発表会・プログラム修了式が、2024年1月27日に行われました。このプロジェクトは世界に羽ばたく海洋・深海研究のスペシャリストを輩出することを目的に、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として2022年から開始。今回2年目となる

No.	9	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	<a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/19cea42f3c1610ab542fe9299018974f5b25e96e">https://news.yahoo.co.jp/articles/19cea42f3c1610ab542fe9299018974f5b25e96e</a>				

**YAHOO! ニュース** IDでもっと便利に新規取得  
ログイン [1等1万円相当] ハズレなしのくじ引き

キーワードを入力 |

トップ 速報 ライブ エキスパート オリジナル みんなの意見 ランキング 有料

主要 国内 國際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

コスプレイヤーが福岡でごみ拾い～「春の海ごみゼロウィーク2024」の一環として開催された「コスプレde海ごみゼロ大作戦!!」～

6/7(金) 15:10 配信 口 1

このイベントは 環境省と日本財団が実施している  
海洋ごみ対策の全国一斉清掃キャンペーン

日本財団「海と日本プロジェクト」

九州最大の都市・福岡で「コスプレde海ごみゼロ大作戦!!2024春 at福岡」が、2024年6月1日に行われました。このイベントは、環境省と日本財団が2019年から実施している海洋ごみ対策を目的とした全国一斉清掃キャンペーン「海ごみゼロウィーク」の一環として開催。この日は、撮影で使用するロケーションが汚れないように日頃からごみ拾いを

No.	10	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	<a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/f12abc01b8fae98abfe90ba48a34424d1b9a2491">https://news.yahoo.co.jp/articles/f12abc01b8fae98abfe90ba48a34424d1b9a2491</a>				

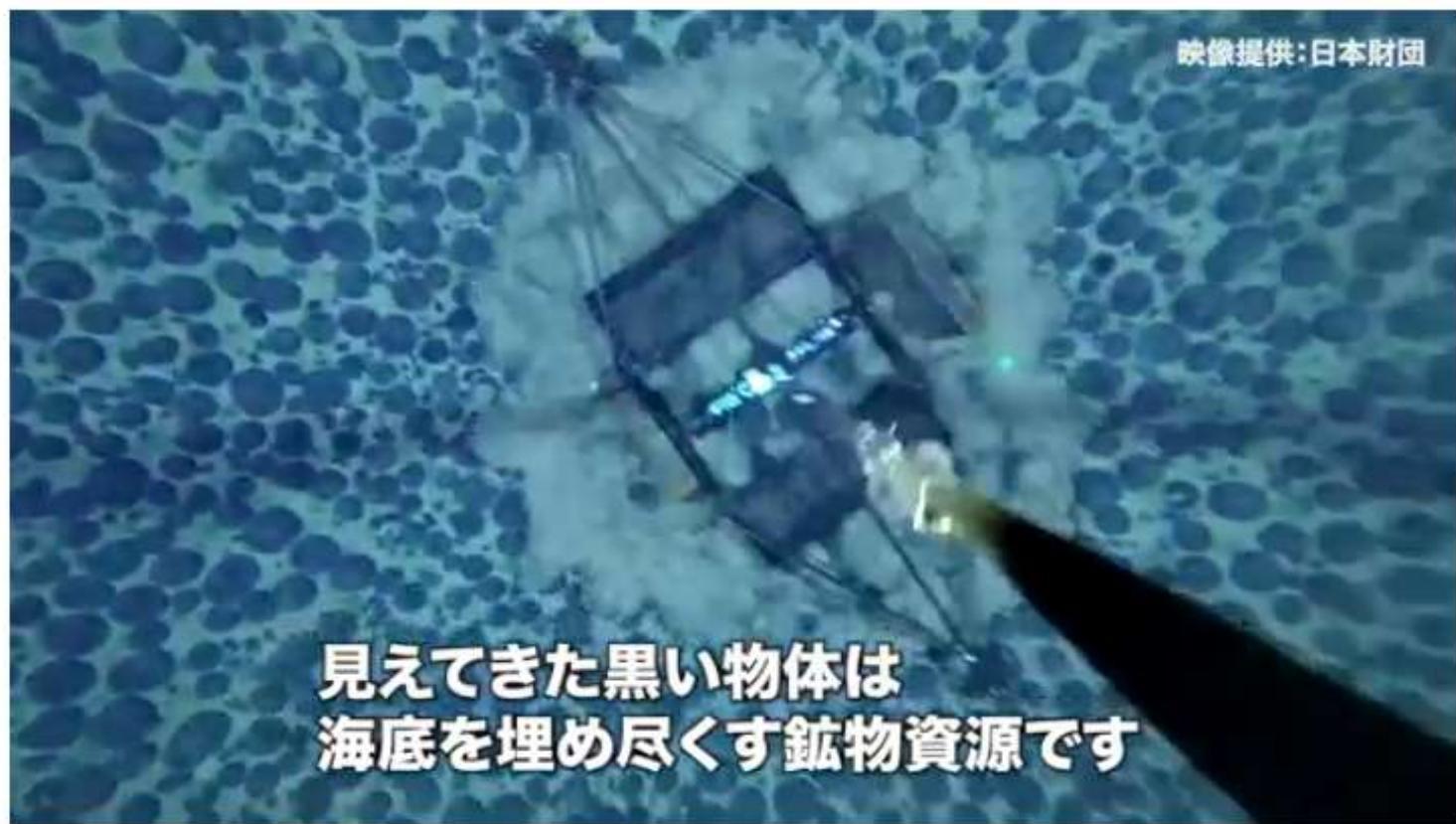
# YAHOO! ニュース

IDでもっと便利に新規取得  
ログイン 初回購入限定、アプリで使えるお得なクーポン


[トップ](#) [速報](#) [ライブ](#) [エキスペート](#) [オリジナル](#) [みんなの意見](#) [ランキング](#) [有料](#)
[主要](#) | [国内](#) | [国際](#) | [経済](#) | [エンタメ](#) | [スポーツ](#) | [IT](#) | [科学](#) | [ライフ](#) | [地域](#)

## 日本財団と東大が大量に発見！レアメタルを含む海底鉱物資源～「マンガンノジユール（マンガン回塊）」に関する調査結果の発表～

6/28(金) 9:40 配信 71



日本財団「海と日本プロジェクト」

日本財団と東京大学が、南鳥島周辺海域における海底鉱物資源の調査結果を2024年6月21日に発表しました。

日本の最東端・南鳥島周辺の海域には、東京大学による2016年の調査によって、鉄やマンガン、電気自動車やスマート

No.	11	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	<a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/9ce1875c3b3913becbe67ec969e3bfe7794bd0f5">https://news.yahoo.co.jp/articles/9ce1875c3b3913becbe67ec969e3bfe7794bd0f5</a>				

# YAHOO! ニュース

IDでもっと便利に新規取得  
ログイン LINEとつないで毎日5% ※上限あり


[トップ](#) [速報](#) [ライブ](#) [エキスパート](#) [オリジナル](#) [みんなの意見](#) [ランキング](#) [有料](#)
[主要](#) | [国内](#) | [国際](#) | [経済](#) | [エンタメ](#) | [スポーツ](#) | [IT](#) | [科学](#) | [ライフ](#) | [地域](#)

## 大の字背浮きにだけ頼ってはいけない！？溺れを体験するVR！新たに“そなえ”を発信した「海のそなえシンポジウム」

7/8(月) 17:50 配信 [コメント 1](#)



### 海のそなえ シンポジウム

水難事故対策の常識を疑う

## 都内で「海のそなえシンポジウム」が開催されました

日本財団「海と日本プロジェクト」

都内で「海のそなえシンポジウム～水難事故対策の常識を疑う～」が、2024年6月19日に開催されました。このイベントは、日本財団が企画・統括し、日本ライフセービング協会、日本水難救済会、一般社団法人うみらい環境財団とコンソーシアムを形成して今年度から活動している「海のそなえプロジェクト」が実施しました。このプロジェクトは日本

No.	12	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	<a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/5e4ad2411998cb177cbf3b6d211ee1f2b04d8eeb">https://news.yahoo.co.jp/articles/5e4ad2411998cb177cbf3b6d211ee1f2b04d8eeb</a>				

# YAHOO! ニュース

IDでもっと便利に新規取得  
ログイン LINEとつないで毎日5% ※上限あり

キーワードを入力


[トップ](#) [速報](#) [ライブ](#) [エキスパート](#) [オリジナル](#) [みんなの意見](#) [ランキング](#) [有料](#)
[主要](#) [国内](#) [国際](#) [経済](#) [エンタメ](#) [スポーツ](#) [IT](#) [科学](#) [ライフ](#) [地域](#)

## 75%の小学生が「海に行きたい！」と思うも行動とのギャップ判明～日本財団による第4回「海と日本人」に関する意識調査～

7/16(火) 15:20 配信 口 6



日本財団「海と日本プロジェクト」

日本財団は、第4回「海と日本人」に関する意識調査の結果発表を行いました。この調査は、2017年から2年に1度実施しているもので、日本人が海に対して持っている意識や行動の実態を明らかにする目的です。

No.	13	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	<a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/309524ebc40b87abe39bff7184cd11bdcb41643d">https://news.yahoo.co.jp/articles/309524ebc40b87abe39bff7184cd11bdcb41643d</a>				

**YAHOO! ニュース** IDでもっと便利に新規取得  
ログイン 購る ふるさと納税でPayPayポイントもらえる

キーワードを入力 |

トップ 速報 ライフ エキスパート オリジナル みんなの意見 ランキング 有料

主要 国内 國際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

## 水難事故防止のために溺れを疑似体験できるVRコンテンツ～日本ライフセービング協会と中央大学が開発した新たな「海のそなえ」～

7/27(土) 6:10 配信 X f

SIN SOCIAL INNOVATION NEWS

この夏始動した 海にまつわる新たなプロジェクト  
「海のそなえプロジェクト」

日本財団「海と日本プロジェクト」

「海のそなえプロジェクト」が2024年の夏から始動。日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として、日本ライフセービング協会、日本水難救済会、うみらい環境財団がコンソーシアムを形成し、海のそなえの新しい常識の浸透を目指にさまざまな活動を展開しています。中でも関心を呼んでいるのが、VRを使った「溺れ体験」のコンテンツです。

No.	14	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	<a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/de92a4eac71fb3cf45b10bf6d44d579ac6e8b724">https://news.yahoo.co.jp/articles/de92a4eac71fb3cf45b10bf6d44d579ac6e8b724</a>				

# YAHOO! ニュース

IDでもっと便利に新規取得  
ログイン 🔑 [毎日必ずあたる] くじ引き開催中


[トップ](#) [速報](#) [ライブ](#) [エキスパート](#) [オリジナル](#) [みんなの意見](#) [ランキング](#) [有料](#)
[主要](#) [国内](#) [国際](#) [経済](#) [エンタメ](#) [スポーツ](#) [IT](#) [科学](#) [ライフ](#) [地域](#)

## 海がない足立区の公立小学校の児童が海体験へ公立小学校への海洋学習・体験提供プロジェクト～

8/2(金) 15:20 配信 □ 8 🎉🎉🎉



日本財団「海と日本プロジェクト」

「公立小学校への海洋学習・体験提供プロジェクト」による「海体験プログラム」が、2024年7月11日に開催されました。このプロジェクトは、足立区・目黒区・練馬区と連携している取り組みで、学校教育において子ども達にリアルな海洋体験を提供しようというもの。日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として行われています。

No.	15	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	<a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/1794ec9fbb4bf1f3046ae4dc6dfe8845265fadb2">https://news.yahoo.co.jp/articles/1794ec9fbb4bf1f3046ae4dc6dfe8845265fadb2</a>				

# YAHOO! ニュース

IDでもっと便利に新規取得  
ログイン 初回購入限定、アプリで使えるお得なクーポン

[トップ](#) [速報](#) [ライブ](#) [エキスパート](#) [オリジナル](#) [みんなの意見](#) [ランキング](#) [有料](#)[主要](#) | [国内](#) | [国際](#) | [経済](#) | [エンタメ](#) | [スポーツ](#) | [IT](#) | [科学](#) | [ライフ](#) | [地域](#)

## テトラポットをつくる会社で小学生がお仕事体験～「海のお仕事体験プロジェクト こどもわーく」～

8/3(土) 6:00 配信



このプロジェクトは日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として開催されているもので

日本財団「海と日本プロジェクト」

茨城県土浦市で「キッズ研究員となって、テトラポットを研究開発するお仕事を体験しよう！」が、2024年7月20日に行われました。これは、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として、子ども達に海のお仕事を通じて、海を身近に感じてもらい、また、海の問題を自分ごととして考えてもらおうという取り組み「海のお仕事体験プロジェクト こどもわーく」です。

No.	16	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	<a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/3530bbcebfc4e697abeee62a995c42a11e2ecc80">https://news.yahoo.co.jp/articles/3530bbcebfc4e697abeee62a995c42a11e2ecc80</a>				

# YAHOO! ニュース

IDでもっと便利に新規取得  
ログイン 購る ふるさと納税でPayPayポイントもらえる

キーワードを入力


[トップ](#) [速報](#) [ライブ](#) [エキスパート](#) [オリジナル](#) [みんなの意見](#) [ランキング](#) [有料](#)
[主要](#) | [国内](#) | [国際](#) | [経済](#) | [エンタメ](#) | [スポーツ](#) | [IT](#) | [科学](#) | [ライフ](#) | [地域](#)

## 神奈川県鎌倉で世界溺水防止デーに行われた“水辺のそなえ”

8/6(火) 15:05 配信

コメント 2



海のそなえプロジェクトHPより

## 調査結果

2024年7月1日～7月26日

## 対象水域



## 性別

## 年齢

全国の水難事故をまとめたデータを  
公開するなどして

12歳以下 13～19歳 20歳以上 不明

61人 19人 3人 9人 9人 60人 5人

日本財団「海と日本プロジェクト」

神奈川県・鎌倉の由比ガ浜海岸で、体験型イベント「海の護身術」、シンポジウム「世界溺水防止デーに考える神奈川の海の安全」が、2024年7月25日に行われました。この日は、「世界溺水防止デー」。溺水防止への認識を高めるために国際連合で決議・採択された国際デーです。残念ながら日本でも溺水事故の件数は、この30年で減っていません。そこで、日本ライフセービング協会、日本水難救済会、うみらい環境財団がコンソーシアムを形成し、海のそなえの新し

No.	17	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	<a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/40f2c4df76c79ae2f66907de037bd72391de66e5">https://news.yahoo.co.jp/articles/40f2c4df76c79ae2f66907de037bd72391de66e5</a>				

# YAHOO! ニュース

IDでもっと便利に新規取得  
ログイン LINEとつないで毎日5% ※上限あり


[トップ](#) [速報](#) [ライブ](#) [エキスパート](#) [オリジナル](#) [みんなの意見](#) [ランキング](#) [有料](#)
[主要](#) | [国内](#) | [国際](#) | [経済](#) | [エンタメ](#) | [スポーツ](#) | [IT](#) | [科学](#) | [ライフ](#) | [地域](#)

## 【前編】静岡県・清水港のコンテナターミナルで小学生がお仕事体験！～「こどもわーくin清水港2024」～

8/26(月) 14:35 配信


**ナレーター 津田明日香**


日本財団「海と日本プロジェクト」

静岡県の清水港で「私たちの生活を支えるコンテナターミナルのお仕事をしよう！」が、2024年8月20日に行われました。このイベントは、子ども達に海の仕事を通じて、海を感じてもらい、また、海の問題を自分ごととして考えてもらおうという「海のお仕事体験プロジェクト こどもわーく」のひとつで、日本財団「海と日本プロジェクト」の一

No.	18	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	<a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/5be30046ca43e02334f06f62ee6a6c910a9e4633">https://news.yahoo.co.jp/articles/5be30046ca43e02334f06f62ee6a6c910a9e4633</a>				

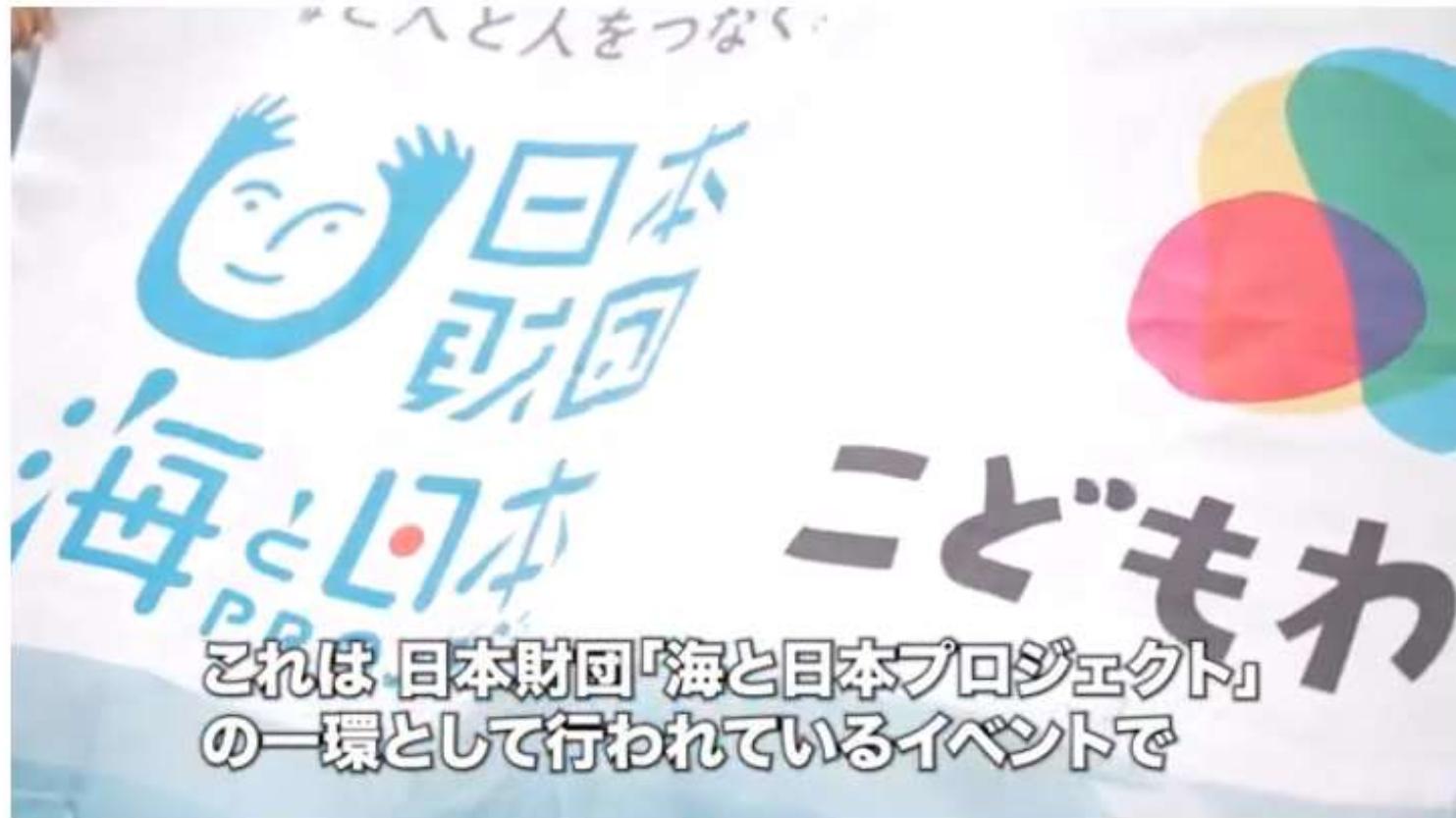
# YAHOO! ニュース

IDでもっと便利に新規取得  
ログイン [毎日必ずあたる] くじ引き開催中

キーワードを入力


[トップ](#) [速報](#) [ライブ](#) [エキスパート](#) [オリジナル](#) [みんなの意見](#) [ランキング](#) [有料](#)
[主要](#) [国内](#) [国際](#) [経済](#) [エンタメ](#) [スポーツ](#) [IT](#) [科学](#) [ライフ](#) [地域](#)

## 【後編】静岡県・清水港のコンテナターミナルで小学生がお仕事体験！～静岡市、日本財団、鈴与が海の未来について意見交換～

8/26(月) 14:35 配信 [X](#) [f](#)

日本財団「海と日本プロジェクト」

静岡県の清水港で、豊かな海を次世代へつなぐための意見交換が、2024年8月20日に行われました。登壇したのは、海に関するさまざまな事業を行っている日本財団の海野光行常務理事、清水港を拠点にしている物流会社・鈴与の高橋明彦取締役副社長、そして、静岡市の難波喬司市長です。

No.	19	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	<a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/a53eff948e994690a8a98d438fa1b759458d5be8">https://news.yahoo.co.jp/articles/a53eff948e994690a8a98d438fa1b759458d5be8</a>				

# YAHOO! ニュース

IDでもっと便利に新規取得  
ログイン LINEとつないで毎日5% ※上限あり

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

エキスパート

オリジナル

みんなの意見

ランキング

有料

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地域

## 【前編】学生による海と食の未来を考える期間限定レストラン。オープンまでの3ヶ月～「THE BLUE CAMP」～

9/10(火) 13:20 配信



日本財団「海と日本プロジェクト」

学生が企画・調理・運営の全てを行った期間限定のポップアップレストランが、2024年8月初旬にオープンしました。このレストランは、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として行われたプログラム「THE BLUE CAMP」の集大成です。

このプログラムは、東京と京都の2か所で開催。選抜された15人の学生が、料理界で活躍するトップシェフたちのもとで海と食の未来について学び、考え、実践します。2年目となる今年のテーマは「和食」。Chefs for the Blueの代表理事で、このプログラムのキャンプ長を務める佐々木ひろこさんは「海の恵みは和食と切り離せない。学生たちにとつてもイメージしやすい分野だと思う」と和食にした理由を語っています。

No.	20	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	<a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/32b73f180e9a5174e00a5175273c3c72ed7dfc16">https://news.yahoo.co.jp/articles/32b73f180e9a5174e00a5175273c3c72ed7dfc16</a>				

**YAHOO! JAPAN ニュース** IDでもっと便利に新規取得 ログイン LINEとつないで毎日5% ※上限あり

キーワードを入力 |

トップ 速報 ライブ エキスパート オリジナル みんなの意見 ランキング 有料

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

## 【後編】学生による海と食の未来を考える期間限定レストラン。オープンまでの3ヶ月～「THE BLUE CAMP」～

9/10(火) 13:20 配信 X 





**これは「THE BLUE CAMP」の学生たちが都内に出店した期間限定のレストランです**

日本財団「海と日本プロジェクト」

前編はこちら（<https://social-innovation-news.jp/?p=1776>）

都内に、「THE BLUE CAMP」の学生たちが出店した期間限定のレストランが、2024年8月6日から8月11日までオープンしました。THE BLUE CAMPは、海に深い関心を持つ学生たちが料理界で活躍するトップシェフたちと共に、海が抱える問題とその先の未来を考え、実践していくプログラムで、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として行われています。2年目となる今年も東京と京都の2か所で同時開催されました。

No.	21	エリア	広島	カテゴリー	ライフ
URL	<a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/c3c65f1df968e833bd253766b39a85ad4e2009f2">https://news.yahoo.co.jp/articles/c3c65f1df968e833bd253766b39a85ad4e2009f2</a>				

**YAHOO! JAPAN ニュース** IDでもっと便利に新規取得  
ログイン お買い物がお得になるクーポンがたくさん

キーワードを入力 |

トップ 連報 ライブ エキスパート オリジナル みんなの意見 ランキング 有料

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

世界初！広島県に水素エンジンの開発研究センターが誕生～日本財団「ゼロエミッション船プロジェクト」が建設した「水素エンジンR&Dセンター」～

9/14(土) 6:10 配信 9

# CO<sub>2</sub>排出ゼロの未来へ出航

## Zero EMISSION SHIPS

日本財団「ゼロエミッション船プロジェクト」の一環として建設されました

日本財団「海と日本プロジェクト」

広島県福山市にある常石造船の敷地内に、ジャパンハイドロ株式会社が運営する「水素エンジンR&D（研究開発）センター」が誕生し、その内覧会と開所式が2024年9月4日に行われました。このセンターでは、水素エンジンの開発から水素の貯蔵、船舶への水素の充填までを一括して行うことが可能で、このような研究開発センターを造船所内に整備したのは、世界初とのことです。

水素社会の実現を見据えたこの最先端の開発拠点は、日本財団「ゼロエミッション船プロジェクト」の一環として建設。このプロジェクトでは、究極のクリーンエネルギー「水素」に注目し、二酸化炭素を排出しないゼロエミッション船を世界に先駆けて実用化するべく、関連技術の開発と実証実験を行っています。2024年4月には、水素燃料電池を搭

No.	22	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	<a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/c03114920c23f6ae2284bbea64854f17847100a1">https://news.yahoo.co.jp/articles/c03114920c23f6ae2284bbea64854f17847100a1</a>				



キーワードを入力

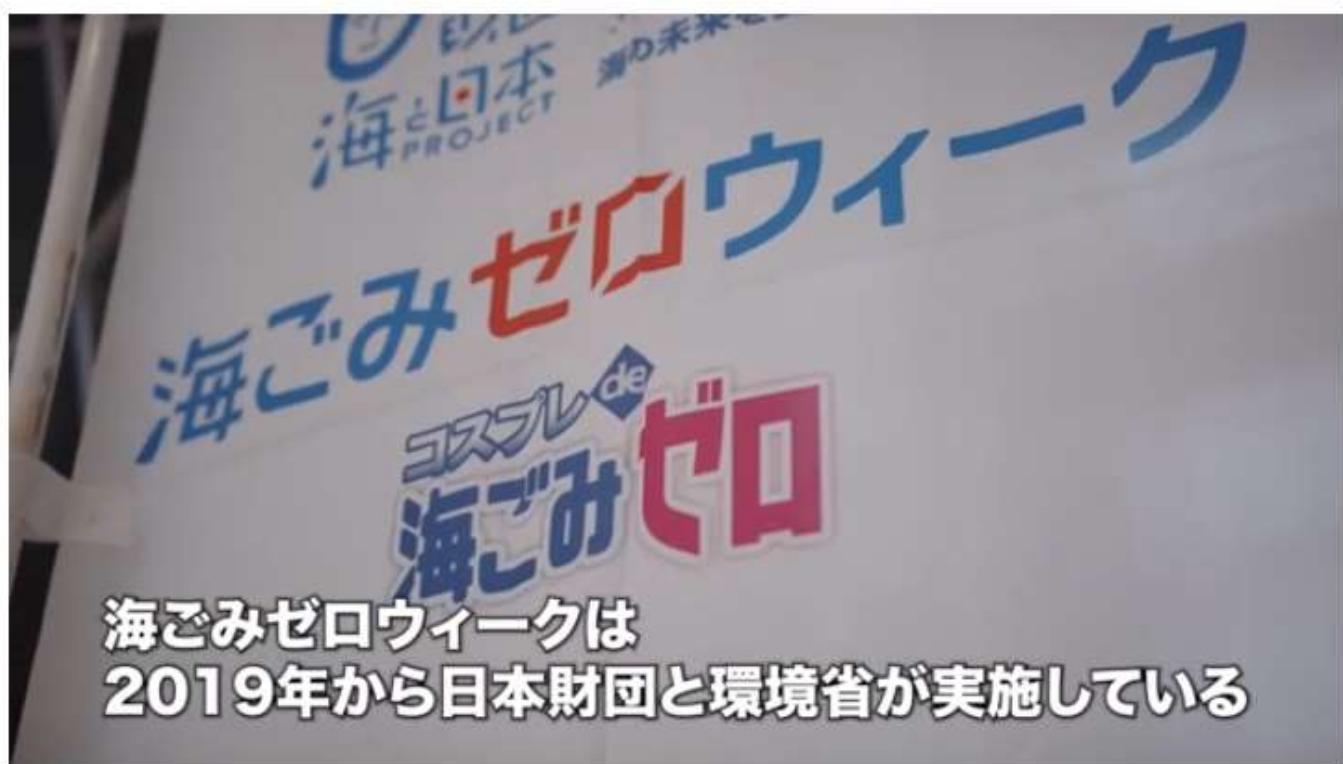


トップ 速報 ライブ エキスパート オリジナル みんなの意見 ランキング 有料

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

## ポケモンに銀魂のキャラも参戦！お台場でコスプレイヤーがごみ拾い～「秋の海ごみゼロウィーク2024」キックオフイベント～

9/25(水) 14:30 配信 口2 🎉 X 📺



日本財団「海と日本プロジェクト」

東京・お台場で「コスプレde海ごみゼロ大作戦!!」が、「秋の海ごみゼロウィーク」のキックオフイベントとして2024年9月21日に行われました。海ごみゼロウィークは、日本財団と環境省が、2019年から実施している海洋ごみ対策を目的とした全国一斉清掃キャンペーンです。

この日に行われた「コスプレde海ごみゼロ大作戦!!」は、今回で8回目。ウィークを盛り上げる恒例のイベントで、コスプレイヤーなど約350人が参加しました。開会式では、登壇した環境省の国定勇人環境大臣政務官が「発生源の約8割を占めている陸からのプラスチックの流出を止めていかなくてはいけない」と語りました。

そして、開会式での「海ごみゼロ！」の掛け声の後、清掃活動がスタート。参加者は分別用のごみ袋とトングを持ち、

No.	23	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	<a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/c85244bd07232bf30181f0b93b04a98696c9bc23">https://news.yahoo.co.jp/articles/c85244bd07232bf30181f0b93b04a98696c9bc23</a>				

**YAHOO! ニュース** IDでもっと便利に新規取得  
ログイン 購る ふるさと納税でPayPayポイントもらえる

キーワードを入力 |

トップ 速報 ライブ エキスパート オリジナル みんなの意見 ランキング 有料

主要 国内 國際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

## 参加は30カ国以上！「日本財団 スポGOMI ワールドカップ 2025」の開催を発表

10/4(金) 16:15 配信 X F

SOCIAL INNOVATION NEWS

「日本財団 スポGOMIワールドカップ2025」の開催が発表されました

日本財団「海と日本プロジェクト」

「日本財団 スポGOMI ワールドカップ 2025」の開催が決まり、2024年10月1日に発表されました。

「ス poGOMI」とは、ごみ拾いを競技化した日本発祥のスポーツ。2008年に誕生して以来、拡大を続け、2023年には海洋ごみ対策を行う日本財団「海と日本プロジェクト・CHANGE FOR THE BLUE」の一環として初のワールドカップ

No.	24	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	<a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/11cb8cd30a1fcfc5339bc64690e956abe9e2f612">https://news.yahoo.co.jp/articles/11cb8cd30a1fcfc5339bc64690e956abe9e2f612</a>				

# YAHOO! ニュース

IDでもっと便利に新規取得  
ログイン  【くじ引き開催中】毎日必ずあたる！



トップ

速報

ライブ

エキスパート

オリジナル

みんなの意見

ランキング

有料

[主要](#) | [国内](#) | [国際](#) | [経済](#) | [エンタメ](#) | [スポーツ](#) | [IT](#) | [科学](#) | [ライフ](#) | [地域](#)

## サザエさん&モデルの香音さんが参加した海イベント～イトーヨーカドーで海と日本プロジェクト×サザエさんによる親子向けイベント開催～

10/11(金) 11:45 配信



日本財団「海と日本プロジェクト」

イトーヨーカドー アリオ北砂店で、サザエさんと日本財団「海と日本プロジェクト」がコラボしたイベントが、2024年10月5、6日に開催されました。これは豊かな海を次世代に引き継ぐために、アクションの輪を広げていくことを目的としています。

No.	25	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	<a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/74b31fd0388946bf95d05560a6d09b59be93f683">https://news.yahoo.co.jp/articles/74b31fd0388946bf95d05560a6d09b59be93f683</a>				

**YAHOO! ニュース** IDでもっと便利に新規取得  
ログイン お買い物がお得になるクーポンがたくさん

キーワードを入力

トップ 速報 ライブ エキスパート オリジナル みんなの意見 ランキング 有料

主要 国内 國際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

## スーパー・キッズ9人の中で頂点に立ったのは！？～「第4回 海洋インフォグラフィックコンテスト」～

10/12(土) 10:00 配信

日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として行われています

都内で「第4回 海洋インフォグラフィックコンテスト」が、2024年9月21日に行われました。

日本財団「海と日本プロジェクト」

このコンテストは全国の小学生から「海の研究レポート」を募集。厳選された9人が、プロのデザイナーとタッグを組

No.	26	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	<a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/259cd19ead90013ec165de77f4901c6ad2fa4986">https://news.yahoo.co.jp/articles/259cd19ead90013ec165de77f4901c6ad2fa4986</a>				

# YAHOO! ニュース

IDでもっと便利に新規取得  
ログイン [おトク] 10%OFFクーポンあります



トップ 速報 ライブ エキスパート オリジナル みんなの意見 ランキング 有料  
 主要 国内 國際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

## 直木賞作家4人も参加！有識者が灯台について語り合イベント～海と灯台プロジェクトの集大成「海と灯台サミット2024」～

2024/11/9(土) 5:50 配信 X F



日本財団「海と日本プロジェクト」

都内で「海と灯台サミット2024」が11月3日に行われました。（主催：一般社団法人 海洋文化創造フォーラム 共催：日本財団 海上保安庁）

近代日本の幕開けとともに誕生した灯台は、海上交通の安全を守る道標としての伝統的役割を超え、現代では多様な可

No.	27	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	<a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/1c6bd8ec446b4e61eccd15acb5db9b22109f4f5c">https://news.yahoo.co.jp/articles/1c6bd8ec446b4e61eccd15acb5db9b22109f4f5c</a>				

# YAHOO! ニュース

IDでもっと便利に新規取得  
ログイン 初回購入限定、アプリで使えるお得なクーポン



トップ 速報 ライブ エキスパート オリジナル みんなの意見 ランキング 有料

主要 国内 國際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

## 国内最大！洋上風力発電の訓練センターが長崎県に誕生～日本財団洋上風力人材育成センター～

2024/11/15(金) 17:50 配信

SOCIAL INNOVATION NEWS



### 長崎県の伊王島に 国内最大となる 洋上風力人材育成センターが誕生しました

日本財團「海と日本プロジェクト」

長崎県の伊王島に国内最大となる洋上風力人材育成センターが誕生し、その開所式が2024年11月7日に行われました。

脱炭素社会への実現に向けて、切り札とされているのが洋上風力発電。全国各地で建設が進む中、人材の育成が急務と

No.	28	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	<a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/e53e0fd18fa716d9b4102ebfc7ed65fcf1fc776">https://news.yahoo.co.jp/articles/e53e0fd18fa716d9b4102ebfc7ed65fcf1fc776</a>				

**YAHOO! JAPAN ニュース** IDでもっと便利に新規取得  
ログイン [おトク] 10%OFFクーポンあります

キーワードを入力 |

トップ 速報 ライブ エキスパート オリジナル みんなの意見 ランキング 有料

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

## 優勝し東京代表となったのは!? 高校生23チームがごみ拾いでバトル!!～スポGOMI甲子園2024・東京都大会～

2024/11/18(月) 17:05 配信 X Facebook

SOCIAL INNOVATION NEWS

東京・お台場周辺で開催されたのが  
スポGOMI甲子園2024・東京都大会です

日本財団「海と日本プロジェクト」

「スポGOMI甲子園2024・東京都大会」が、お台場周辺で11月2日に開催されました。このイベントは、高校生ごみ拾い日本一を決める全国大会の予選のひとつで、日本財団「海と日本プロジェクト・CHANGE FOR THE BLUE」の一環として行われました。この東京都大会には全23チームがエントリーし、優勝すると全国大会に出場することができま

No.	29	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	<a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/df6836c0e59a6bad6fc575f62ba80acbdbe6c2f3">https://news.yahoo.co.jp/articles/df6836c0e59a6bad6fc575f62ba80acbdbe6c2f3</a>				

**YAHOO! ニュース** IDでもっと便利に新規取得  
ログイン お買い物がお得になるクーポンがたくさん

キーワードを入力  |

トップ 速報 ライブ エキスパート オリジナル みんなの意見 ランキング 有料

主要 国内 國際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

## LNG燃料船における安全訓練を第二海堡で実施～東南アジアの船員教育関係者が訓練生～

2024/11/20(水) 15:30 配信 X F

SUN SOCIAL INNOVATION NEWS

### そこで 日本財団とIMO(国際海事機関)などによる

日本財団「海と日本プロジェクト」

LNG燃料船における消防訓練が、第二海堡にある防災訓練所で2024年11月5日に行われました。

LNGとは天然ガスを超低温に冷却し液化したもので、従来の化石燃料と比べると環境負荷が低く、船舶用の代替燃料として活用が進められています。そのLNG燃料船の普及に合わせて世界各国で急務となっているのが、安全な運航を担う船員の育成です。そこで、IMO（国際海事機関）、日本財団、一般社団法人 日本船舶技術研究協会が協働して実施した

No.	30	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	<a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/ef5c396518cffaa23cef2588fb6d8bcd1965f845">https://news.yahoo.co.jp/articles/ef5c396518cffaa23cef2588fb6d8bcd1965f845</a>				

**YAHOO! JAPAN ニュース** もっと便利に新規取得  
[ログイン](#)  [おトク] 10%OFFクーポンあります

キーワードを入力



トップ 速報 ライブ エキスパート オリジナル みんなの意見 ランキング 有料

主要 国内 國際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

## 「海のごちそう？フェスティバル2024」開催！ごちそうの後のハテナの意味は？～藤井サチ、ホフディラン、Caravanなど豪華ゲストも参加した海と人とをつなぐ食イベント～

2024/11/22(金) 10:45 配信 X 



日本財団「海と日本プロジェクト」

「海のごちそう？フェスティバル2024」が、六本木にある東京ミッドタウンで11月9日と10日の2日間に渡って行われました。このイベントは、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として、「食」を取り口に海と人とをつなげる取り組みを行っている「海のごちそうプロジェクト」が、1年間の集大成として2021年から毎年実施しています。

No.	31	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	<a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/d004bcfad27bcb033116eb60bb58e319445b819a">https://news.yahoo.co.jp/articles/d004bcfad27bcb033116eb60bb58e319445b819a</a>				

**YAHOO! ニュース** IDでもっと便利に新規取得  
ログイン 購る ふるさと納税でPayPayポイントもらえる

キーワードを入力

トップ 速報 ライブ エキスパート オリジナル みんなの意見 ランキング 有料

主要 国内 國際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

## 高校生チャンピオン決定！スポーツごみ拾い全国大会～「スポGOMI甲子園2024」優勝は埼玉県代表～

2024/12/6(金) 10:20 配信 4 X

### 東京都墨田区

### 東京スカイツリー周辺で開催された スポGOMI甲子園の全国大会

日本財団「海と日本プロジェクト」

●日本一の高校生ごみ拾いチームが決定！『日本財団「海と日本プロジェクト」スポGOMI甲子園2024・全国大会』開催！

『日本財団「海と日本プロジェクト」スポGOMI甲子園2024・全国大会』が、東京スカイツリー周辺で12月1日に開催

No.	32	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	<a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/11b8b9d1be4dc3e9cb99fa2bc39ed1a6f14fbe63">https://news.yahoo.co.jp/articles/11b8b9d1be4dc3e9cb99fa2bc39ed1a6f14fbe63</a>				

# YAHOO! JAPAN ニュース

IDでもっと便利に新規取得  
ログイン 購入 ふるさと納税でPayPayポイントもらえる

キーワードを入力


[トップ](#) [速報](#) [ライブ](#) [エキスパート](#) [オリジナル](#) [みんなの意見](#) [ランキング](#) [有料](#)
[主要](#) | [国内](#) | [国際](#) | [経済](#) | [エンタメ](#) | [スポーツ](#) | [IT](#) | [科学](#) | [ライフ](#) | [地域](#)

パナソニックや環境省も参加！エビデンス・ディスカッション・グルメから海藻の養殖を広めるためのイベント開催～「GOOD SEA DAY：海藻が支えるネイチャーポジティブ」～

2024/12/25(水) 12:55 配信



日本財團「海と日本プロジェクト」

都内で「GOOD SEA DAY：海藻が支えるネイチャーポジティブ」が、2024年12月19日に行われました。このイベントは、「海藻を通じて海の生態系を豊かに育むこと」を目的とし、海洋生態系などを調査研究する一般社団法人グッドシーが開催しました。

No.	33	エリア	静岡	カテゴリー	ライフ
URL	<a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/b07981cfe941e8f635bfae9e618231d32629f61b">https://news.yahoo.co.jp/articles/b07981cfe941e8f635bfae9e618231d32629f61b</a>				

**YAHOO! JAPAN ニュース** IDでもっと便利に新規取得  
ログイン [おトク] 10%OFFクーポンあります

キーワードを入力 | 

トップ 速報 ライブ エキスパート オリジナル みんなの意見 ランキング 有料

主要 国内 國際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

## ローカル列車の旅で学ぶ海草・アマモと浜名湖の異変～静岡県の天浜線で行われた「アマモ探検ツアー」～

1/23(木) 17:40 配信 111 X  



このイベントを主催した  
「浜名湖ワンダーレイク・プロジェクト」は

日本財團「海と日本プロジェクト」

「天浜線アマモ探検ツアー」が、天竜浜名湖鉄道の期間限定列車を活用して2024年12月15日に行われました。

天浜線の愛称で親しまれている「天竜浜名湖鉄道」は、その名の通り、浜名湖のそばを通る静岡県のローカル鉄道。実

No.	34	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	<a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/98204baf68dbd94b8b6bcfe8b4a4f187b42771f6">https://news.yahoo.co.jp/articles/98204baf68dbd94b8b6bcfe8b4a4f187b42771f6</a>				

# YAHOO! ニュース

IDでもっと便利に新規取得  
ログイン お買い物がお得になるクーポンがたくさん

キーワードを入力


[トップ](#) [速報](#) [ライブ](#) [エキスパート](#) [オリジナル](#) [みんなの意見](#) [ランキング](#) [有料](#)
[主要](#) | [国内](#) | [国際](#) | [経済](#) | [エンタメ](#) | [スポーツ](#) | [IT](#) | [科学](#) | [ライフ](#) | [地域](#)

## 日本初！海の変化に東京大学と全国の若手漁業者が連携して取り組み～「海洋環境変化対応プロジェクト」が本格始動～

1/25(土) 6:00 配信 □ 1



日本財団「海と日本プロジェクト」

日本財団、全漁連（全国漁業協同組合連合会）、東京大学大気海洋研究所による「海洋環境変化対応プロジェクト」が本格的にスタートすると、2025年1月20日に発表されました。

いま日本近海では、海水温の上昇や魚の生息域が移動するといった海洋環境の劇的な変化が起こっています。その変化

No.	35	エリア	富山 福井	カテゴリー	ライフ
URL	<a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/95ace67d4650c7f13c4236700c3e73a696f0c49e">https://news.yahoo.co.jp/articles/95ace67d4650c7f13c4236700c3e73a696f0c49e</a>				

# YAHOO! ニュース

IDでもっと便利に新規取得  
ログイン 毎日5%おトク ※条件・上限あり

キーワードを入力


[トップ](#) [速報](#) [ライブ](#) [エキスパート](#) [オリジナル](#) [みんなの意見](#) [ランキング](#) [有料](#)
[主要](#) [国内](#) [国際](#) [経済](#) [エンタメ](#) [スポーツ](#) [IT](#) [科学](#) [ライフ](#) [地域](#)

## ドンジャラから宇宙食まで！高校生が挑む海洋資源と地域活性化

1/29(水) 16:25 配信



日本財団「海と日本プロジェクト」と  
おもちゃメーカーのバンダイが共同で開発したもの

日本財団「海と日本プロジェクト」

日本は海に囲まれている国ですが、海離れが深刻化しています。その解決の鍵となるのが、次世代を担う「高校生」です。日本財団が2024年に行った第4回「海と日本人」に関する意識調査（<https://uminohi.jp/research/survey16.html>）によると、高校生は全世代の中で海に最も関心があるという結果に。そこで今回は、海にまつわる取り組みをしている高校生を取り上げます。

No.	36	エリア	北海道 岡山 香川	カテゴリー	ライフ
URL	<a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/5f21c865f607e5c0541fc86ff156220431d41ade">https://news.yahoo.co.jp/articles/5f21c865f607e5c0541fc86ff156220431d41ade</a>				

# YAHOO! ニュース

IDでもっと便利に新規取得  
ログイン お買い物がお得になるクーポンがたくさん

キーワードを入力


[トップ](#) [速報](#) [ライブ](#) [エキスパート](#) [オリジナル](#) [みんなの意見](#) [ランキング](#) [有料](#)
[主要](#) | [国内](#) | [国際](#) | [経済](#) | [エンタメ](#) | [スポーツ](#) | [IT](#) | [科学](#) | [ライフ](#) | [地域](#)

## 漁業支援の革新：AI技術、クロダイ活用、ヒトデで地域活性化を目指す挑戦

1/31(金) 15:00 配信 2



日本財団「海と日本プロジェクト」

力ギの生産量で全国3位の岡山県。中でも瀬戸内市邑久町は県内有数の産地です。しかし、近年、増加したクロダイによって養殖の力ギが食べられる「食害」が多発しています。邑久町漁協の松本正樹組合長は「年間で言うと、邑久町漁協だけでも1億円ぐらいの力ギ養殖の食害が起こっている。生産者も色々な工夫をしているが、やはり増えたクロダイには勝てない」と嘆いています。漁業者にとってはたいそう困った魚・クロダイなのですが、実は食べてみると、とてもおいしいのだそう。そこで、このクロダイを使ったご当地弁当の開発が進められることに。生産者と消費者が共に喜

No.	37	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	<a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/0fcf3b197d0f42ba7c2d8ff5280754535fe51a4c">https://news.yahoo.co.jp/articles/0fcf3b197d0f42ba7c2d8ff5280754535fe51a4c</a>				

**YAHOO! JAPAN ニュース** IDでもっと便利に新規取得  
ログイン [おトク] 10%OFFクーポンあります

キーワードを入力 |

トップ 速報 ライブ エキスパート オリジナル みんなの意見 ランキング 有料

主要 国内 國際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

世界初！能登半島地震の前後で起こった海と陸の地形変化を完全可視化～全国で航空測量を行う「海の地図PROJECT」が緊急調査～

2/5(水) 9:55 配信 口 1

SOCIAL INNOVATION NEWS

提供:日本財団

## 日本財団と日本水路協会が推進する 「海の地図PROJECT」

日本財団「海と日本プロジェクト」

- 能登半島地震の影響を可視化！最新の海底地形データを発表

「海の地図PROJECT」が、能登半島地震と豪雨災害の前後での海底地形データの変化について、2025年1月31日に発表しました。日本財団と日本水路協会が推進する「海の地図PROJECT」(<https://social-innovation-news.jp/>)

No.	38	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	<a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/93f9852ac554404463ed4899b23d6154b331a784">https://news.yahoo.co.jp/articles/93f9852ac554404463ed4899b23d6154b331a784</a>				

# YAHOO! ニュース IDでもっと便利に新規取得 JAPAN ログイン [おトク] 10%OFFクーポンあります

キーワードを入力



トップ 連報 ライブ エキスパート オリジナル みんなの意見 ランキング 有料

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

## 高校生がサンゴの猛毒を研究！抗がん剤開発にも意欲！～「マリンチャレンジプログラム」全国大会～

2/21(金) 15:45 配信 ☎ 1 ☺ X f



これは 海洋分野の科学的な研究に挑戦する  
中高生たちの全国大会マリンチャレンジプログラム

日本財団「海と日本プロジェクト」

### ●全国の中高生が挑戦する海洋研究プロジェクト

都内で「マリンチャレンジプログラム2024 全国大会～海と日本PROJECT～」が、2025年2月15日に開催されました。マリンチャレンジプログラム（<https://marine.s-castle.com/>）は、海・水環境に関わる科学的な研究に挑戦する中高生を応援するもので、日本財団と株式会社リバネスと一般社団法人 日本先端科学技術教育人材研究開発機構

No.	39	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	<a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/a09e639f54c8dd6ea7e0d1cbc04057cdb40f2279">https://news.yahoo.co.jp/articles/a09e639f54c8dd6ea7e0d1cbc04057cdb40f2279</a>				

**YAHOO! ニュース** IDでもっと便利に新規取得  
ログイン [おトク] 10%OFFクーポンあります

キーワードを入力 |

トップ 速報 ライブ エキスパート オリジナル みんなの意見 ランキング 有料

主要 国内 國際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

## 「灯台×観光」など全国で進む新たな利活用～「海と灯台プロジェクト2024 成果報告会」レポート～

2/27(木) 17:20 配信

全国の灯台で実施された  
さまざまなイベントや利活用事例を発表する

日本財團「海と日本プロジェクト」

都内で「海と灯台プロジェクト2024 成果報告会」が、2025年2月20日に開催されました。

海の道標である灯台は、日本全国に約3000基ありますが、近年は廃止などの理由から減少傾向です。一方で、その多

No.	40	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	<a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/a9f7a9c034d90139a66d484a249e8b1d5de17e9b">https://news.yahoo.co.jp/articles/a9f7a9c034d90139a66d484a249e8b1d5de17e9b</a>				

## YAHOO! ニュース ID: じゅつご 便利に新規取得

[ログイン](#) 初回購入限定、アプリで使えるお得なクーポン

キーワードを入力


[トップ](#) [速報](#) [ライブ](#) [エキスパート](#) [オリジナル](#) [みんなの意見](#) [ランキング](#) [有料](#)
[主要](#) | [国内](#) | [国際](#) | [経済](#) | [エンタメ](#) | [スポーツ](#) | [IT](#) | [科学](#) | [ライフ](#) | [地域](#)

### 石破首相も登壇！日本で初開催の「ワールド・オーシャン・サミット」

3/12(水) 22:45 配信



1



日本財団「海と日本プロジェクト」

都内で「ワールド・オーシャン・サミット2025」が、3月12日に開幕しました。このイベントは、海洋の持続可能な活用と保全をテーマにした国際会議で、イギリスのエコノミスト・インパクトと日本財団が共催。12回目となる今回は日本で初めて開催されました。

初日となるこの日、内閣総理大臣で総合海洋政策本部長も兼ねる石破茂首相も登壇し、「国民が海と親しむ機会がものすごく減っている。今は『海で泳いだことがない』という子どもたちが非常に多い。そして、泳げない先生もたくさんいる。そして海に親しむ機会が減っていることは、非常に憂慮すべきことだと思っている。これから先わが国は“島国”から“海洋大国”を目指していきたい。そして、海の安全・平和・資源の利用に向けてもっと責任を果たしていくたい」など、内外の海洋問題に対して見解を述べました。

## 4 素材提供リスト

## 4.素材提供リスト

116

No.	提供素材	提供先一覧		URL(備考)
		放送県名	提供先・媒体名	
1	ゼロエミッション船記者発表	全国	海と日本プロジェクトin○○事業	撮影素材 <a href="https://storyteller.box.com/s/qqj25aqr0zkb233y9kxce8faw5o9o9vx">https://storyteller.box.com/s/qqj25aqr0zkb233y9kxce8faw5o9o9vx</a>
2	アマモ場のアーカイブ映像	全国	海と日本プロジェクト公式Instagram	
3	スポGOMI甲子園	鹿児島	鹿児島読売テレビ	
4	海のそなえシンポジウム	全国	海と日本プロジェクトin○○事業	<a href="https://storyteller.box.com/s/fiqniru6lsd74zly2ud8i8tsi9c9n3k4">https://storyteller.box.com/s/fiqniru6lsd74zly2ud8i8tsi9c9n3k4</a>
5	いま知つておくべき水難事故防止のそなえ ～「溺れないため」と「万が一の対処法を身に着ける」という2つの水辺のそなえ～	全国	海と日本プロジェクト公式Instagram	
6	南鳥島周辺海域における海底鉱物資源の調査結果発表	全国	海と日本プロジェクトin○○事業	<a href="https://storyteller.box.com/s/wplgmklxs7oe3h478fruamizwoxd85w">https://storyteller.box.com/s/wplgmklxs7oe3h478fruamizwoxd85w</a>
7	水辺の事故防止！浮いて救助を本当に待てる？ ～ライフセーバーが教える水難事故防止のための実践的な「そなえ」【後編】～	全国	海と日本プロジェクト公式Instagram	
8	コスプレde海ごみゼロ大作戦!!@福岡	全国	海と日本プロジェクト公式Instagram	
9	マリンチャレンジプログラム2023全国大会	全国	日本テレビ「真相報道バンキシャ！」	<a href="https://storyteller.box.com/s/p9133g2dcbofuavz8q2mwh43rr2mpgec">https://storyteller.box.com/s/p9133g2dcbofuavz8q2mwh43rr2mpgec</a>
10	「海と日本人」に関する意識調査2024	全国	日本財団海と日本プロジェクトin○○事業	<a href="https://storyteller.box.com/s/oyk0cqejg82hk7zk692otqzi0hhfeck33">https://storyteller.box.com/s/oyk0cqejg82hk7zk692otqzi0hhfeck33</a>
11	「海のお仕事体験プロジェクト こどもわーく」「三者鼎談」	全国	・日本財団「海と日本プロジェクト」海のコラム ・アクトインディ株式会社	<a href="https://storyteller.app.box.com/s/um4gc1a7n3hbmo1qt0u1jc1s700yy3h5">https://storyteller.app.box.com/s/um4gc1a7n3hbmo1qt0u1jc1s700yy3h5</a>

No.	提供素材	提供先一覧		URL(備考)
		放送県名	提供先・媒体名	
12	海のお仕事体験プロジェクト こどもわーく「テトラポッドを研究開発するお仕事」	全国	株式会社 不動テトラ	完パケ <a href="https://storyteller.box.com/s/tb1psuyjdrz775z051y9qgmdkgq22uoq">https://storyteller.box.com/s/tb1psuyjdrz775z051y9qgmdkgq22uoq</a> 白素材 <a href="https://storyteller.box.com/s/6oicn4sc1aal68apwv4xiq4hvlpi0gtv">https://storyteller.box.com/s/6oicn4sc1aal68apwv4xiq4hvlpi0gtv</a> 不動テトラHP掲載 <a href="https://www.fudotetra.co.jp/news/%E3%83%86%E3%83%88%E3%83%A9%E3%83%9D%E3%83%83%E3%83%89%E3%82%92%E7%A0%94%E7%A9%B6%E9%96%8B%E7%99%BA%E3%81%99%E3%82%8B%E3%81%8A%E4%BB%95%E4%BA%8B%E3%82%92%E9%96%8B%E5%82%AC/">https://www.fudotetra.co.jp/news/%E3%83%86%E3%83%88%E3%83%A9%E3%83%9D%E3%83%83%E3%83%89%E3%82%92%E7%A0%94%E7%A9%B6%E9%96%8B%E7%99%BA%E3%81%99%E3%82%8B%E3%81%8A%E4%BB%95%E4%BA%8B%E3%82%92%E9%96%8B%E5%82%AC/</a>
13	コスプレde海ごみゼロ大作戦2024 ! @お台場	全国	日本財団海と日本プロジェクトin○○事業	<a href="https://storyteller.box.com/s/uondzqauxnokj562oz1uesxyw2bghqkv">https://storyteller.box.com/s/uondzqauxnokj562oz1uesxyw2bghqkv</a>
14	海底ごみのアーカイブ映像	全国	海と日本プロジェクト公式 Instagram	
15	スポGOMIワールドカップ記者発表	全国	日本財団海と日本プロジェクトin○○事業	<a href="https://storyteller.box.com/s/6buxo8nvmt3ud650530fq6dkjg3ajp1">https://storyteller.box.com/s/6buxo8nvmt3ud650530fq6dkjg3ajp1</a>
16	海と灯台サミット	全国	海と日本プロジェクトin○○事業	<a href="https://storyteller.box.com/s/jy3op1tkhlx9lwrixpf24jqh83oqtp3u">https://storyteller.box.com/s/jy3op1tkhlx9lwrixpf24jqh83oqtp3u</a>
17	日本財団洋上風力人材育成センター開所式	全国	日本財団	<a href="https://storyteller.box.com/s/f1hu89phygyyku9h8w6woqrjg2ts3ljz">https://storyteller.box.com/s/f1hu89phygyyku9h8w6woqrjg2ts3ljz</a>
18	海のごちそう ? フェスティバル	全国	海と日本プロジェクトin○○事業各メディア	<a href="https://storyteller.box.com/s/9cl33yhv2s1cvcpad540a3oyg7wl1noa">https://storyteller.box.com/s/9cl33yhv2s1cvcpad540a3oyg7wl1noa</a>

No.	提供素材	提供先一覧		URL(備考)
		放送県名	提供先・媒体名	
19	スポGOMI甲子園 全国大会	全国	海と日本プロジェクトin○○事業各メディア	
20	スポGOMI甲子園 全国大会	青森	青森朝日放送「ハッピイ」	<a href="https://storyteller.box.com/s/mejqs59o1spk2sd8eadfyhwexxrmfl38">https://storyteller.box.com/s/mejqs59o1spk2sd8eadfyhwexxrmfl38</a>
21	スポGOMI甲子園 全国大会2022	全国	Yahoo!ニュース	
22	海野常務の発表	日本財団	海野常務の発表資料	<a href="https://storyteller.box.com/s/zereoewvzmia9eix0r0xd4605whir6ic">https://storyteller.box.com/s/zereoewvzmia9eix0r0xd4605whir6ic</a>
23	海の地図プロジェクト記者発表	全国	海と日本プロジェクトin○○事業など各メディア	<a href="https://storyteller.box.com/s/5rb13ip6jj4la4zqkrispvb6izp0qj8x">https://storyteller.box.com/s/5rb13ip6jj4la4zqkrispvb6izp0qj8x</a>
24	「移動型」陸上支援センター完成披露	全国	日本財団様が各メディアへの配布	<a href="https://storyteller.box.com/s/ca7fod1fkak67zfqt2bvei3pri7bm88i">https://storyteller.box.com/s/ca7fod1fkak67zfqt2bvei3pri7bm88i</a>
25	マリンチャレンジプログラム全国大会	全国	海と日本プロジェクトin○○事業各メディア	<a href="https://storyteller.box.com/s/z0kig0thv0zv21gqmvjvqnctxpfki3k4h">https://storyteller.box.com/s/z0kig0thv0zv21gqmvjvqnctxpfki3k4h</a>
26	灯台成果報告会	全国	海と日本プロジェクトin○○事業各メディア	<a href="https://storyteller.box.com/s/b7rxy8k33g91vdqn8iw1kioavsx6zr11">https://storyteller.box.com/s/b7rxy8k33g91vdqn8iw1kioavsx6zr11</a>
27	ワールド・オーシャン・サミット	全国	日本財団様用	<a href="https://storyteller.box.com/s/hr50qi6meppi9vz4fjn2pooy3xgu69n">https://storyteller.box.com/s/hr50qi6meppi9vz4fjn2pooy3xgu69n</a>
28	ワールド・オーシャン・サミット	全国	海と日本プロジェクトin○○事業および各メディア	<a href="https://storyteller.box.com/s/y0hm974hcw8vga57d0u8ksyv4sescv8d">https://storyteller.box.com/s/y0hm974hcw8vga57d0u8ksyv4sescv8d</a>
29	海ノ民話アニメーション2024完成披露イベント&上映会	全国	海ノ民話のまちプロジェクト	<a href="https://storyteller.box.com/s/hmuezg4bt9ikcmbopwedkb162951tpow">https://storyteller.box.com/s/hmuezg4bt9ikcmbopwedkb162951tpow</a>

## 5 アーカイブ映像

## 5\_(1)目的

海と日本プロジェクトの公式ページでの「海洋ごみ」や「海ごみ」での検索流入が常に上位であり、また、「海洋ごみの事情ページ」もアクセス数が高く、海洋ごみへの注目度が非常に高いことから、海洋ごみ関連の映像素材を無料で提供するアーカイブサイトを開設し、アーカイブ映像に「日本財団 海と日本プロジェクト」ロゴを入れることで、プロジェクトの認知度を高める。

## 5\_(2)実施内容

今年度はこれまでの「海洋ごみ」や「川ごみ」の映像素材に加えて、新たに「漁港関連」というタブを追加。

海と日本プロジェクト広報への素材提供の問い合わせで多かった「漁港の空撮（需要が高いドローンとの掛け合わせ）」、「漁港などでの海産物の水揚げシーン」を撮影し、アーカイブ化した。さらに、海底ごみをメインに、藻場やサンゴ群生などを水中ドローンで撮影した映像や、富士山などの地域のシンボリックなものと海の実景映像も素材化して、さらなるアーカイブの充実化を図った。

【ソーシャル・イノベーション・ニュースアーカイブサイトURL】

<https://social-innovation-news.jp/download/>

## 5\_(3)利用者状況

▼ダウンロード数 67件

▼主な利用者

- ・放送局
- ・映像制作会社
- ・映像ディレクター
- ・NPO法人
- ・高校や大学などの学校